王寺町文化財保存活用地域計画

平成 31 年 3 月　作成

令和 元 年 7 月　認定

奈良県

王 寺 町

第１章　地域計画の作成にあたって 1
１－１．　背景と目的 1
（１）　背　景 1
（２）　目　的 1
１－２．　計画期間 3
１－３．　行政的位置づけ 3
１－４．　体制と経緯 8
第２章　王寺町の成り立ち 10
２－１．　社会的環境 10
（１）　位　置 10
（２）　地　勢 11
（３）　町域の変遷 12
（４）　人　口 13
（５）　交通網 14
（６）　土地利用 15
（７）　産　業 17
（８）　法規制 21
２－２．　自然環境 22
（１）　気　候 22
（２）　地　質 22
（３）　生態系 23
２－３．　災害履歴 26
（１）　水　害 26
（２）　地すべり 28
（３）　火　災 28
（４）　地　震 28
２－４．　歴史的変遷 29
（１）　先史－王寺のあけぼの 29
（２）　古代－大和の玄関口・王寺 30
（３）　中世－王寺の武士団と寺院 33
（４）　近世－大和川がある王寺の生活 37

（５） 近代－「鉄道のまち」王寺のはじまり 39
（６） 現代－住宅地の開発と王寺に暮らす人々 43

第３章　文化財に関わる取組みの経過 44

３－１．　指定及び登録の文化財 44

３－２．　文化財の調査 48

（１） 周知の埋蔵文化財包蔵地 48
（２） 奈良県による調査報告書 49
（３） 地域史の刊行 52
（４） 王寺町による文化財把握 53
（５） 住民にとって身近な文化財の把握 66

３－３．　文化財の保存 69

（１） 指定文化財 69
（２） 未指定文化財 69
（３） 防災対策 70

３－４．　文化財の活用 71

（１） 指定文化財 71
（２） 生涯学習 72
（３） 学校教育との連携 74
（４） 情報発信 76

３－５．　民間団体の活動 79

（１） 王寺観光ボランティアガイドの会 79
（２） 片岡八郎公顕彰会 80

３－６．　雪丸の活用 81

（１） マスコットキャラクターの雪丸 81
（２） 雪丸ミニプラザ 81
（３） 雪丸ロード 81
（４） 雪丸グッズ 81
（５） 雪丸スイーツ 82
（６） 雪丸ドローン 82
（７） Ｙｕｋｉｍａｒｕ　Ｔａｌｋ 82
（８） 人工無脳ロボット 82
（９） まちで出会う雪丸 83

第４章　王寺町の歴史文化 ……84
４－１．　成り立ちと取組みから見た特徴 ……84

第５章　文化財による王寺町のまちづくり ……88
５－１．　保存と活用に関する課題 ……88
５－２．　保存と活用に関する方針 ……93
（１）　保存と活用のコンセプト ……93
（２）　保存と活用の関する方針 ……94
５－３．　関連文化財群の設定 ……96
（１）　関連文化財群とは ……96
（２）　王寺町の関連文化財群 ……97

第６章　文化財によるまちづくりのための事業計画 ……108
６－１．　保存と活用に関する措置 ……108
（１）　保存と活用に関する措置 ……108
（２）　文化財によるまちづくりの未来像 ……116
６－２．　保存・活用の推進体制 ……118
６－３．　事務処理特例の適用 ……120
（１）　事務処理の特例 ……120
（２）　文化財登録原簿への登録の提案 ……120

第１章　地域計画の作成にあたって

１－１．背景と目的

（１）背　景

文化財は、地域の歴史や文化の理解に欠かせないものとして、地域の人々の営みと関わりながら、連綿と受け継がれてきました。文化財の本質的な価値を理解し、共有して後世に伝えていくことは、現在の私たちが担うべき重要な役割となっています。

しかし、全国的に過疎化や少子高齢化が進展することで、文化財を継承する担い手が不足し始め、そのことに起因する滅失や散逸から文化財をいかに守るのかが大きな課題となっています。王寺町においても、平成 27 年の老年人口の割合が全人口の 26％を占める一方で、年少人口の割合は 14％と少子高齢化が進み、人口についても平成 7 年の約 24,500 人をピークに減少し、平成 27 年には約 23,000 人まで落ち込みました。現在は約 24,000 人まで増加したものの、地域社会を支える人たちの高齢化に加えて住民の価値観が多様化しており、王寺町の文化財をどう維持・継承していくのかという課題はますます大きくなるばかりといえます。こうしたなか、近年は、まちづくりを進める上で、地域の特色ある文化財を掘り起こし、活用する機運が全国的に高まってきており、王寺町においても地域の魅力を語るために文化財が活用されるようになっています。

（２）目　的

このような背景を踏まえ、平成 30 年 3 月 6 日に「文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律案」が閣議決定され、国会での審議を経て、平成 30 年 6 月 1 日に成立、同 8 日に公布され、平成 31 年 4 月 1 日から施行されることとなりました。法改正の主眼は、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や地方文化財保護行政の推進力の強化にあり、未指定を含めた文化財をまちづくりに生かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことが目指されています。

奈良県では、平成 29 年に「奈良県文化振興大綱」が策定され、県が有する多くの文化財を活用した文化芸術振興に取り組まれているほか、平成 30 年からは、保存と活用を両輪とする新たな需要に応じた体系的な総合政策を進め、文化財の持続的な保護を図っていくことをねらいとした「これからの文化財保護の体系」の策定が進められており、文化財保護法第 183 条の 2 に基づいて都道府県が定める文化財の総合的な施策の大綱の基礎とされる予定です。

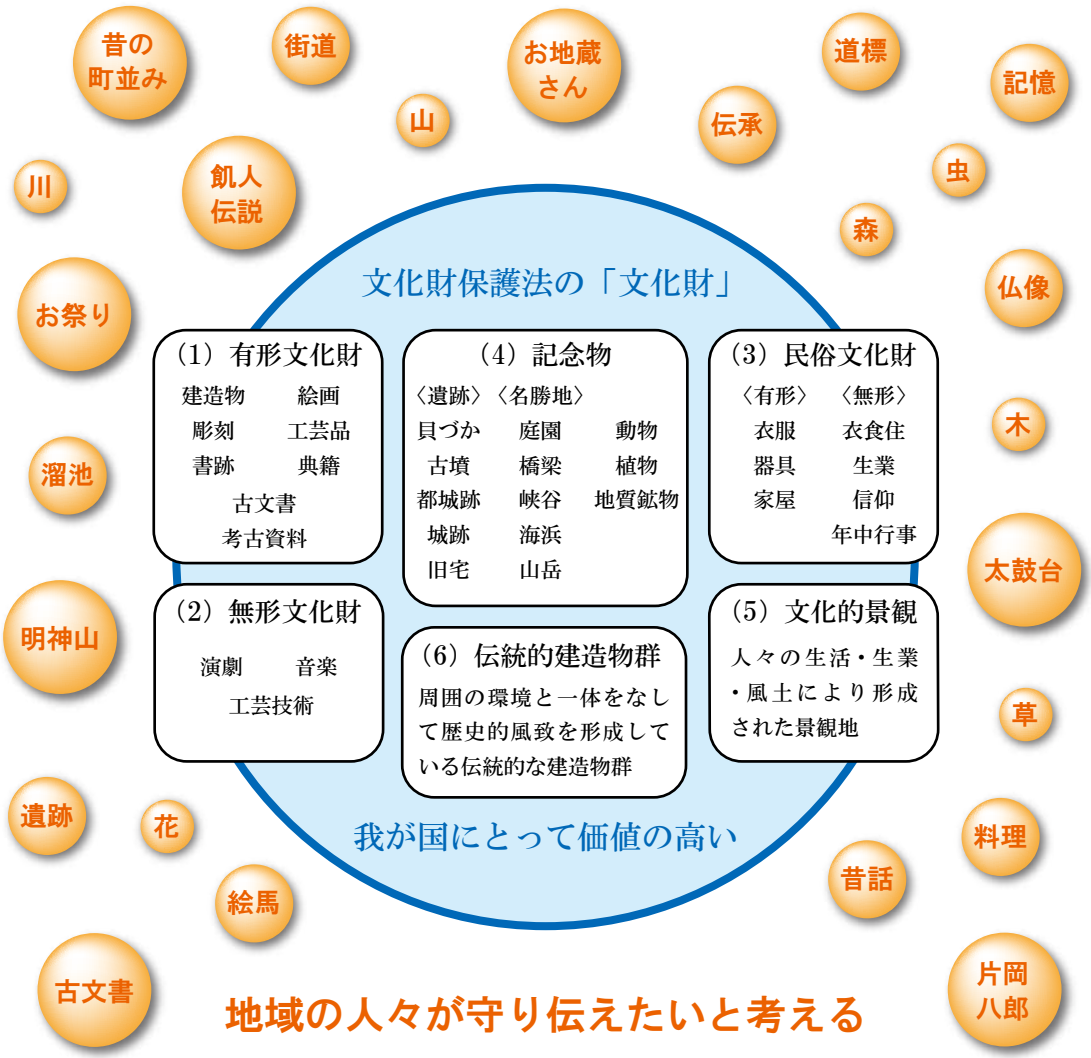
王寺町では、住民・地域・町などの多様な主体が連携して、指定・未指定にかかわらずあらゆる文化財とその周辺環境までを一体的に捉えて計画的に保存・活用を図るため、文化財保護法第 183 条の 3 に基づき、「王寺町文化財保存活用地域計画」（以下「地域計画」という）を作成します。

王寺町文化財保存活用地域計画で指す「文化財」の範囲

文化財保護法の規定によれば、「文化財」は６つの類型からなり、かつ、我が国にとって価値の高いものが「文化財」であると定義されています。それらのなかで重要なものが重要文化財などに指定され、また、奈良県文化財保護条例・王寺町文化財保護条例に基づいて、奈良県・王寺町にとって重要な文化財が県指定・町指定文化財に指定されます。

この地域計画では、法令によって指定されない未指定のものはもちろん、我が国にとって価値が高いといえなくても地域にとって価値が高いもの、また、一般に歴史遺産や文化資源と呼ばれるような歴史上の人物、伝承・伝説、文化財を支える技術や用材、人々の活動など、文化財保護法の類型におさまらないものも含め、地域の人々が守り伝えたいと考える物（モノ）・事（コト）・所（トコロ）のすべてを広く「文化財」として捉え、保存・活用のための計画を取りまとめます。

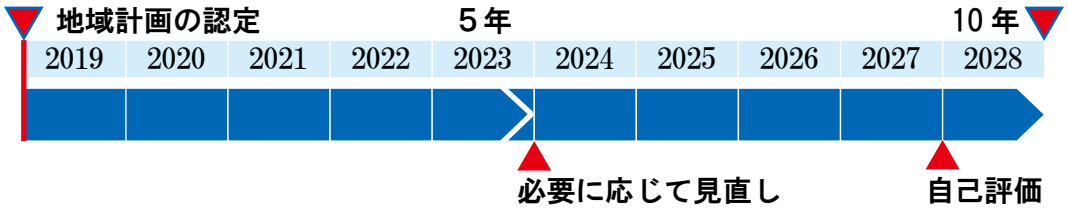
王寺町文化財保存活用地域計画で捉える「文化財」



１－２．計画期間

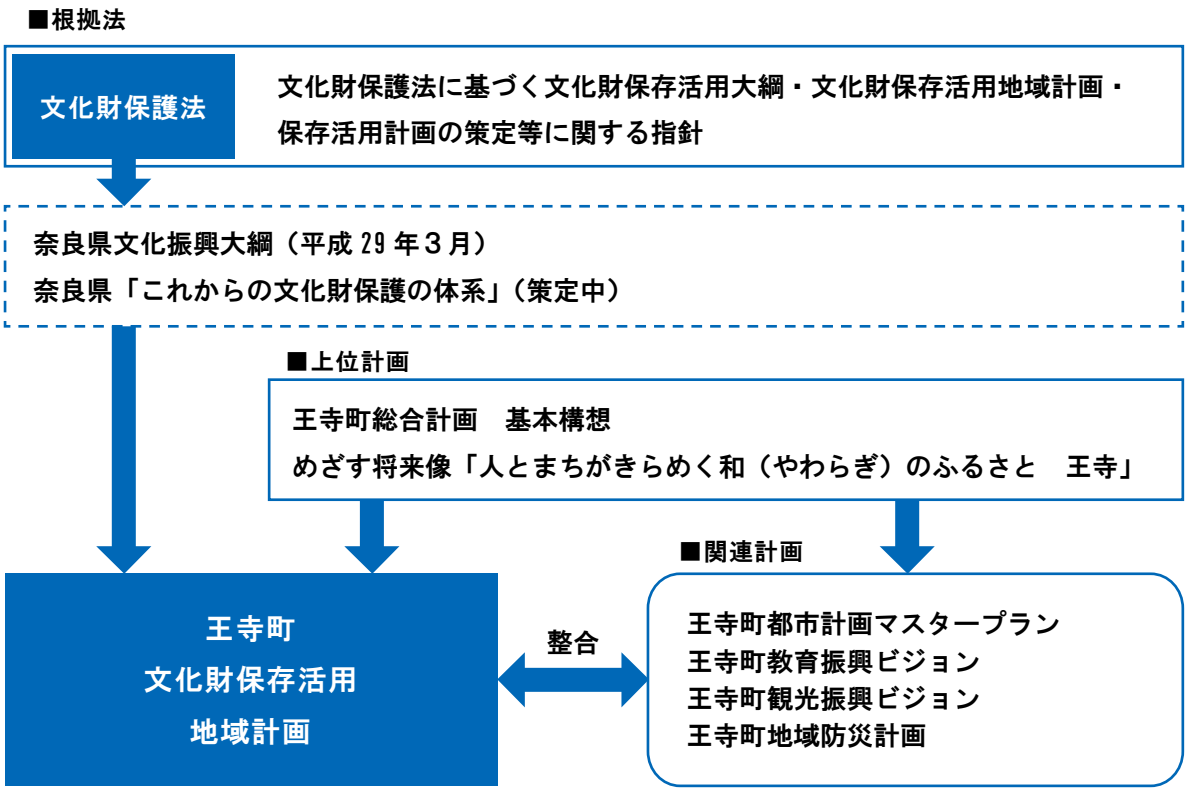
地域計画の計画期間は、2019 年度から 2028 年度の 10 年間とします。

なお、地域計画の着実な実施のため、適切に進捗管理し、必要に応じて見直しを行うとともに、計画期間終了前の適当な時期に自己評価を行い、その結果を次期地域計画へ反映させます。



１－３．行政的位置づけ

地域計画は、文化財保護法第 183 条の 3 に基づき、王寺町における文化財の総合的な保存・活用の指針として作成するものです。作成にあたっては、「王寺町総合計画」を上位計画とし、「王寺町都市計画マスタープラン」や「王寺町教育振興ビジョン」、「王寺町観光振興ビジョン」などの関連計画との整合を図ります。



＜図１- １　地域計画の位置づけ＞

上位計画と関連計画における文化財の取組み状況について

【王寺町総合計画　2019-2028】

まちの将来像を「人とまちがきらめく和（やわらぎ）のふるさと　王寺／豊かな自然のなかみんなでつくる心つながるまち」と定めています。文化財に関しては、まちづくり目標４「人を育みみんなが学べるまちづくり」のなかに政策 17「歴史・文化・スポーツ活動の振興」を設定し、そのなかの施策 33「文化財」で「文化財を核とした人々の交流により文化財の保存・活用が進むまち」を目指す姿としています。また、そこでは、以下の取組みが位置づけられています。

＜王寺町総合計画　文化財に関わる取組み＞

取組み	内容
「王寺町文化財保存活用地域計画」の実現	「王寺町文化財保存活用地域計画」の着実な推進を図り、多様な関係者が参画した地域社会総がかりによる文化財の継承を目指します。
「王寺町文化財保存活用地域計画」に基づくにぎわいづくり	住民と協働して文化財の保存・活用を進めるために、町の魅力を物語る文化財に関して重点的に情報発信するとともに、それらの文化財を気軽に周遊できるサイン・歩道等を整備します。
ふるさと寄附金による文化財の保存・活用に対する支援	多くの住民が文化財の保存・活用に参画できるよう、達磨寺方丈の保存修理工事完成後も、その他の文化財事業に対する寄附金を募ります。
達磨寺方丈の歴史的空間を生かしたイベントの開催	達磨寺方丈の保存修理工事完成後には、方丈の歴史的な空間を生かしたコンサートの開催や、ギャラリーとしての利用等を通して、多様な人々の交流を生み出します。
西安寺跡発掘調査の公開と活用	西安寺跡の発掘調査と整備を進めるにあたり、住民と協働で保存・活用を図っていけるよう、現地説明会を実施して発掘調査現場を公開します。また、史跡公園として整備し、学校教育・生涯学習だけでなく、観光資源として活用します。
片岡王寺跡の発掘調査	義務教育学校の開校後、王寺小学校跡地において片岡王寺跡の発掘調査を実施し、どのような寺院であったのかを明らかにした上で、町を象徴する遺跡として、また、誰もが町の歴史文化に触れ・学ぶことのできる場として整備・活用します。
明神山からの歴史眺望	明神山は、標高 273.6m と低い山ながら、大和平野・大阪平野ともに視界が広がり、巨大な前方後円墳を含む大王墓の移動や、仏教伝来等が、壮大な歴史絵巻物のように想像できます。こうした歴史的眺望も王寺町にとっての重要な文化財として捉え、眺望を楽しむため、アプリを利用した解説のほか、眺望をガイドできる人材を養成します。
住民と一体となった文化財の保存・活用	住民と行政が一体となって文化財の保存･活用を進められるよう、住民が調査･保全活動や公開事業などに関わることのできるサークルを設立し、その輪を広げていきます。また、王寺観光ボランティアガイドの会の増員やＳＮＳ等を用いた情報発信の強化によって、世代を超えて郷土愛が育まれるよう取り組みます。
文化財の継続調査と保存・展示施設の整備	町の歴史文化を後世に伝えるため、未発掘・未整理の文化財の調査・整理事業を継続します。また、それらの文化財を一括して永続的に保存・展示できる施設について、かつての町の中心地であった義務教育学校開校後の王寺小学校跡地に整備を検討します。

【王寺町都市計画マスタープラン】

都市づくりの理念について「水と緑と歴史文化が身近に感じられ、活力あふれる西和地域の拠点都市を目指す」としており、自然環境、歴史資源、都市景観の形成について次のとおり方針づけがなされています。

＜都市づくりの基本方針、自然環境と歴史資源の保全と利活用＞

基本方針	内容
自然環境と歴史資源の保存と利活用	自然資源、歴史・文化資源の保存と利活用
	水と緑による周遊ネットワークの形成
	身近に感じることのできる自然景観の保全と利活用 風格ある美しい都市景観の形成

＜都市施設の整備方針、都市景観の形成＞

整備方針	内容
①自然環境の保全	景観保全地区に指定されている明神山の観光資源としての利活用の推進 片岡山の緑の保全
②良好な街なみ景観の形成	幹線道路歩道の植栽等による風格のある都市空間の形成 住民による花いっぱい運動の推進

【王寺町教育振興ビジョン】（教育振興基本計画）

施策の展開では、「１．王寺を誇る心を育む」のなかで、「基本施策１－１　郷土愛の醸成と地域特性を生かした学習の提供」、「基本施策１－２　豊かな自然環境を生かした学習の提供」、「基本施策１－３　文化・芸術に親しむ機会の提供」が設定され次の取組みが示されています。

＜基本施策　郷土愛の醸成と地域特性を生かした学習の提供の取組み例＞

主な取組み	内容	具体的な取組み
身近な地域の自然や歴史、文化、産業等の理解の促進	○地域住民や関係機関等との連携のもと、地域の施設や人材、文化財等の地域資源の活用を推進 ○王寺の歴史や良さを学ぶことができる学習活動の充実	○「王寺町の歴史探訪」学習 ○聖徳太子の愛犬「雪丸」の活用 ○「わたしたちのまち王寺（社会科副読本）の作成と活用
文化・歴史への意識向上	○学校教育や生涯学習講座、広報媒体等を活用し、王寺の文化・歴史に対する住民意識の向上	○小中学校への講演
文化財の保存・整備・活用の推進	○町内の貴重な文化財を永く後世に残していくため、住民や関係機関等との連携のもと、文化財の保存活動や整備の推進 ○展示会等の開催や常時文化財を展示できるスペースの確保	○指定文化財の保存、整備 ○文化財の展示

【王寺町観光振興ビジョン】

王寺町観光振興ビジョンで目指す将来像は「町の資源（ポテンシャル）に光を当て、輝かせることで、新たな魅力を創り、日本全国・世界へと王寺町の魅力を発信していきます」とし、「もっと輝くまち、もっと住みよいまち、オンリー『わん』なまち王寺町／『ワン』を以て貴しと為す」のサブタイトルがつけられています。その位置づけは、「本計画は、平成 33 年（2021）の聖徳太子御遠忌に向け、聖徳太子ゆかりの地王寺町の観光地としての魅力を高めるためのコンセプトや目指すべき将来像について観光・商業関係者や住民の皆様で共有する指針」としています。平成 29 年から平成 33 年の 5 年間を計画期間とし、次の計画目標を設定しています。

＜計画目標＞

指標	現状	目標(H33)
達磨寺来訪者数 （出典：王寺町地域交流課）	3,571人 H27	5,000人
王寺町周辺宿泊者数 （出典：観光予報プラットフォーム）	24,000人 H27	60,000人
王寺駅（JR/近鉄）利用者数（定期外） （出典：奈良県統計年鑑）	9,451人/日 H26	11,000人

観光戦略として、西和地域を周遊観光する来訪者のための観光拠点化、「太子ゆかりの里」にテーマを絞った情報発信・プローモーションの推進や王寺町の資源や特徴をつなぎ、王寺町独自のオンリー「わん」なテーマ設定による体験型の観光を目指すとしています。

＜王寺町周辺エリアにおける観光テーマの事例＞

【王寺町地域防災計画】

王寺町地域防災計画では、文化財災害応急対策のなかで「文化財の応急対策は文化財の安全性を確保することを第一の目的とする。応急措置は、文化財的価値が損なわぬよう、被害の拡大を防止するよう実施する。復旧については将来の本格的な保存修理の方針や、今後予想される新たな災害への対策などを視野にいれた対応を検討し、専門家と十分に協議し対策を図る」としており、その応急対策などとして次の内容を示しています。

第１　災害状況の把握

指定文化財の所有者又は管理者は、災害が発生したときには、文化財の被害状況を直ちに教育委員会を通じて、町に報告する。

第２　被害状況の調査と応急措置

現地調査の結果、二次災害の発生や、破損の進行、破損部位の滅失、散逸等の可能性があると判断された場合は、県と連携し所有者及び管理者とともに応急措置を講じる。

第３　復旧対策

別表「文化財災害応急処置」により、被害状況の結果をもとに、町教育委員会は県と連携し、所有者及び管理者とともに今後の復旧計画の策定を行う。

第４　大規模災害における応急対策

町域において大規模な災害が発生し、行政機関の機能が著しく低下し、単独では十分に被害状況を調査等が実施できない場合、県及び近隣市町村等（文化財保護関係機関を含む。以下同じ。）への支援を要請する。

＜文化財災害応急処置＞

災害別	種別とその応急対策
1.火災	1．焼損 素材が脆くなっている場合が多いので取り扱いは専門家の指示に従う。 2．煤、消火剤等による汚損 除去作業は専門技術を要するので専門家の指示に従う。 3．水損 通気をよくし、自然乾燥を旨とするが、美術工芸品等移動可能なものは安全な場所に移動し、低温で乾燥させ、カビの発生に注意する。状況に応じて専門家の指示に従う。
2.風水害	1．物理的な損傷 部材・破損等はもれなく集め、別途に収納保管し、滅失や散逸のないように注意する。 2．水損 火災の水損に準ずる。 3．崖崩れ等による建造物の傾斜 二次災害に十分配慮し、被害の拡大を防ぐため、支持材等により補強を施す。
3.全般	被害状況を写真等で記録する。美術工芸・有形民俗指定品においては、収蔵する建物の損壊等により、現状のまま保管することが危険である場合は、取扱いに慎重を期し、安全な場所に移動する。

１－４．体制と経緯

地域計画の作成にあたっては、学識経験者・地元有識者・地域住民・行政関係者から構成される「王寺町歴史文化基本構想策定委員会」（以下「委員会」という）を設置し、王寺町教育委員会事務局生涯学習課と王寺町地域整備部地域交流課を事務局として検討を行いました。

＜王寺町歴史文化基本構想策定委員会名簿＞

【委　員】８名　　（敬称略）

分野	氏名	所属
学識経験者（民俗）	◎ 鹿谷　　勲	王寺町文化財保護審議会副会長 奈良民俗文化研究所代表
学識経験者（歴史資料）	幡鎌　一弘	王寺町文化財保護審議会委員 天理大学文学部教授
学識経験者（美術工芸）	神田　雅章	王寺町文化財保護審議会委員 龍谷大学文学部教授
学識経験者（建造物）	石川　慎治	王寺町文化財保護審議会委員 滋賀県立大学人間文化学部准教授
学識経験者（考古）	清水　昭博	帝塚山大学文学部教授
学識経験者（公共政策）	高津　融男	奈良県立大学地域創造学部教授
文化財保護	○ 日野　輝彦	奈良県文化財保護指導委員（王寺・上牧地区）
町　民	佐野　純子	王寺町観光協会アドバイザー 奈良県ビジターズビューロー理事

◎は委員長　○は副委員長を示す。

【オブザーバー】７名

学識経験者（自然）	芳田　智史	奈良県立生駒高等学校教諭
町　民	荒井　隆昭	王寺観光ボランティアガイドの会会長
県行政	名草　康之	奈良県教育委員会事務局文化財保存課課長
県行政	建石　　徹	奈良県地域振興部文化資源活用課課長
町行政	和田　正英	王寺町総務部部長
町行政	植野　善信	王寺町地域整備部部長
町行政	中井　一喜	王寺町教育委員会教育次長

【事務局】３名

藤本　忠司	王寺町教育委員会事務局生涯学習課課長
前田日出高	王寺町地域整備部地域交流課課長
岡島　永昌	王寺町地域整備部地域交流課文化資源活用係係長（兼教育委員会事務局）

委員会は平成 30 年 7 月 9 日に第 1 回、平成 30 年 11 月 12 日に第 2 回、平成 31 年 2 月 15 日に第 3 回、平成 31 年 3 月 22 日に第 4 回を開催し、計 4 回の委員会で議論を重ねました。当初は歴史文化基本構想の策定を目指していましたが、文化財保護法の改正にともない、第 2 回委員会からは文化財保存活用地域計画の作成に移行して進めました。また、平成 30 年 10 月 5 日～ 11 月 2 日に「王寺町の自慢したい『モノ・コト・トコロ』コンテスト」を、平成 31 年 3 月 6 日～ 3 月 17 日に地域計画案に対するパブリックコメントを実施し、地域計画の作成について地域住民からの意見を募るとともに、平成 31 年 2 月 15 日に王寺町文化財保護審議会を開催し、地域計画案に対する意見を聴取しました。

＜作成の経緯＞

名称	期日	場所	内容
第 1 回委員会	平成 30 年 7 月 9 日	やわらぎ会館	1．委員長・副委員長の選任 2．歴史文化基本構想の概要と策定スケジュールについて 3．王寺町の社会的状況・歴史的背景等の現状把握について
地域住民からの意見聴取	平成 30 年 10 月 5 日～ 11 月 2 日	町内全域	王寺町の自慢したい『モノ・コト・トコロ』コンテスト
第 2 回委員会	平成 30 年 11 月 12 日	やわらぎ会館	1．文化財保存活用地域計画への移行について 2．地域計画の現状把握の部分に関する叙述案について 3．地域計画の方針の概要案について 4．その他
第 3 回委員会	平成 31 年 2 月 15 日	やわらぎ会館	1．文化財保存活用地域計画（素案）について
文化財保護審議会からの意見聴取	平成 31 年 2 月 15 日	やわらぎ会館	1．文化財保存活用地域計画（素案）について
パブリックコメントの実施	平成 31 年 3 月 6 日～ 3 月 17 日	町内全域	文化財保存活用地域計画（案）について
第 4 回委員会	平成 31 年 3 月 22 日	王寺町役場	1．文化財保存活用地域計画（案）について 2．文化財保存活用地域計画概要版（案）について

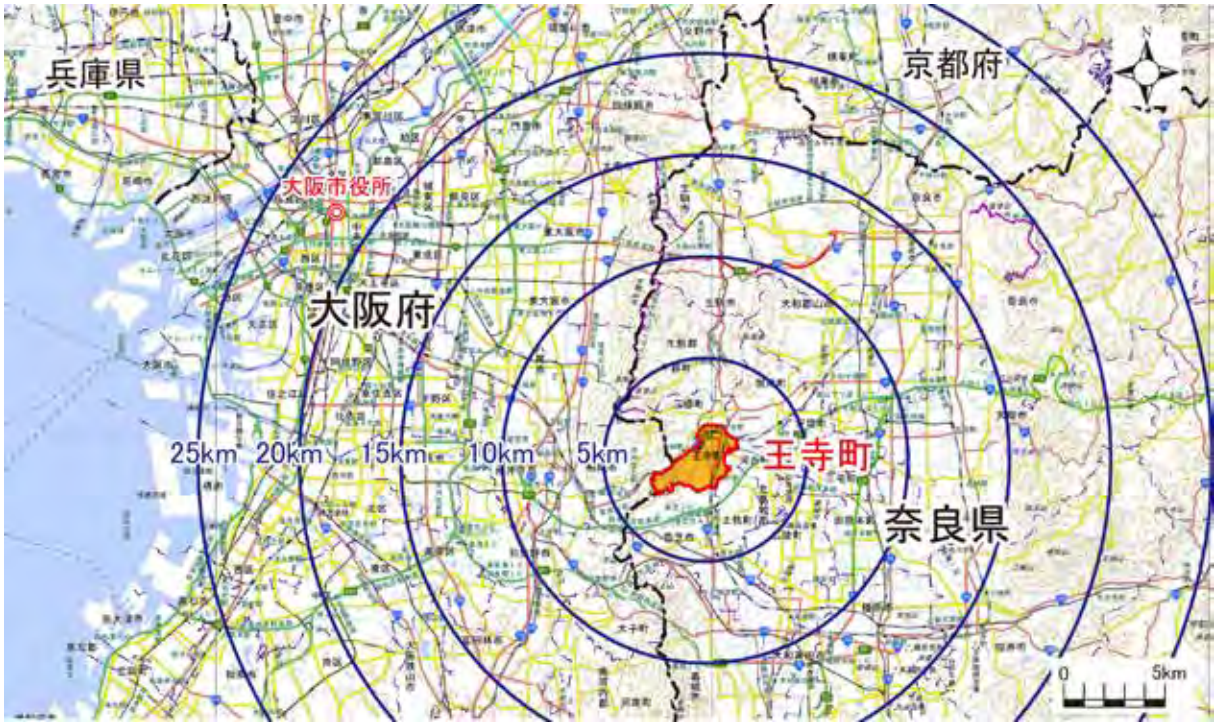
第２章　王寺町の成り立ち

２－１．社会的環境

（１）位　置

王寺町は、奈良県の西北部を占める奈良盆地の中央西端部に位置します。北に大和川、中央に葛下川が流れ、西の生駒・金剛山地と東の馬見丘陵に挟まれた「片岡谷」と呼ばれる地域にあります。また、大和川が生駒・金剛山地を切り抜けて大阪へと流れ出る王寺町の西端付近は「亀の瀬」と呼ばれています。

王寺町の北側は大和川を挟んで三郷町・斑鳩町、東側は馬見丘陵に位置する上牧町・河合町、南側は香芝市、西側は大阪府柏原市に接しています。大阪の都心から直線距離で約 20km のところに位置し、王寺駅からの所要時間はＪＲ関西本線（大和路線）で天王寺駅まで約 20 分、大阪駅まで約 40 分、奈良駅まで約 15 分です。また、王寺駅を起点に畠田・高田方面のＪＲ和歌山線、信貴山下・平群方面の近鉄生駒線、大輪田・佐味田川方面の近鉄田原本線が分岐して各地を結んでいます。奈良交通バスも王寺駅と三郷町・斑鳩町・河合町・上牧町・香芝市の各方面を結んでいます。



（出典）地理院地図（電子国土国土 Web）

＜図２-１　王寺町の位置＞

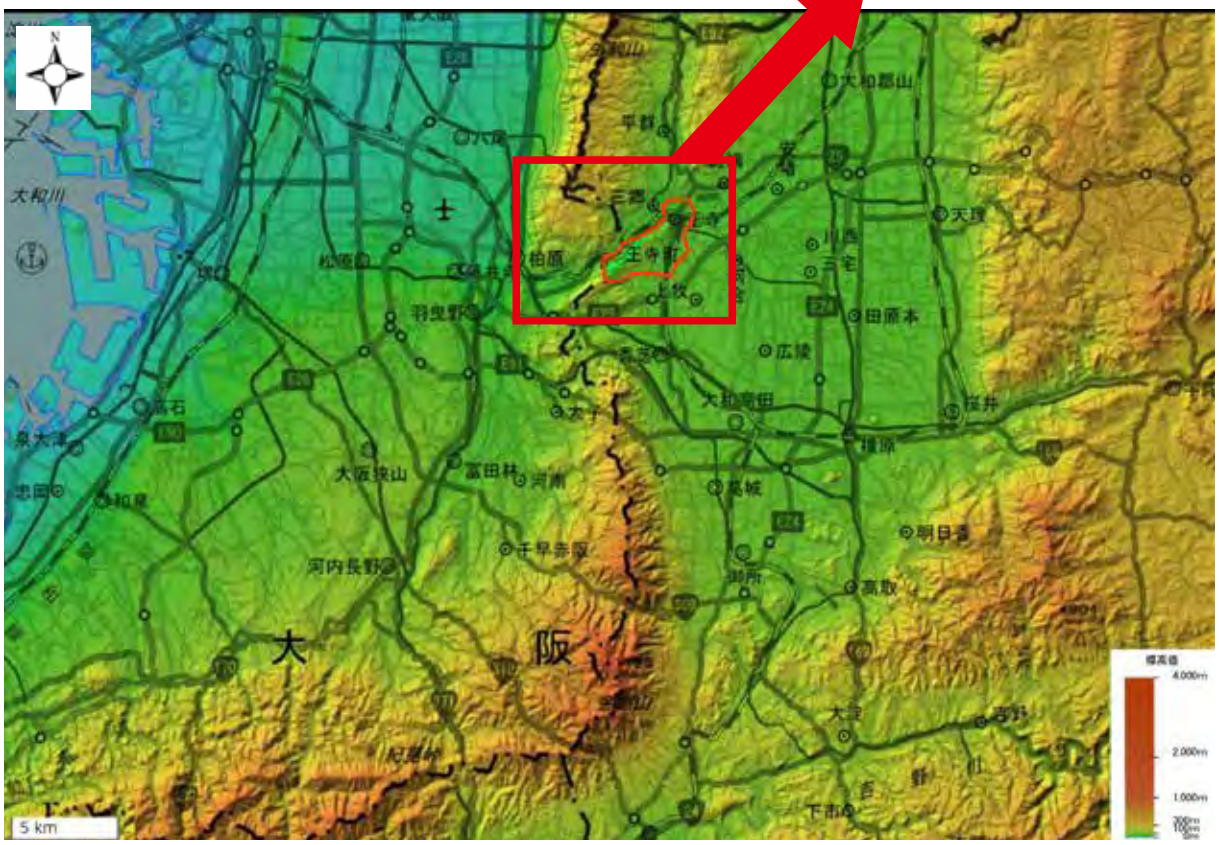
（２）地　勢

王寺町の地勢は、主に西部が生駒・金剛山地に連なる高地、中央部が高地からなだらかに続く丘陵地、東部が大和川・葛下川の川沿いに広がる低地からなっています。

中心市街地は大和川と葛下川が合流する低地に形成されており、低地から中央部の丘陵地帯、西部の高地にかけて新興住宅地が形成されています。

また、王寺町西端の奈良県と大阪府の府県境に位置する亀の瀬では、縦走する生駒・金剛山地を切り抜くように大和川が西流し、大阪平野へと流れ出ています。かつては、大和川と両岸の山並みが景勝地となっていましたが、現在は付近一帯が地すべり防止区域になっています。

亀の瀬は、狭い地域にＪＲ関西本線（大和路線）や国道 25 号が通る交通の大動脈であり、奈良盆地の川水が流れ出る唯一の水路です。王寺町は、その狭窄部に位置するという立地から、奈良盆地の豪雨によって水害に見舞われることが古くからありました。



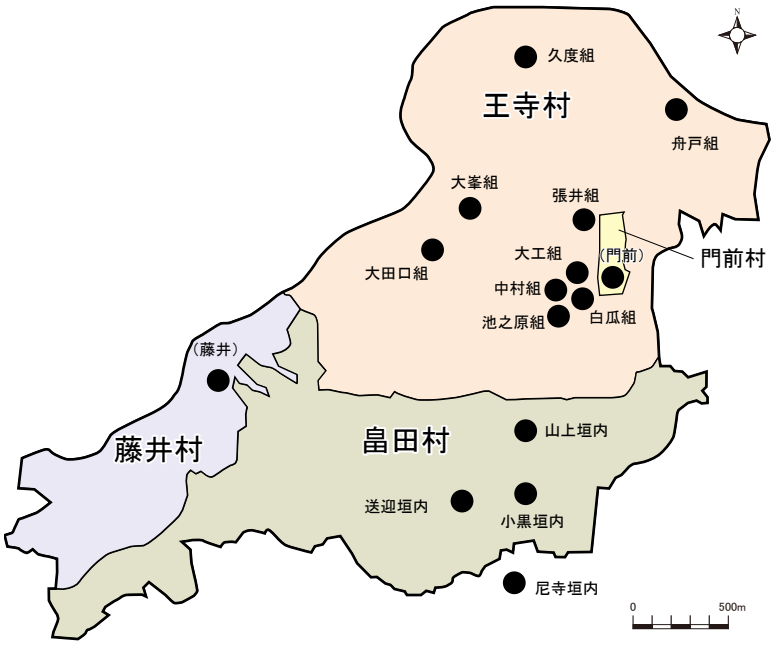
（出典）国土地理院標準図・色別標高図を加工

＜図２- ２　王寺町の地勢＞

（３）町域の変遷

王寺町の町域は、主に江戸時代の王寺村・門前村・藤井村・畠田村の４か村からなっています。明治９年（1876）に王寺村と門前村が合併し、同 22 年（1889）に町村制が実施されて藤井村と合併して現在の礎となる「王寺村」が生まれました。そして、大正 15 年（1926）に町制が施行されて「王寺町」が誕生しました。

一方、畠田村は、明治 22 年（1889）の町村制で上中村・今泉村・高村・平野村と合併して志都美村となり、さらに昭和 31 年に五位堂村・下田村・二上村・志都美村が合併して香芝町が誕生しました。そして、昭和 32 年に香芝町大字畠田のうち尼寺を除いた地区が香芝町から王寺町に編入され、現在の王寺町の町域が形成されました。



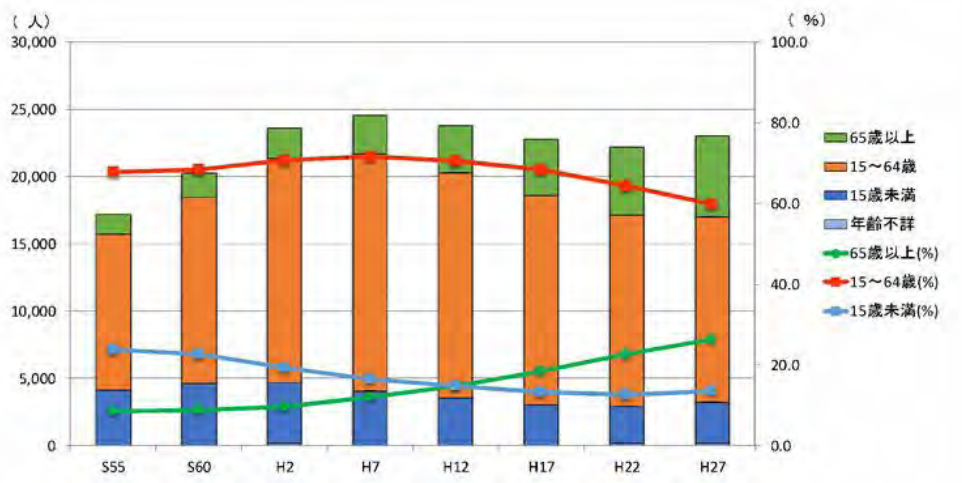
＜図２- ３　町域の江戸時代の村と集落＞

＜表２-１　町域の変遷＞

江戸時代	明治時代	大正時代	昭和時代	
王寺村	王寺村 (9.9)	王寺村 (22.4)	王寺町	王寺町 (32.1) 尼寺を除く 畠田
門前村				
藤井村	藤井村			
畠田村	畠田村	志都美村 (22.4)	香芝町 (31.4) 下田村 五位堂 二上村	
上中村	上中村			香芝町 (31.4)
今泉村	今泉村			
高村	高村			
平野村	平野村			

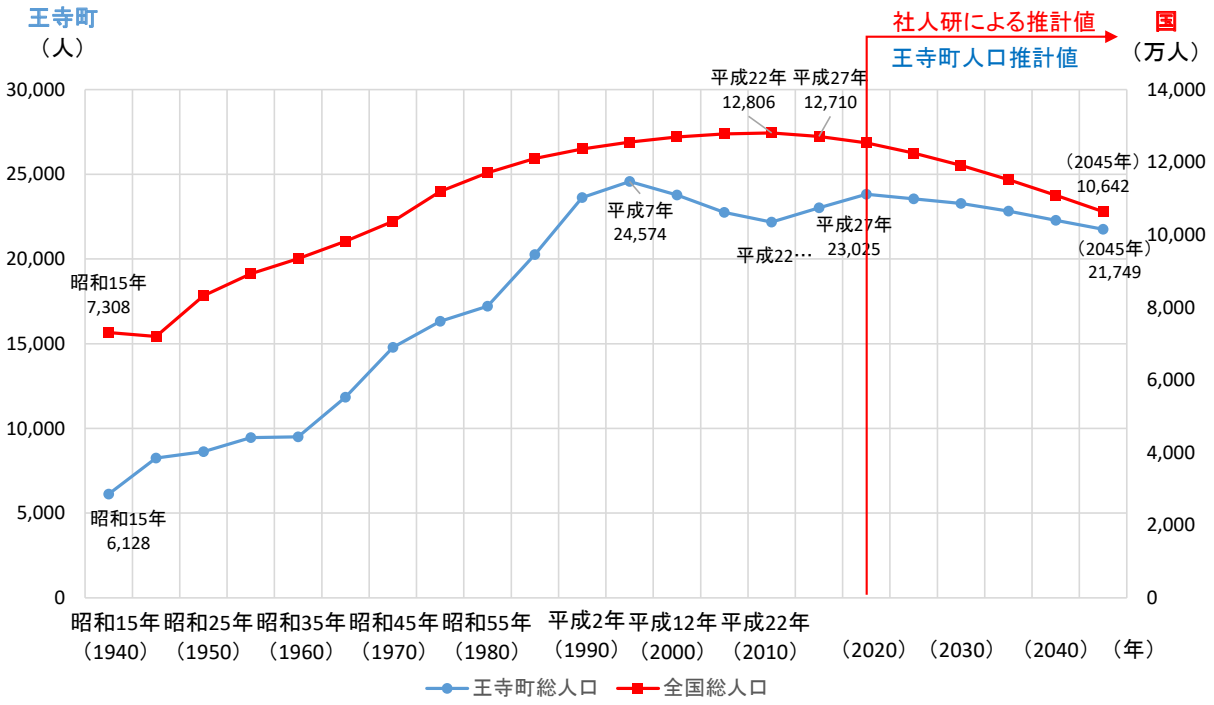
（４）人　口

国勢調査における王寺町の総人口は、平成７年の 24,574 人をピークに同 22 年には 22,182 人まで減少しましたが、平成 27 年は 23,025 人と増加に転じています。王寺町人口ビジョンにおける人口の将来展望によると、平成 32 年（2020）まで増加傾向は継続し、その後は緩やかに減少していきます。国の総人口は平成 22 年の１億 2,806 万人をピークに同 27 年には１億 2,710 万人に減少しています。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）によるとその後も減少が続き、2045 年には１億 0,642 万人まで減少すると推計されています。



（出典）各年の国勢調査

＜図２- ４　年齢構成別に見た王寺町の人口推移＞

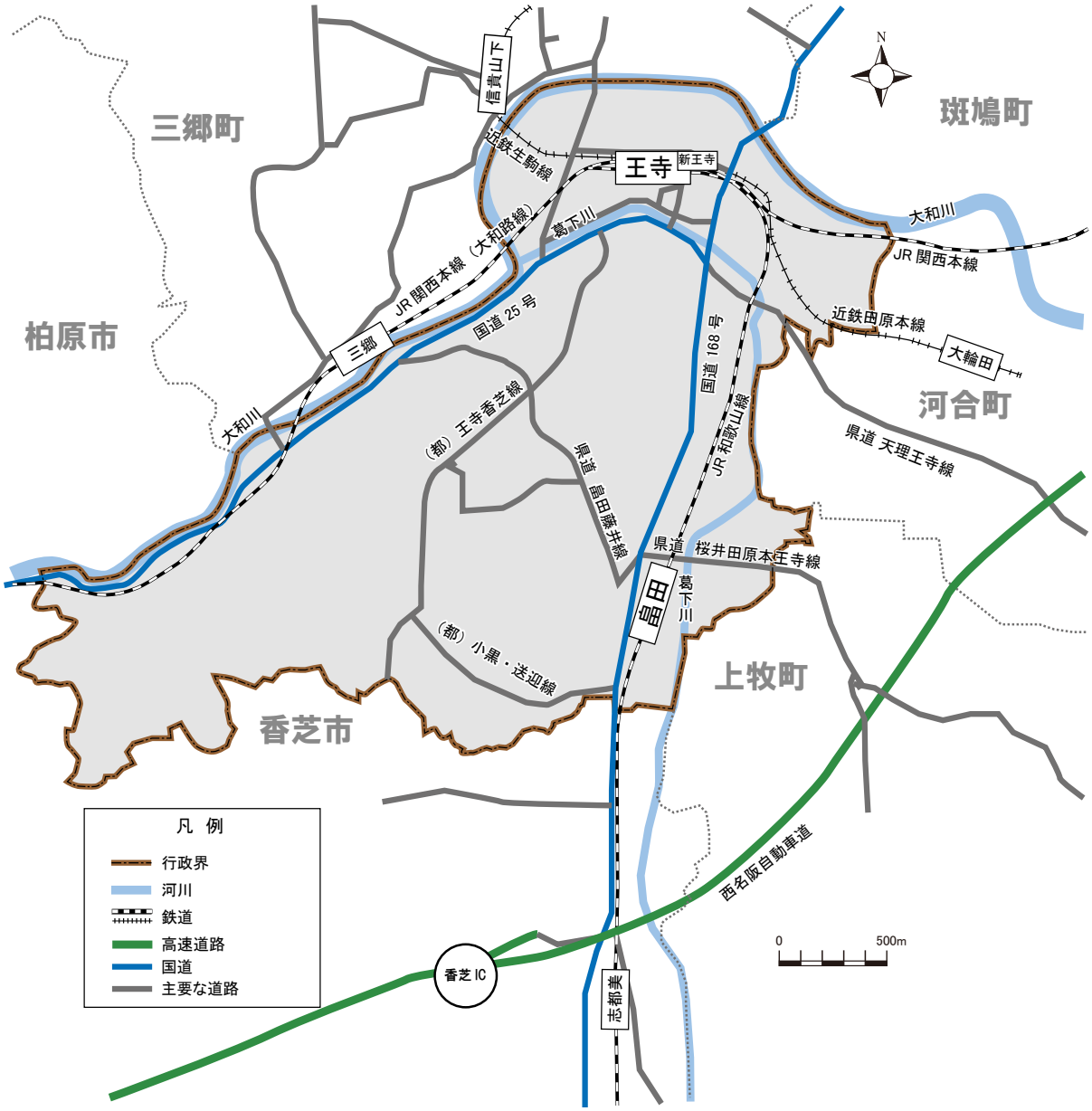


（出典）平成 27 年までは国勢調査、2020 年以降は国の総人口が社人研による推計、王寺町の総人口が王寺町による推計

＜図２- ５　王寺町の総人口推移＞

（５）交通網

王寺町には、国道 168 号が縦断して斑鳩町龍田と西名阪自動車道香芝ＩＣを連結し、主要地方道の天理王寺線と国道 25 号が横断して奈良県と大阪府を連結しています。また、鉄道の駅に王寺駅・新王寺駅・畠田駅があり、王寺駅にはＪＲ難波駅と名古屋駅を結ぶＪＲ関西本線（大和路線）、和歌山駅と結ぶＪＲ和歌山線、生駒駅と結ぶ近鉄生駒線が、新王寺駅には西田原本駅と結ぶ近鉄田原本線が結節しています。



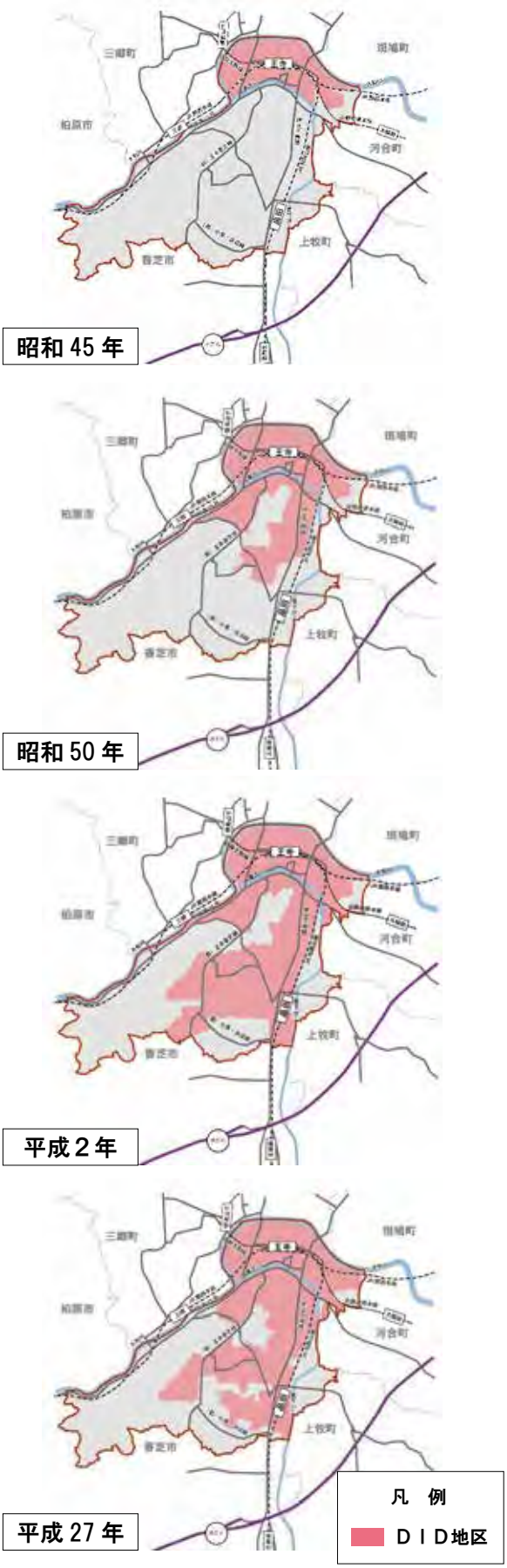
＜図２-６　王寺町の交通網＞

（６）土地利用

王寺町は、王寺村久度に明治 23 年（1890）大阪鉄道王寺・奈良間（現在のＪＲ関西本線）の開通にともなって王寺駅が設置され、翌 24 年（1891）に大阪鉄道王寺･高田間（現在の和歌山線）、大正７年（1918）に大和鉄道（現在の近鉄田原本線）、同 11 年（1922）に信貴生駒電気鉄道（現在の近鉄生駒線）が開通することで交通の要衝として発展してきました。鉄道開通まで片岡山麓の張井にあった町の中心部は久度に移り、現在は周辺広域市町村圏域の中心地になっています。

こうした立地条件を生かして昭和 30 年代後半から住宅地開発が始まり、昭和 45 年～平成２年にかけて王寺町に占める住宅地の割合が大きく増加しました。昭和 45 年から平成 27 年までのＤＩＤ地区（人口集中地区）の変化をたどると、昭和 45 年は葛下川の北側エリアだけだったのが、昭和 50 年には葛下川南の丘陵地へ、平成２年にはさらに南側へと拡大しています。その後、拡大傾向が収束し、平成 27 年に大きな変化は見られません。

昭和５年（1930）の王寺駅乗降客数は年間わずか 48 万人でしたが、住宅地の拡大などによって昭和 30 年には 226 万人、同 44 年には 420 万人へと増加し、駅周辺の商店街も拡大しました。交通の好条件は工業面でも労働力の牽引性を高め、昭和 11 年（1936）に日本アスベスト王寺工場、同 13 年（1938）に大阪金剛製砥王寺工場などの大規模な工場の立地に結び付きました。



＜図２-７　ＤＩＤ地区の変化＞

現在の土地利用を見ると、昭和 30 年代から始まった住宅地開発によって、河川沿いの平地部から丘陵部を含む市街化区域の大部分が住宅用地になっており、多くの鉄道路線が結節する王寺駅周辺に商業施設や公共施設が集中して中心市街地を形成しています。また、国道 25 号・168 号の幹線道路沿いにはロードサイド型の商業施設が点在しています。

工業用地は、王寺駅西南部のまとまったエリアに大規模な工場（ニチアス株式会社）の立地が見られるほか、国道 25 号の道路沿いに小規模な工場が立地しています。

田畑は市街化区域の外側に当たるＪＲ和歌山線東側の平地部に集中しており、町の中央部から西部にかけてのエリアである片岡山（かたおかやま）・明神山（みょうじんやま）周辺に豊かな山林が広がっています。

（出典）平成 26 年王寺町都市計画基礎調査

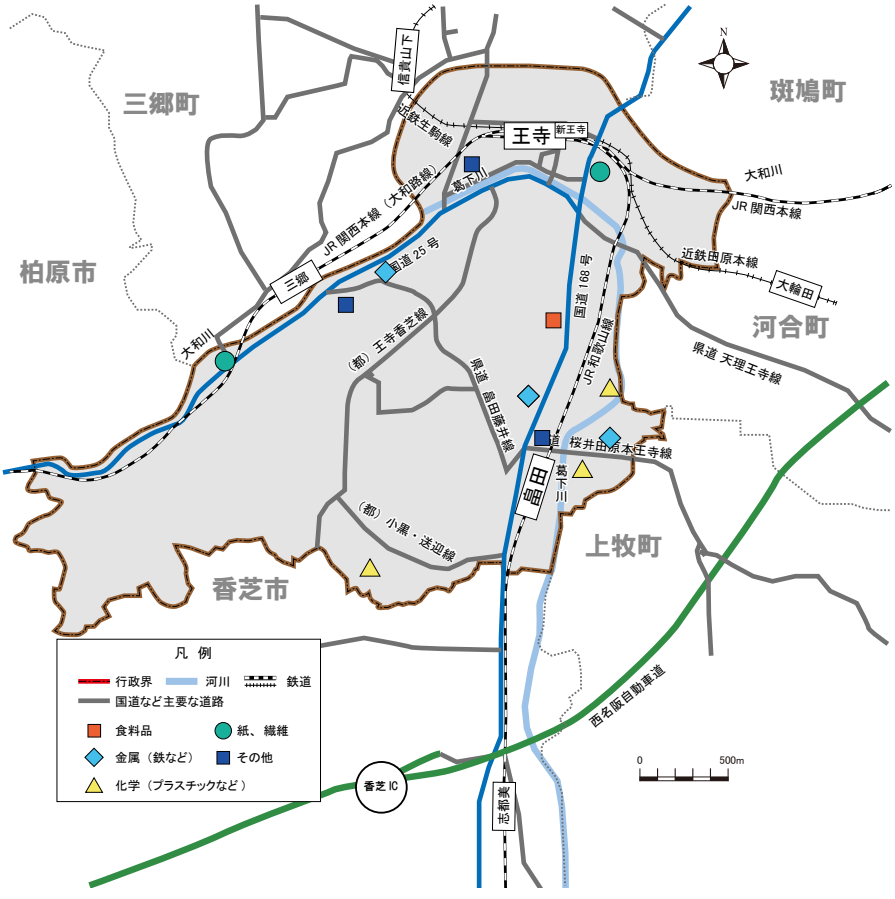
＜図２- ８　王寺町の土地利用＞

（７）産　業

① 商工業

明治 23 年（1890）に王寺駅が開業するまで、王寺村の商業の中心は門前・張井・井戸など南王寺と呼ばれた街道の交差点にありました。王寺駅が開業してからは信貴山参りの玄関口として駅前に商店街が形成され、大正時代には駅前から東（昭和橋商店街）と北（北新道商店街）に広がって約 160 店舗まで増加し、大正 15 年（1926）の町制施行へとつながっていきます。昭和 24 年には王寺駅の西側に「花緒街」が生まれ、三郷町から多くの履物問屋が移転し、全国有数の市場占有率を有しましたが、昭和 45 年から同 50 年にかけて大半の業者が上牧町の履物団地に移転し、現在は数店が残るだけになっています。昭和 50 年には南駅前広場が完成し、近隣市町からの購買を吸収する商業集積地に発展しました。平成 16 年には久度地区再開発が完成して大型量販店も入りましたが、近隣市町への商業機能の分散が見られるようになっています。王寺町の商業は停滞傾向にあるといえ、年間販売額・事業所数ともに減少しています。

また、現在の王寺町には、食料品や金属、化学（プラスチックなど）、紙・繊維その他の工場が立地しています。これらの工場では、車イス、きなこ、調理器具や自動車部品、婦人服などの特色ある製品が作られています。



（出典）わたしたちのまち王寺

＜図２- ９　工場の立地状況＞

② 農　業

江戸時代の農業は米作を中心に営まれ、裏作に麦などが栽培されていました。明治に入っても基本的に大きな変化はなかったと考えられています。明治初期に行われた物産調べによると農作物の割合が高く、米・芋を中心に煙草の作付けや柿の栽培も行われていました。同じく明治初期の王寺村「村誌」には、物産として久度芋（くどいも）・久度煙草（くどたばこ）が記載されていますが、現在は栽培されていません。その後、柿に加えてブドウが栽培され、昭和初期には西瓜（すいか）が栽培されていましたが、昭和 10 年代には西瓜畑も見られなくなったようです。

耕地分布の推移を見れば、昭和 33 年は低地部や丘陵の谷間全体に広がっていましたが、その後の住宅地開発が大きな要因となって大幅に減少し、平成 5 年には王寺駅南側や丘陵から低地に至る谷筋でほとんど見られなくなっています。

平成 17 年に固定資産税の課税対象となった民有地のうち耕地面積は 62ha あり、その内訳は田 44ha、畑 18ha となっています。同じく平成 29 年の耕地面積は 42ha、その内訳は田 35ha、畑 7 ha であり、平成 17 年に比べると全体で約 30％減少しています。

『王寺町水利史』によると、昭和 50 年に 303 戸だった農家数は、昭和 60 年まで大きな変化はなかったものの平成 2 年に 185 戸と大幅に減少し、平成 27 年には 27 戸とさらに減少しています。

明治初期の王寺村「村誌」

昭和 33 年の耕地分布

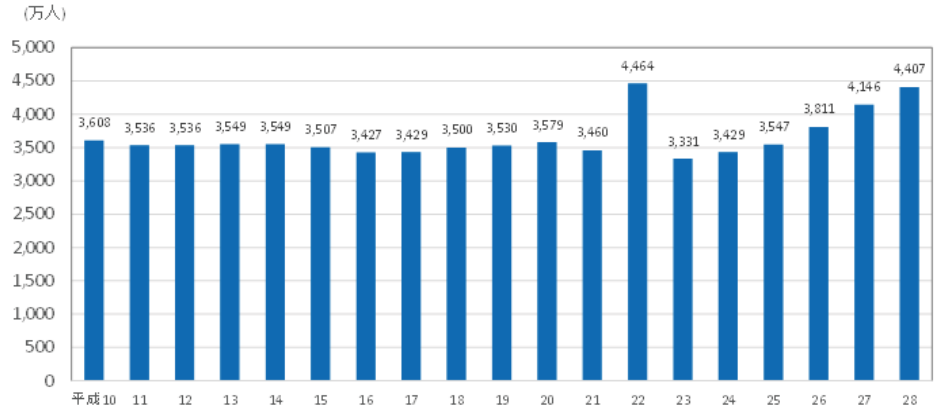
平成５年の耕地分布

（出典）王寺町水利史

＜図 2-10　耕地分布の推移＞

③ 観　光

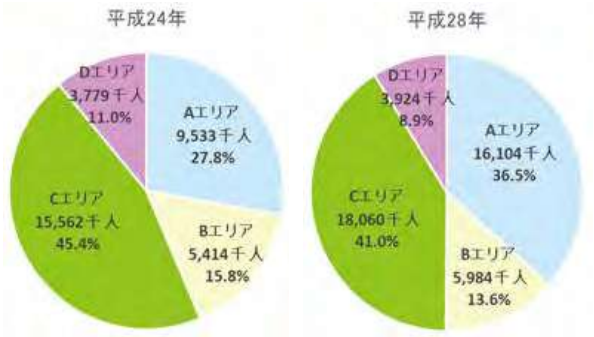
奈良県では、平成 29 年の主要プロジェクトに観光関連施策を位置づけ、平成 31 年までに観光入込客数を 4,200 万人、延べ宿泊者数を 280 万人にすることを目標としています。観光客数は平城遷都 1300 年を迎えた平成 22 年に 4,464 万人を記録したのち、翌 23 年には東日本大震災の影響により 3,331 万人まで落ち込みましたが、徐々に増加し、平成 28 年には 4,407 万人まで回復しています。ただし、奈良県のエリア別に見れば、平成 24 年から同 28 年まで、奈良公園や東大寺など主要な観光地が集まる奈良市周辺のＡエリアが 68.9％増加しているのに対して、王寺町・西和地域を含むＢエリアは 10.5％の増加にとどまっています。

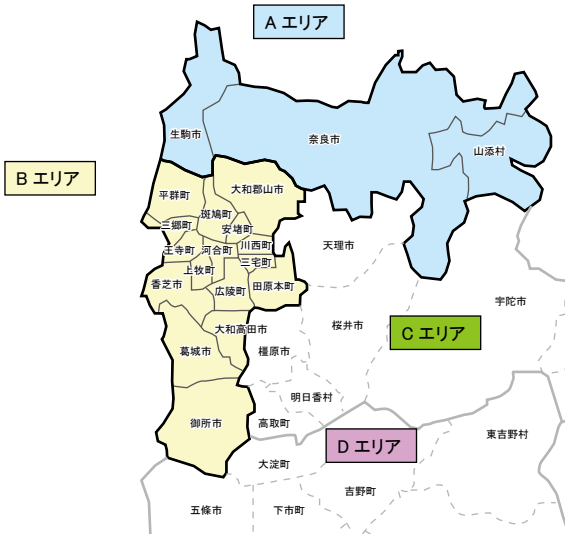


（出典）奈良県観光客動態調査報告書

＜図２-11　奈良県観光客数の推移＞

エリア名	平成 24 年	平成 28 年	増加率
Ａエリア	9,533	16,104	68.9％
Ｂエリア	5,414	5,984	10.5％
Ｃエリア	15,562	18,060	16.1％
Ｄエリア	3,779	3,924	3.8％

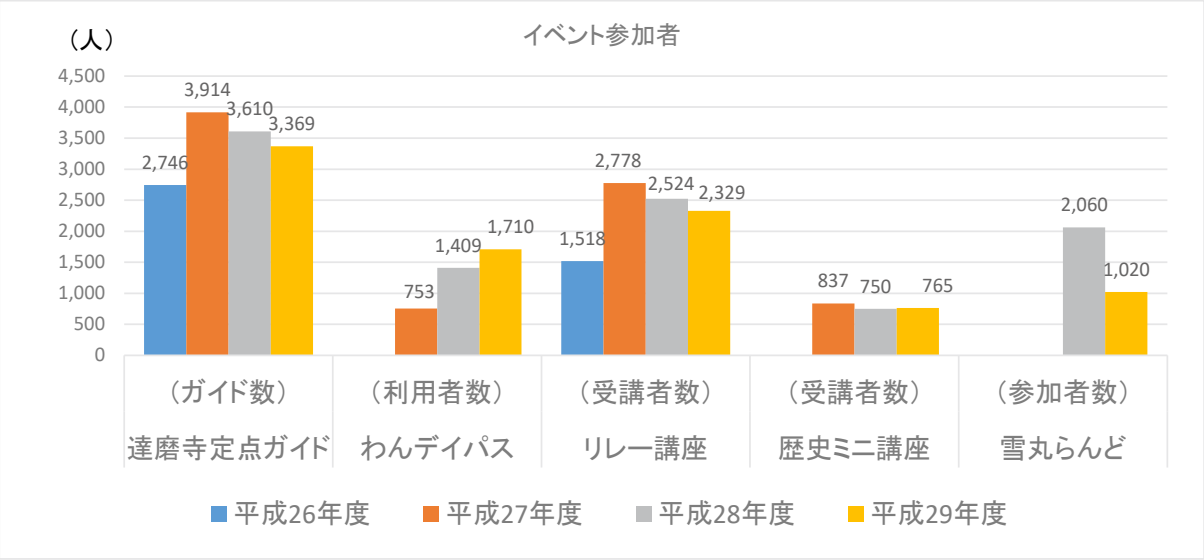




（出典）奈良県観光客動態調査報告書

＜図２-12　奈良県エリア別の観光客数＞

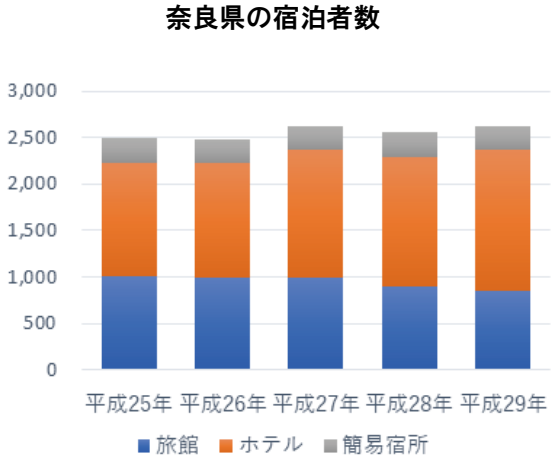
王寺町では、ボランティアガイドが案内する達磨寺定点ガイドや歴史リレー講座のほか観光客を誘致するための様々なイベントを行っています。平成 26 年度には 4,264 人が参加し、平成 28 年度にはマスコットキャラクターの雪丸と遊ぶことができる「Love Love 雪丸らんど」が新たに加わって 10,353 人が参加しました。平成 29 年度は、雪丸らんどが前年を下回ったことから参加者数は 9,193 人でしたが、平成 26 年度に対して約 220%増加しています。



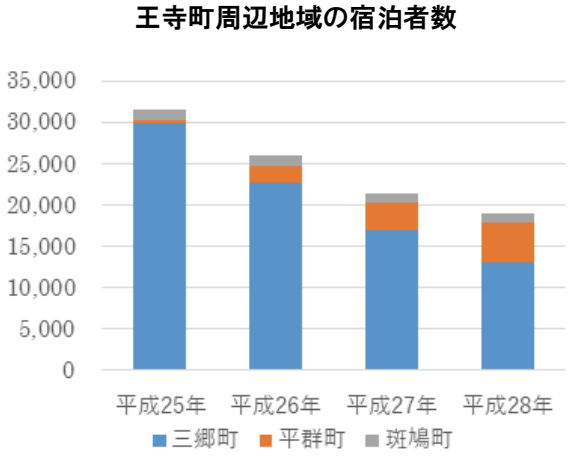
（出典）王寺町地域交流課資料

＜図 2-13　イベント参加者数の推移＞

また、2021 年に聖徳太子 1400 年御遠忌（ごおんき）を迎えることから、王寺町の交通の利便性を生かし、達磨寺（だるまじ）をはじめ近隣の法隆寺・信貴山朝護孫子寺（しぎさんちょうごそんしじ）など聖徳太子ゆかりの地に多くの観光客を送り込むことができるようホテル誘致にも取り組み、平成 32 年（2020）4 月頃にオープンする予定です。



（出典）奈良県の宿泊統計調査の概要



（出典）観光予報プラットホーム

＜図 2-14　奈良県エリア別の観光客数＞

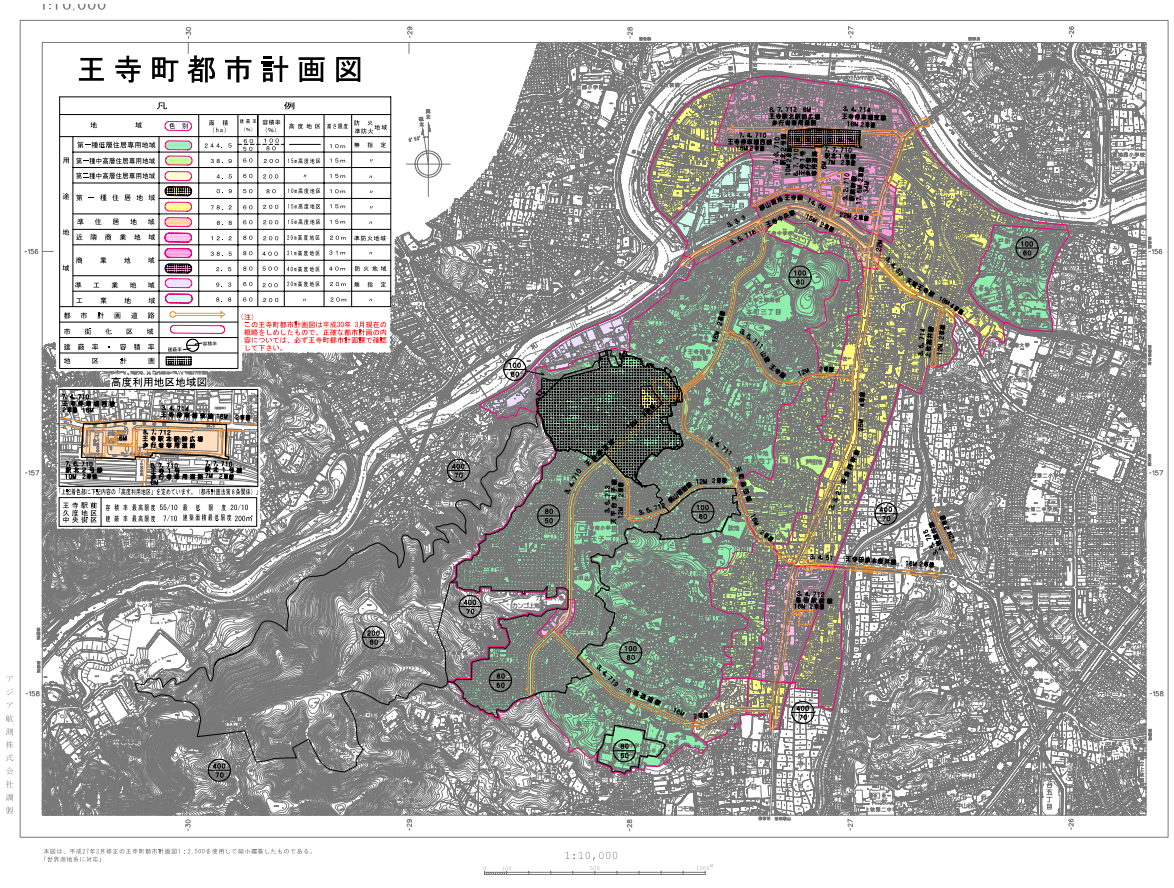
（８）法規制

王寺町では、面積 701ha のうち 447.1ha が市街化区域に指定されています。

中心拠点である王寺駅周辺は商業地域、町の中央部から南部にかけては第一種低層住居専用地域、その東側は第一種中高層住居専用地域に指定され、国道 168 号の沿道は主に第一種住居地域、畠田駅西側周辺部一帯は近隣商業地域、大和川左岸は準工業地域や工業地域に指定されています。また、元町（もとまち）から藤井地区にかけての大和川左岸では、宅地造成工事規制区域、砂防指定区域に指定される地域もあります。

明神山は、丘陵・古墳・渓谷・池沼・河川などにより形成される県の代表的な自然景観を維持するために必要な地区として、明神山景観保全地区に指定されています。

平成 29 年 4 月、大和・木津川地域森林計画に即した王寺町森林整備計画（計画期間は平成 35 年〔2023〕３月まで）が変更されました。この計画では、明神山の山林部分を中心に県条例区域、王寺町公益機能森林区域、森林資源区域、鳥獣害防止森林区域、保安林が指定され、森林整備に関する基本的事項が定められています。



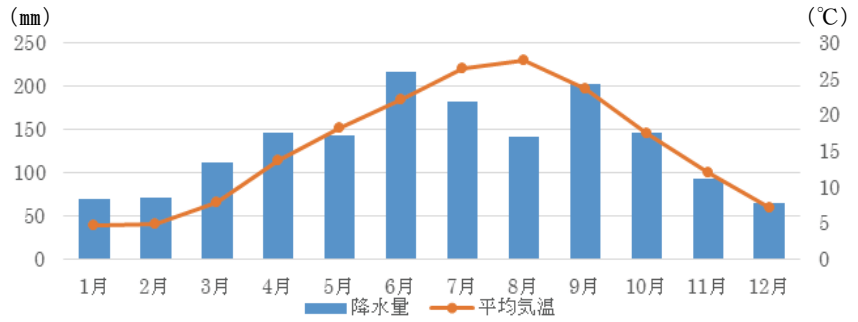
（出典）王寺町都市計画図

＜図２-15　都市計画図＞

２－２．自然環境

（１）気　候

奈良盆地に位置する王寺町は、太平洋側気候区に属しています。おおむね温和な内陸気候で、平成 24 年の平均気温は 15.5℃、年間降水量は 1,593mm となっています。また、月別の降水量は、台風や集中豪雨が多く発生する６月から９月にかけて多く、なかでも６月が 216mm と最も多く、次いで９月が 203mm となっていますが、８月は 142mm にとどまっています。

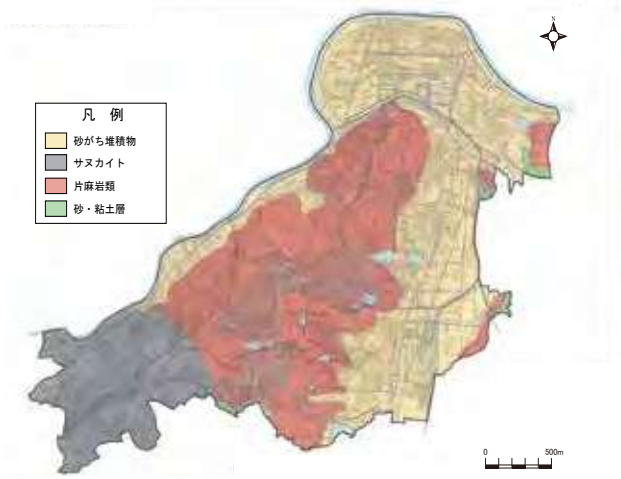


（出典）CLAMATE-DATE.ORG

＜図２-16　平成 24 年の月別平均気温と降水量＞

（２）地　質

王寺町の地質は、基盤である中生代層の領家式岩類とそれを覆う新生代層からなります。王寺駅周辺やＪＲ和歌山線沿いの平地部は、領家式岩類の上に柔らかい粘土と締まり具合の悪い砂、礫が複雑に互層をなした沖積層です。美しヶ丘住宅地が立地する丘陵地帯は、領家式岩類の上に砂礫や風化層が覆っている洪積層で、大和川と美しヶ丘住宅地に挟まれた山地帯は領家式岩類がむき出し、火山岩である花崗岩とその風化層、火山の噴出物である安山岩や堆積岩類が覆っています。亀の瀬は、傾斜した固く荷重の大きい火山岩層と柔らかい堆積層の間にある粘土層のすべりやすい面に水が溜まることにより地すべりが発生しやすい地域になっています。



（出典）王寺町地域防災計画

＜図２-17　地質構造の区分＞

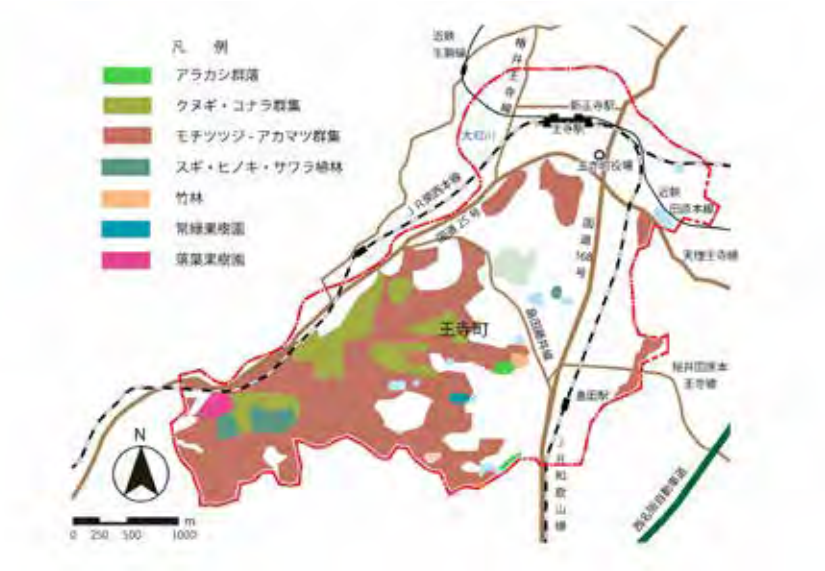
（３）生態系

① 植　生

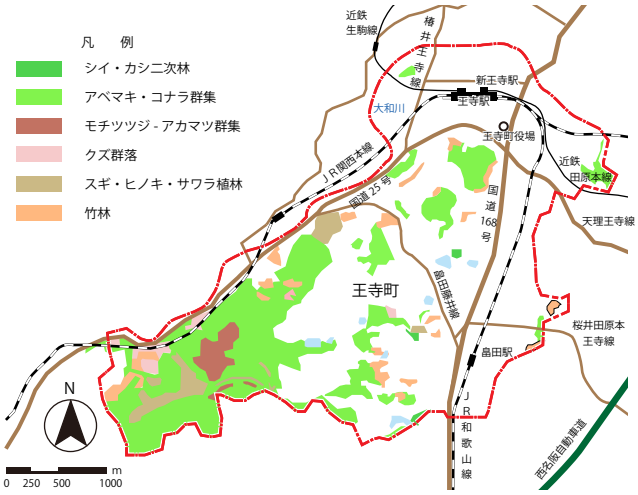
王寺町は、奈良県内を流れる大和川の最下流域に位置します。県境の亀の瀬あたりまでの大和川は流れも穏やかで川岸も広く、ヨシ優占の川岸植生が見られます。

王寺町の最低所は県境付近の大和川で海抜約 35m、最高所は明神山の山頂で海抜 273.6m です。王寺町は大和川・葛下川沿いに広がる低地と生駒・金剛山地から派生する丘陵地からなります。低地のほとんどは水田で、丘陵地の谷間は奥深く入り込んでいます。

昭和の後半まで町西部の山林ではモチツツジ―アカマツ群の植生が多く見られましたが、その後、アカマツのマツ枯れが発生したため植生の遷移が進み、現在はアベマキ・コナラ群に変化しています。町東部の市街地でも丘陵部でアベマキ・コナラ群の植生が見られ、緑地の多い住宅地や公園も点在しています。



（出典）環境省植生調査（1/5 万）第３回



（出典）環境省植生調査（1/2.5 万）第６回・第７回

＜図２-18　王寺町の植生＞

② 植　物

平成 12 年に刊行された『新訂王寺町史』では、主な巨樹・名木としてイヌマキやイブキ、ヒノキ、エノキなど 17 本が紹介されています。現在も放光寺のイヌマキや西蓮寺のイブキ、片岡神社のムクロジ、達磨寺のホウライチクなどが残っていますが、なかには失われているものもあり、詳細な調査が必要です。

また、明神山にはシライトソウやフトイ、カワチハギ、ガンビ、カラタチバナなどの貴重な植物が生育し、王寺町全体の植物には、奈良県レッドリストの希少種であるセンリョウ、カラタチバナ、イヌマキ、それに絶滅寸前種であるイブキが見られます。

＜表 2- 2　王寺町の巨樹・名木＞

科名	樹種	幹周 (m)	樹高 (m)	生育地
マキ	イヌマキ	2. 05	8. 0	本町 2 丁目放光寺
フトモモ	ユーカリ	4. 05	37. 0	畠田 7 丁目個人宅
ヒノキ	イブキ	2. 10	8. 0	藤井 1 丁目西蓮寺
ヒノキ	ヒノキ	2. 85	22. 0	藤井 3 丁目八幡神社
ブナ	コジイ	2. 90	25. 0	畠田 8 丁目白山姫神社
ブナ	コナラ	2. 65	23. 0	畠田明神山頂手前より送迎越えの道 200 m道脇
ブナ	ナラガシワ	2. 45	12. 0	本町 3 丁目孝霊天皇片岡馬坂陵
ヤマモモ	ヤマモモ	2. 70	15. 0	畠田 5 丁目火幡神社
モチノキ	クロガネモチ	1. 95	7. 0	久度 2 丁目個人宅
モチノキ	ナナメノキ	1. 86	15. 0	本町 2 丁目達磨寺
ニレ	エノキ	2. 85	23. 0	久度 4 丁目久度神社
ニレ	エノキ	2. 68	20. 0	元町 1 丁目個人宅
ニレ	ムクノキ	2. 23	25. 0	本町 2 丁目片岡神社
ムクロジ	ムクロジ	2. 45	10. 0	本町 2 丁目片岡神社
カバノキ	ヤシャブシ	1. 91	12. 0	明神 3 丁目第 2 浄水場前より 150m 上がる道路脇
トウダイグサ	ナンキンハゼ	2. 52	13. 0	本町 2 丁目親殿神社西側畑
イネ	ホウライチク	0. 10	7. 0	本町 2 丁目達磨寺

（出典）新訂王寺町史

③ 哺乳類

『新訂王寺町史』（平成 12 年）では、明神山を中心とした町の西部でタヌキ、キツネ、ノウサギ、ムササビ、イノシシなどが生息していると報告されています。とりわけ近年はイノシシが多く生息しており、明神山から藤井・畠田地区にかけて作物の被害も出ています。

④ 鳥　類

王寺町には大和川という広い河川敷があることから、とくに冬期におけるカモ類の渡来が多く見られます。『新訂王寺町史』（平成 12 年）によれば、昭和 58 年に行われた市町村別鳥獣調査では王寺町で 65 種類の野鳥が確認されたが、その後の 16 年間に観測網の充実などで 84 種に増加し、それは奈良県全体で確認された 230 種の約 36％にあたると報告されています。同じく『新訂王寺町史』では、大和川沿いにチュウサギ、ゴイサギが見られると報告されており、現在、チュウサギは「環境省レッドリスト 2019」で準絶滅危惧種に、「奈良県レッドデータブック 2016 改訂版」で希少種に選定され、ゴイサギは「奈良県レッドデータブック 2016 改訂版」で希少種に選定されています。

⑤ 魚　類

昭和 10 年（1935）に調査が行われた「大和川産魚族の研究」（『大和王寺文化史論』）によれば、25 種の魚類が生息しており、その後、昭和 44 年に刊行された『王寺町史』では 32 種に増加しています。この頃を境にして大和川の水質汚濁が急激に進行し、清冽な水質を好む魚類が姿を消して外来種が移入しました。『新訂王寺町史』（平成 12 年）によれば、王寺町を流れる大和川産魚類にはカマツカやカワムツ、ドンコなど 24 種が生息すると報告されており、それらのなかには現在「環境省レッドリスト 2019」で絶滅危惧ⅠＢに選定されているゲンゴロウブナ、ニホンウナギ、準絶滅危惧種に選定されているドジョウ、「奈良県レッドデータブック 2016 改訂版」で希少種に選定されているアブラハヤ、絶滅寸前種に選定されているアユが含まれています。しかし、これら 24 種のうちのアブラハヤ、カワムツは、大和川の環境を考えれば現在生息する可能性は低く、調査で実態を把握していく必要があります。

⑥ 昆　虫

王寺町には様々な種類の昆虫が生息し、特に明神山では多種にわたる蝶が確認されています。しかし、実態は不明で、今後、詳細な調査を実施していく必要があります。

２－３．災害履歴

（１）水　害

王寺町は、古くから大和川がもたらす水害に悩まされ続けてきました。過去 100 年の災害の履歴を見ると、その大部分は７～９月の台風や集中豪雨による床上・床下浸水や田畑冠水で、数年おきに発生しています。特に昭和 57 年の「57 水害」は、８月１日から３日にかけて台風 10 号と続く低気圧によって豪雨となり、大和川に合流する葛下川が溢水し、全壊 66 戸、半壊 174 戸、床上浸水 1,445 戸、床下浸水 272 戸という甚大な被害が発生しました。その後、災害救助法・激特法の適用を受けて復興しましたが、30 年以上経った現在も町民の記憶に残るものとなっています。

＜表２- ３　王寺町の主な水害＞

年月日	種別・名称	被害状況
明治 32 年 10 月 6 日	水害	台風により王寺で降水量 160.5㎜。
明治 36 年 7 月 9 日	洪水 （地すべり）	梅雨時の降雨により王寺で降水量 189.5㎜。 亀の瀬の地すべりで河道隆起、久度・藤井地区浸水。
大正 7 年 9 月 24 日	洪水	北葛城郡で道路決壊 4 か所、橋梁流出 2 か所、堤防決壊 17 か所、 床下浸水 20 戸、田畑浸水 70ha。
昭和 5 年 7 月 31 日	豪雨	王寺で降水量 249㎜。北葛城郡で家屋浸水、堤防と道路決壊 3 か所、 田畑浸水 160ha、橋梁流出 1 か所。
昭和 7 年の 235 日間	浸水 （地すべり）	堅上村峠の地すべりにより藤井地区浸水。 関西本線トンネル埋没、汽車不通。
昭和 35 年 6 月 22 日	豪雨	久度で被害。浸水家屋 20 戸、道路損壊。
昭和 36 年 9 月 16 日	第２室戸台風	町全域で全壊 8 戸、半壊 24 戸。救助法適用。
昭和 40 年 9 月 17 日	台風	半壊２戸、一部損壊 41 戸。
昭和 41 年 7 月 1～2 日	豪雨	王寺・久度で床上浸水 4 戸、床下浸水 7 戸。
昭和 42 年 7 月 9 日	豪雨 （地すべり）	本町・久度・王寺で床下浸水 102 戸。 亀の瀬で地すべり、王寺町避難連絡体制、国道不通。
昭和 43 年 7 月 9 日	豪雨	町全域で被害。床上浸水 20 戸、床下浸水 400 戸、堤防決壊２か所、 崖崩れ 6 か所。
昭和 43 年 7 月 16 日	豪雨	本町･元町･畠田で浸水家屋 100 戸、田畑冠水 200ha、堤防決壊２か所。
昭和 44 年 7 月 5 日	豪雨	町全域で被害。床上浸水 30 戸、田畑冠水５ha。
昭和 46 年 6 月 7 日	豪雨	元町で全壊１戸、一部損壊１戸、山崩れ。
昭和 46 年 9 月 26 日	台風	本町・元町で床上浸水 10 戸、田畑冠水３ha。
昭和 47 年 9 月 17 日	台風	本町で床上浸水５戸、田畑冠水 10ha。
昭和 54 年 6 月 27～29 日	豪雨	町全域で被害。床上浸水 20 戸、床下浸水 70 戸、田畑冠水 40ha。
昭和 57 年 8 月 1～3 日	台風 10 号 豪雨	町全域で被害。全壊 66 戸、半壊 174 戸、床上浸水 1,445 戸、 床下浸水 272 戸、救助法適用。

年月日	種別・名称	被害状況
昭和 63 年 8 月 18 日	集中豪雨	本町 4 丁目・畠田 4 丁目で床下浸水。
平成 3 年 8 月 24 日	大雨	久度 1 ～ 3 丁目・舟戸 1 丁目で床上浸水 4 戸、床下浸水 91 戸。
平成 4 年 7 月 5 日	大雨	土砂崩れ 13 件、床下浸水 2 戸。
平成 7 年 5 月 12 日	大雨	本町 3 丁目で 1.5 ㎡の土砂崩れなど被害 3 件。
平成 7 年 7 月 4 日	大雨	「王寺ファミリー」地下食料品売場浸水。
平成 9 年 8 月 7 日	大雨	久度 1 ～ 3 丁目・本町 2 丁目で床下浸水 23 戸、 マンション地下浸水 1 件。
平成 10 年 8 月 27 日	豪雨	元町 2 丁目で床下浸水 3 件。
平成 10 年 9 月 27 日	台風 7 号 （風害）	住宅の一部損壊 66 戸、幼稚園園舎 2 か所破損、小学校校舎 1 か所破損、 道路 6 か所破損、し尿中継基地 1 か所破損、鉄道不通 5 か所、 ブロック塀崩れ 1 か所。
平成 11 年 6 月 27 日	大雨	本町 2 丁目・畠田 4 ～ 5 丁目・ 7 丁目で床下浸水 14 戸、 道路陥没 2 か所、法面崩れ 4 か所。
平成 11 年 8 月 11 日	大雨	本町 2 丁目・畠田 4 ～ 5 丁目・元町 2 丁目で床下浸水 14 戸。
平成 29 年 10 月 22 ～ 23 日	台風 21 号	大和川・葛下川が複数点で溢水。本町 1 ～ 2 丁目・元町 2 丁目・ 藤井 1 ～ 2 丁目・王寺 1 丁目・葛下 2 丁目で床上浸水 30 戸・ 床下浸水 66 戸、藤井 3 丁目で土石流 1 か所。

（出典）王寺町地域防災計画

○「57 水害」の被害状況

王寺駅前広場の浸水

浸水により集められた家財道具

王寺駅前商店街の浸水

王寺駅前広場での清掃活動

（２）地すべり

昭和６年（1931）末から翌７年（1932）にかけて大和川流域の亀の瀬で地すべりが発生しました。大和川北岸にある留所山から面積約 32ha に及ぶ山塊がすべるとともに、大和川の川底にもあるすべり面の影響で川床が隆起して大和川を堰き止めました。そのため、昭和７年（1932）２月に大正橋が、６月・７月には藤井地区が浸水しました。また、昭和 42 年に再び総面積 50ha に及ぶ大規模な地すべりが発生し、大和川南岸の国道 25 号で道路が隆起しました。隆起した地形は、今も見ることができます。

崩壊した「亀瀬隧道」

亀の瀬地すべり復旧工事

亀の瀬の地すべりは、地下に粘土層の地質が形成されていることが原因となっており、ひとたび地すべりが発生すれば、①大和川の閉塞とその決壊による水害、②奈良と大阪を結ぶ交通動脈への影響、③地すべり地内の家屋・果樹園の崩壊、と甚大な被害が予想されることから、昭和 37 年から国土交通省（当時は建設省）が直轄施行で、地すべりの動きを停止または緩和させる抑制工、構造物の抵抗力で地すべりの動きを止める抑止工といった地すべり対策事業を進めています。

（３）火　災

奈良県広域消防組合の消防統計によれば、王寺町では、平成 28 年から同 30 年までの３年間に住宅火災７件を中心に車両３件、その他３件、計 13 件（平均約 4.3 件）の火災が発生しています。

大きな火災では、昭和 54 年２月１日に久度３丁目の「花緒街」商店街で 17 戸が焼失しており、死傷者は出ませんでしたが被害額は３億円に上る惨事となりました。

（４）地　震

奈良県では、昭和 11 年（1936）２月 21 日に発生した河内大和地震による影響が記録されています。震源は二上山付近で、八木で震度５、被害は死者９人（大阪府８人、奈良県１人）、負傷者 59 人（大阪府 52 人、奈良県７人）、家屋の全半壊 148 戸に上りました。

また、近年の事例では、平成 30 年６月 18 日に発生した大阪府北部を震源とする地震の振動（最大震度は６弱、王寺町は震度４）により、達磨寺中興記石幢（国指定重要文化財）の宝珠部が落下する被害が確認されました。

２－４．歴史的変遷

（１）先史―王寺のあけぼの

① 旧石器時代

旧石器時代とは土器をつくらず、主に石を打ち欠いてつくった打製石器で狩猟や植物の採集を行い、食料を得ていた時代のことをいいます。およそ今から３万5000年前から１万5000年前のことと考えられています。現在のところ、王寺町では旧石器時代の遺跡は確認されていませんが、香滝・薬井遺跡（畠田１丁目）で後期旧石器時代のナイフ形石器１点が中世の遺物に混じるかたちで出土しています。このナイフ形石器は、二上山（香芝市）で産出され、よく石器の材料に用いられるサヌカイトという石材でつくられています。今後、王寺町でも遺物が出土するだけでなく、旧石器時代の遺跡が発見されることも予想されます。

② 縄文時代

香滝・薬井遺跡
出土の石鏃

表面に縄の文様がつけられた土器を縄文土器といいます。旧石器時代とは違って、この縄文土器を用いて貯蔵・調理を行い、竪穴住居をつくって生活し、狩猟・採集するようになった時代を縄文時代といいます。縄文時代は、草創期・前期・中期・後期・晩期に分けられ、およそ今から１万5000年前から3000年前まで続いたと考えられています。王寺町では、香滝・薬井遺跡（畠田１丁目）で縄文時代後期の土器片１点とサヌカイト製で最大長さ約2.5cmの石鏃１点が近世の遺物に混じるかたちで出土しており、付近に縄文時代の遺跡があることがうかがえます。

② 弥生時代

舟戸・西岡遺跡の竪穴住居
（奈良県立橿原考古学研究所提供）

弥生時代になると、それまでの狩猟・採集に加えて本格的な水稲耕作が始まります。弥生時代は早期・前期・中期・後期・終末期に分けられ、紀元前10世紀から紀元後３世紀中頃まで続いたと考えられています。現在、王寺町で確認されている最も古い遺跡が、舟戸山の丘陵上にある舟戸・西岡遺跡（舟戸３丁目）です。発掘調査で直径11～12ｍに復元できる竪穴住居の一部が、２世紀後半頃の弥生時代後期の土器とともに見つかりました。舟戸・西岡遺跡は弥生時代後期の高地性集落であり、防御のほか烽火での連絡を担った軍事的な目的があったと考えられます。とくに、舟戸・西岡遺

跡の場合は、奈良盆地と大阪の海をつなぐ重要な河川交通路と考えられる大和川が見下ろせる位置にあって、しかも生駒・金剛山地に画された奈良盆地の出入口部分に当たることから、大和川を往来して奈良盆地を出入りする舟を監視する役目を担っていたのではないかと考えられています。

④ 古墳時代

弥生時代の終わり頃になると、ムラのリーダーが墳丘墓と呼ばれる大きな墓に埋葬されるようになり、やがて政治的権力者の墓が大型の古墳としてつくられました。古墳時代は前期・中期・後期に分けられ、３世紀中頃から６世紀末まで続きます。奈良県では、オオヤマト古墳群（天理市・桜井市）の箸墓古墳（桜井市）に代表されるように、古墳時代前期から大型の前方後円墳がつくられ、古墳時代中期以降も佐紀古墳群（奈良市）、馬見古墳群（河合町・広陵町・大和高田市・香芝市）などで見られますが、王寺町にはこうした前方後円墳はなく、岩才池北古墳（葛下１丁目）・達磨寺１～３号墳（本町２丁目）・畠田古墳（明神４丁目）と古墳時代後期の小型の円墳だけが確認されています。町内の最大規模となる畠田古墳は、明神山から派生する尾根の南斜面で前面に谷川が流れるところにつくられています。墳丘が直径約 15m、横穴式石室が全長 5.9m・高さ 2.2m で、石室からは銅芯金張りの耳環や須恵器が出土し、７世紀初頭につくられました。古墳の地形的な取り方がのちの風水思想に合致することから、渡来人または渡来文化の基礎知識を持つ人が埋葬されていたと考えられています。

畠田古墳

（２）古代―大和の玄関口・王寺

① 飛鳥時代

飛鳥時代とは、飛鳥板葺宮や藤原宮など明日香村付近の「飛鳥」と呼ばれる地域に宮都が置かれた時代のことをいいます。百済から仏教が公伝したことで政治・経済・文化・思想など最先端の知識が伝わりました。奈良県では飛鳥寺や橘寺など飛鳥地域に加えて、王寺町周辺の大和川沿岸でも斑鳩寺（法隆寺）や中宮寺（斑鳩町）をはじめ、平隆寺（三郷町）・長林寺（河合町）・片岡王寺（本町２丁目）・西安寺（舟戸２丁目）などと数多くの仏教寺院が建てられました。

片岡王寺は王寺小学校がその遺跡にあたります。７世紀前半の創建と考えられ、南向きの四天王寺式伽藍配置であったと推測されています。片岡とは、古代・中世における王寺町付近の地名

であり、片岡王寺が王寺町の名の由来であると考えられています。片岡王寺を創建したのは敏達天皇の後裔にあたる氏族であるとの説が有力ですが、渡来系の大原氏が創建したとする説もあり、聖徳太子が創建したという 46 か寺の一つにも数えられています。片岡王寺の北東側には、聖徳太子が飢人に出会い、助けたものの亡くなったために埋葬したという『日本書紀』推古天皇 21 年（613）条に見える片岡飢人伝説の舞台にあたる達磨寺があり、聖徳太子が斑鳩から大和川を越え、王寺町まで頻繁に来ていたことがうかがえます。『日本書紀』には、推古天皇 15 年（607）に「肩岡（片岡）池」を築造したという記事があり、片岡池とは現在の芦田池（本町 4 丁目）のことであるともいわれています。ここからも 推古天皇の摂政・聖徳太子と片岡の地域の関わりがうかがえます。

西安寺跡の塔跡

また、西安寺は現在の舟戸神社がその遺跡にあたります。７世紀前半に創建されたと考えられ、発掘調査によって南向きの四天王寺式伽藍配置であったことがわかっています。西安寺も聖徳太子創建の 46 か寺の一つに数えられており、聖徳太子や大和川の河川交通との関わりで注目される遺跡です。推古天皇 30 年（622）に斑鳩で薨去した聖徳太子の遺体は、竜田道や当麻道（斑鳩町・王寺町・香芝市）を通って磯長墓（大阪府太子町）まで葬送されたといわれ、現在、その道は「太子葬送の道」と呼ばれています。

天智天皇２年（663）、日本が百済を復興させるために白村江で唐・新羅軍と戦って敗北すると、天智天皇は侵攻を恐れて、翌年から九州・瀬戸内海にいくつもの城を築き、同６年（667）には大和国平群郡に高安城を完成させました。高安城は、大阪府八尾市から平群町・三郷町にかけての高安山周辺にあると考えられており、瀬戸内海から大和川をつうじて奈良盆地内部まで侵攻されることに備えた重要な城です。王寺町の明神山は、高安城と同じく生駒・金剛山地にあって、標高 273.6m と低い山ながら、大和川が見下ろせると同時に明石海峡と飛鳥地域の両方を見渡すことができる山であることから、山頂付近に唐・新羅軍の侵攻を知らせるような烽火の機能をもった高安城の関連施設があったのではないかと想定することができます。

② 奈良時代

大宝元年（701）の大宝律令の施行によって、律令国家として官僚制や地方組織、戸籍などが整えられていくなか、和銅３年（710）には奈良の平城京に遷都されました。神亀元年（724）に

即位した聖武天皇は、権力争いや飢饉、大地震、天然痘などの社会不安を仏教の力で払拭しようとして、国分寺建立の詔や大仏造立の詔を出しました。仏教で国を鎮めようとしたので、これを鎮護国家といいます。

片岡王寺跡の石積み溝
（奈良県立橿原考古学研究所提供）

飛鳥時代に創建された片岡王寺（本町２丁目）は、奈良時代にかけて整備されて寺勢を高めていきました。平成 14 年の発掘調査では、国道 168 号の拡幅事業地から片岡王寺の寺域を区画すると見られる石積み溝が見つかり、溝に沿って瓦葺きの掘立柱塀があったと考えられています。付近から片岡王寺式と称される単弁蓮華文軒丸瓦・均整唐草文軒平瓦、それに鬼面文鬼瓦といった奈良時代中頃の瓦が出土しているので、片岡王寺を区画する塀はその頃に整備されたといえます。このとき出土した鬼面文鬼瓦は、平城宮第一次大極殿で使われていた鬼瓦と同じ笵（木型）でつくられたものですので、鎮護国家にふさわしく、奈良時代には片岡王寺も天皇家や国家と深く関係していたと考えられます。

昭和 63 年に長屋王の邸宅跡から出土した大量の木簡のなかには、片岡から蕪や蓮の葉などを進上したことや「片岡司」と記されたものがあり、長屋王家の経済を支える御田や御薗、その管理機構である司が片岡の地域にあったことがわかりました。薬井瀧ノ北遺跡（河合町）と下牧瓦窯跡（上牧町）からは、長屋王邸で使われていたのと同じ文様の軒丸瓦や軒平瓦が出土しており、片岡の地域には長屋王家の瓦を供給する工房もあったことがうかがえます。

③ 平安時代

延暦 13 年（794）、桓武天皇は都を平安京（京都市）に遷しました。平安時代は、奈良時代の律令国家が引き継がれたものの、藤原氏が実権を握る摂関政治や天皇を譲位した上皇が政務を担う院政が始まるなど政治体制が大きく変わっていった時代でもあります。

久度神社

延喜５年（905）に編纂が始められた『延喜式』は、律令の施行細則を定めたもので全 50 巻からなり、そのなかに全国の官社を収載した「神名帳」があります。この「神名帳」に収載される神社を延喜式内社または式内社と呼んで、現在は社格の高さを示す一つの指標になっています。王寺町の延喜

式内社には片岡神社（本町２丁目）・火幡神社（畠田５丁目）・久度神社（久度４丁目）の３社があり、『延喜式』に載っていることからすでに 10 世紀初頭には存在したことが明らかになる神社です。なかでも久度神社は、『続日本紀』の延暦２年（783）12 月の記事に久度神を従五位下に叙して官社にすると見え、奈良時代後期には存在していたことが判明します。久度神は、桓武天皇の母である高野新笠とのつながりを持っていたため、平安京遷都の際には平野神社（京都市北区）に移されました。

また、王寺町には平安時代の文化財が数多く残り、当時の人々の動きがうかがえます。例えば、永福寺（畠田８丁目）にある凝灰岩製の層塔は平安時代後期以前のものと考えられ、同じく永福寺の木造地蔵菩薩立像は、当初は右手に持物を持たない初期のタイプで、10 世紀に入る頃の制作と考えられます。他にも品善寺（元町２丁目）の木造阿弥陀如来坐像や岩松寺（本町１丁目）の木造阿弥陀如来坐像、永福寺の木造釈迦如来坐像など平安時代に制作された仏像が多くあります。達磨寺（本町２丁目）の所蔵で奈良国立博物館に寄託されている絹本著色涅槃図（重要文化財）は、釈迦が右手を枕しないで体側に付ける点などに古式が認められる平安時代後期の作品です。奈良時代に寺勢を高めた片岡王寺は、「放光寺古今縁起」によれば永承元年（1046）の雷で火災となり、金堂・回廊・東中門・南大門が焼け落ち、五重塔も朽ち果てて永保年中（1081 ～ 84）に三重塔に縮められ、衰退していきました。

永福寺の層塔

（３）中世―王寺の武士団と寺院

① 鎌倉時代

中世の代名詞的存在ともいえる武士は、平安時代から都で天皇や貴族の警備をしたり、諸国をおさめたりしていましたが、やがて貴族の権力争いに加わるようになり、平清盛のように朝廷で実権を握る者が現れました。そして、源頼朝が鎌倉に幕府を開いて、御家人制に基づく新たな政治体制を敷き、武家政権となって鎌倉時代が始まりました。王寺町付近の片岡の地域には片岡氏と称する武士団がおり、史料では鎌倉時代後半の正和４年（1315）に初めて存在が確認できます。

王寺町の鎌倉時代のできごととして注目すべきなのが達磨寺（本町２丁目）です。達磨寺は『日本書紀』の片岡飢人伝説の舞台とされ、今も達磨寺本堂の地下にある達磨寺３号墳が、聖徳太子が埋葬した飢人の墓（塚）であり、飢人は達磨大師の化身と考えられるようになって、遅くとも平安時代には達磨寺３号墳が達磨大師の塚であるとの認識が定着していました。そして、13 世紀

達磨寺

前半に達磨塚の上に堂塔が建立され、寺院として開基されました。平成 14 年の達磨寺本堂建替えにともなう発掘調査で見つかった石塔埋納遺構（奈良県指定文化財）は、13 世紀前半の寺院開基にともなって埋納されたと考えられます。達磨寺の開基には解脱房貞慶や勝月房慶政といった高僧が関わり、本尊の木造聖徳太子坐像（重要文化財）は建治 3 年（1277）につくられました。

こうして開基された達磨寺ですが、「興福寺略年代記」には嘉元 3 年（1305）に興福寺僧侶が蜂起し、片岡の達磨寺で僧房・僧庫をことごとく焼失させたことが記録されています。この後、達磨寺はすぐに復興に取り掛かりますが、さらに興福寺は当時の達磨寺住職を流罪にするよう朝廷に訴え、達磨寺への攻撃を続けました。どうやら達磨寺の復興には鎌倉幕府の支援があったために、興福寺は攻撃の手をゆるめなかったようです。正安 4 年（1302）に著された「放光寺古今縁起」には放光寺が所有する 12 か所の溜池が書き上げられており、放光寺が関わる荘園の稲作に灌漑されていたと考えられます。荘園とは寺社や貴族が所有する田畑のことで、王寺町やその周辺地域には片岡荘、王寺荘や久土荘と呼ばれる荘園などがあったことがうかがえます。

② 南北朝時代

源氏による鎌倉幕府将軍が 3 代で途絶えた後、北条氏が中心となった執権政治が進められました。文保 2 年（1318）に即位した後醍醐天皇は、天皇中心の政治を目指して倒幕を計画・実行し、幕府軍に捕えられて隠岐島に流されたことがあったものの、皇子の護良親王らによって幕府への抵抗が続けられ、足利尊氏が味方したこともあって元弘 3 年（1333）に鎌倉幕府が滅びました。

『太平記』によれば、元弘元年（1331）に後醍醐天皇が幕府軍に捕えられた後、大塔宮護良親王は片岡八郎利一を含む 9 人の武士とともに奈良から熊野へ落ちのびました。一行は、行先を十津川に変え、辻堂にしばらく滞在しましたが、命の危険が迫ったために高野山へ向かうことにしました。途中、小原の玉木庄司という人物を味方にしなければ通行できない箇所があり、親王は片岡八郎と矢田彦七を遣わして道を開けてもらうよう説得に行かせましたが、片岡と矢田は玉木の軍勢に襲撃され、矢で射られた片岡は親王に窮状を伝えるために身を挺して矢田を逃がし、自身はそこで討死しました。親王は片岡八郎のおかげで命の危機から救われました。この『太平記』に描かれる片岡八郎利一という人物は、武士団片岡氏の「大和国葛下郡片岡系図」に記され、その後裔の家が王寺町にあることから王寺町出身の武士であったといわれています。

③ 室町・戦国時代

大和国（奈良県）の各地の武士（国人といいます）は自らの領土を守るため、摂関家との深い関わりから一国を支配するほどの権力を誇っていた興福寺に衆徒・国民となって仕えていましたが、それぞれが勢力の伸長を図って争いを繰り返していました。しかも、室町幕府の管領などとして権勢をふるった畠山氏の家督争いとも連動して、勢力図はめまぐるしく変わっていきます。

片岡氏は、もとは香芝市の今泉を本拠にする武士団でした。戦国時代になってからは、畠山義就を継いだ義豊について戦況を優位に進めていましたが、やがて情勢が変化し、明応７年（1498）には畠山尚順が率いる河内勢に攻め落とされて当主が討死しました。討死したのは「大和国葛下郡片岡系図」に書かれている片岡利持だと考えられます。利持には子息がいなかったため片岡家が断絶する恐れがありましたが、王寺町を本拠にしていた片岡弥五郎道春を当主に迎えることで家の存続が図られました。「大和国葛下郡片岡系図」によれば、道春は春日若宮から神を勧請して親殿神社（本町２丁目）を創建し、氏神として崇敬したといいます。そして、道春の子である国春が下牧村（上牧町）に居城（上牧町の片岡城跡）を構えました。親殿神社には自然地形とは考えられない堀切があって、もとは片岡氏の居館・城ではなかったかと考えられます。

片岡弥五郎道春像

永承元年（1046）の雷による火災がきっかけで衰退していた片岡王寺（中世には放光寺〔本町２丁目〕と呼ばれるようになります）は室町時代に復興し始めます。「放光寺古今縁起」によれば、応安４年（1371）に金堂の柱立てが行われ、至徳元年（1384）に完成供養が営まれるなどしました。また、達磨寺（本町２丁目）も禅宗を保護した室町幕府将軍の支援によって大きく復興していきます。その復興過程については、重要文化財の達磨寺中興記石幢から明らかになります。達磨寺中興記石幢は、永享７年（1435）に南禅寺の惟肖が「達磨寺中興記」を撰述し、文安５年（1448）に達磨寺の祖能が石幢にして建立しました。

達磨寺中興記石幢

「達磨寺中興記」によれば、達磨寺の復興は、相伴衆として室町幕府の政治にも参加した山名時熙が達磨寺の衰退を知り、義満・義持・義教の将軍に復興を勧めたことで実現していきました。途中、興福寺・東大寺から妨害されることもありましたが、とりわけ足利義教の時代に山名が住職に南峯祖能を推薦し、祖能は達磨塚のところに塔をつくって新像を安置し、聖徳太子像も並べました。塔の他にも経

室・仏殿・僧堂をつくったといいます。この南峯祖能がつくった新像こそが今も達磨寺本尊として祀られる重要文化財の木造達磨坐像であり、永享２年（1430）に足利義教の命によってつくられました。本尊の聖徳太子・達磨大師をモデルにした絹本著色の画像２幅は、銘文から永享３年（1431）に周文が描いたことになっており、太子・達磨像の画面上方には、それぞれが詠んだ歌を記した足利義教の賛があります。しかし、実際は江戸時代に模写されたもののようです。達磨寺の木造千手観音坐像（王寺町指定文化財）は、銘文がないものの 15 世紀の作品であり、千手観音像のなかでも多くの手を持つことや掌に表現される眼が玉眼でつくられていることなどから、これも足利将軍の支援のもとにつくられた像ではないかと推定されます。平成 12 年には達磨寺中興記石幢の地下から南峯祖能に関係する石碑（嘉吉二年銘）、大甕、青磁香炉が出土し、重要文化財の附に追加指定されました。

④ 安土・桃山時代

室町幕府のもとで政治の中心を担い、畿内周辺を支配していた三好長慶の勢力として松永久秀が永禄２年（1559）に大和に入ってくると、国人たちはたちまちに攻略され、久秀は織田信長に従って大和一国の支配を任されるようになりました。

永禄 12 年（1569）４月８日、松永久秀は信貴山城から出陣し、筒井順慶の妹と縁組して筒井方となっていた片岡新助春利を片岡城（上牧町）に攻め、片岡春利は善戦したものの 16 日には城を攻略されました。「片岡氏系譜」という史料によれば、松永久秀が片岡氏を攻めたとき、片岡氏は放光寺（本町２丁目）に陣を構えて戦い、馬ヶ脊城へ引き退いて落城となったのちも朝ヶ原（芦田池付近のこと）で大戦となり、久秀は放光寺・達磨寺を焼き払ったといいます。達磨寺（本町２丁目）には、かつて境内の北・南・東の三方に堀が掘られ、土塁が築かれていました。また、平成 19 ～ 20 年の発掘調査では、馬坂と呼ばれた孝霊天皇陵（本町３丁目）がある南側の山中で、馬ヶ脊城にあたると考えられる城跡が発見されました。「片岡氏系譜」にどこまで本当のことが書かれているかはわかりませんが、王寺町を舞台に松永氏と片岡氏の戦が繰り広げられたことは史実だと考えられます。

馬ヶ脊城跡

その後、織田信長の命によって大和一国の支配が筒井順慶に任されると、松永久秀は信長に反旗を翻し、天正５年（1577）９月、信長軍の筒井順慶・明智光秀らが片岡城を攻めて 10 月１日に落城。10 月 10 日に織田軍に信貴山城を包囲された松永久秀が自害しました。「達磨寺略記」によれば、筒井順慶が松永の遺体を達磨寺へ葬ったといい、達磨寺には今も松永久秀の墓と伝えられる無縫塔があります。

（４）近世―大和川がある王寺の生活

① 江戸時代

織田信長が倒れた後、豊臣秀吉は領土を日本全国に広げていくなかで、田畑を統一した単位で測量する太閤検地を行い、同時に村の境界を確定する村切りを行いました。これによって、王寺町に王寺村（村高 1,571 石余）・藤井村（村高 135 石余）・畠田村（村高 820 石余）の３か村が誕生し、慶長７年（1602）に徳川家康が達磨寺に 30 石を寄進したことで門前村が成立しました。

徳川家康から達磨寺への朱印状

江戸幕府は、幕府が直接支配する幕府領と大名が支配する藩領などによって全国を支配しており、加賀藩や岡山藩、薩摩藩などのように一つの藩が一国以上を領有していることを領国支配といいますが、摂津・河内・大和といった畿内の多くは一つの国がたくさんの領主に分かれる非領国の地域でした。そのため、王寺町でも村によって領主が異なり、時期によって変遷しました。王寺村は、初め幕府領でしたが元和５年（1619）に大和郡山藩領、延宝７年（1679）に再び幕府領となり、門前村は、江戸時代をつうじて達磨寺領、藤井村は、初め餌指領で貞享５年（1688）から幕府領、享和元年（1801）から大和郡山藩領となり、畠田村は、初め幕府領でしたが元和５年（1619）から大和郡山藩領でした。

『大和名所図会』に描かれた藤井問屋

王寺町の北端には、天下の台所と呼ばれた都市・大坂と大和の内陸部を結ぶ大和川が流れています。大和川には舟運があって大坂と河内国・大和国の国境にあたる亀の瀬の間を剣先船が、亀の瀬と大和の各地の間を魚梁船が行き来していました。亀の瀬では、藤井村の庄兵衛が藤井問屋と呼ばれた剣先船の荷物を扱う荷継問屋を営み、池内家（藤井３丁目）には荷継ぎする際に使用された印判の藤井問屋（通運会社）関係印判類（王寺町指定文化財）が残されています。

文政 13 年（1830）、全国の数十万人にも及ぶ人々が伊勢に参宮する現象であるおかげ参りが発生しました。このとき、藤井村では閏３月 15 日頃から５日間ほど奈良街道が通る大和川対岸の立野村（三郷町）に施行所を設けて茶・握り飯・銭などをふるまい、明神山の山頂にはお札が降って参詣者が出始めたため、送迎太神宮という神社が建てられました。文政 13 年（1830）の冬には本社ができ、翌天保２年（1831）にも参詣が続いて畠田村に茶屋・万金丹屋などができて大いににぎわいましたが、同年５月に大和郡山藩主によって焼き捨てられてしまいました。それは送迎

道標が転用された白山姫神社の石段

太神宮が偽の皇太神宮だったからだと伝えられています。

天理大学附属天理図書館などには「和州送迎太神宮之図」という絵図が所蔵されています。摺物であるので、当時の参詣者に数多く配布されたのでしょう。絵図には「御本宮」のある明神山の山頂から住吉方面を見通し、景色を楽しんでいる人の姿も描かれています。送迎太神宮は、わずか１年たらずのうちに焼き捨てられたため、現在はその痕跡がまったくといって良いほど残っていませんが、火幡神社（畠田５丁目）鳥居前の石灯籠と白山姫神社（畠田８丁目）の石段に転用された道標、それに白山姫神社の石鳥居は、もとは送迎太神宮に奉納されていたものと考えられます。

また、送迎太神宮への参詣道でもある明神山参道は国分（大阪府柏原市）へ抜ける送迎道という街道でもあり、江戸時代の人々はここを聖徳太子が往来していたと考えていたようで、明神山の参道に「聖徳太子マナイタ石」「聖徳太子小便石」を描いた絵図（天理大学附属天理図書館所蔵）も残されています。これらの石は、今はもうありませんが、おそらく聖徳太子に供膳するための調理をした、聖徳太子が用を足されたというような伝承が備わっていたと想像できます。そもそも送迎という地名には、聖徳太子が生前に墓所を視察されたとき、送りの使いと迎えの使いが落ち合った場所で、その時間帯が昼飯どきであったから「送迎」と書いて「ひるめ」と読むのだという伝説があります。

農業中心だった王寺町のなかにも門前村の谷甚四郎家のように、酒屋・質屋・肥屋などを多角的に経営していた家もありました。谷家は大坂の町屋敷を所有し、店貸ししてもいましたし、安政（1854～1860）の頃から吉野の山林地主となり始め、明治以降に大山林地主として成長していきます。谷家では、文久元年（1861）建立の主屋を今も使用しており、家の造りは山林地主にふさわしい豪壮な用材を多用したものとなっています。

谷家主屋の内部

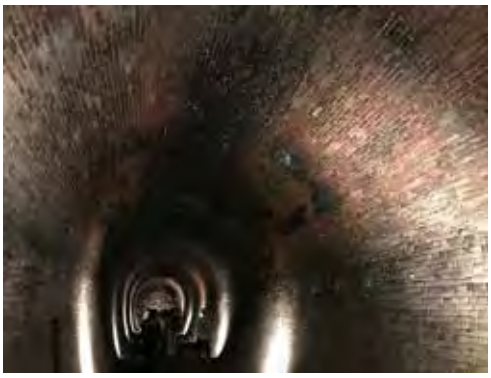
（５）近代―「鉄道のまち」王寺のはじまり

① 明治時代

江戸幕府将軍の徳川慶喜が大政奉還して明治新政府が樹立すると、天皇を中心とする中央集権国家の体制整備や封建社会から資本主義社会への移行など、政治・経済・社会・文化のあらゆる面で近代化が図られていきました。そうしたなか、明治４年（1871）７月に廃藩置県が実施され、同年 11 月には府県統廃合によって現在と同じ行政区画となる奈良県が成立しました。しかし、それも束の間で明治９年（1876）には奈良県が堺県に合併され、さらに同 14 年（1881）には堺県が大阪府に合併されましたが、東安堵村（安堵町）の今村勤三らの再設置運動によって明治 20 年（1887）に再び奈良県が設置されました。

大和川の北側を通って大坂と奈良を結んでいた奈良街道は、運輸の便を図るため明治５年（1872）に国分村（大阪府柏原市）から大和川の南岸を通って勢野村（三郷町）に至る「亀瀬新街道」が開かれることになりました。これは現在の国道 25 号に相当するルートで、新たに「大和川新橋」が架けられました。「大和川新橋」とは今の明治橋のことで、明治時代に新たに架けられたためにそう名づけられた橋です。明治 10 年（1877）２月 12 日には明治天皇が大和行幸で下田村（香芝市）から亀瀬新街道を通って道明寺（羽曳野市）に向かわれ、その途中に藤井村の長尾治平宅で小休されています。

明治時代には、陸上輸送を効率化させて産業を発展させるために鉄道が敷設されていきました。現在のＪＲ関西本線（大和路線）が初めて計画されたのは、明治 20 年（1887）１月のことで、大和国の今井町（橿原市）や北今市（香芝市）と分岐する地点を再三変更しつつ、翌 21 年（1888）９月に高井田村（大阪府柏原市）から大和川の北岸をさかのぼるルートに決定しました。



明治時代の亀瀬隧道（柏原市）

こうして大阪鉄道湊町・奈良間が敷設されることとなり、開通に向けた工事が進められたものの、亀の瀬トンネルの工事に時間を要したため、亀の瀬トンネル区間を残すようにして明治 22 年（1889）５月に湊町・柏原間、翌 23 年（1890）９月に柏原・亀ノ瀬間と順次開通し、奈良県初の鉄道となる王寺・奈良間が明治 23 年（1890）12 月に開通しました。その後、翌 24 年（1891）２月に王寺・高田間、稲葉山・王寺間が開通し、明治 25 年（1892）２月になって亀の瀬トンネルが完成して湊町・奈良間が全通しました。『大阪朝日新聞』によれば、開通当初は湊町・奈良間を１時間 30 分で結び、荷馬１匹が通るだけで珍しがられて村中が休んで騒いだというほどだった久度の集落が、王寺駅が開業したことでまたたく間に発展していきました。

松浦家住宅

松浦組の法被

国の登録文化財になっている松浦家住宅（久度２丁目）は、明治 24 年（1891）頃から鉄道トンネル工事を請け負うようになった「松浦組」の松浦音五郎（音吉ともいいます）が建てた家です。松浦組は旧ＪＲ信越本線（現在は廃線）の横川・軽井沢間、ＪＲ関西本線の大河原、旧ＪＲ山陰本線（現在は嵯峨野観光線）、山梨県甲州市あたりの旧ＪＲ中央本線、宮崎県えびの市あたりのＪＲ肥薩線など全国各地のトンネル工事に携わっていました。松浦家には当時のトンネル工事写真や松浦組の法被が残されています。松浦音五郎は、もとは王寺村の大田口に住んでいましたが、明治 43 年（1910）頃に王寺駅前に出て新しく家を建てたのが松浦家住宅です。

また、明治 24 年（1891）に王寺･高田間が開通したことは、喜ばしいことばかりでなく地域に深刻な課題を与えてもいました。葛下２丁目の薬王橋西詰にある「葛下川修堤碑」は、明治 25 年（1892）10 月に葛下川を改修した記念に建てられたものです。葛下川は頻繁に洪水が発生していたために明治 22 年（1889）と同 23 ～ 24 年（1890 ～ 91）の二度にわたって、蛇行した流路が改修されました。とくに二度目の改修は、王寺・高田間の線路が葛下川近くに敷設されることになれば線路を敷くための築堤がつくられることになり、それが洪水時の排水をふさいで付近が沼地のようになってしまうため、王寺村の人々は鉄道の敷設に反対し、大阪鉄道からは洪水時も排水できるように築堤を鉄橋に変更する案が提示されましたが、費用もかさむので結局は大阪鉄道からも費用を負担してもらうことで葛下川を付け替え、洪水が発生しないように対処されました。

② 大正時代

明治 25 年（1892）に湊町・奈良間が全通したことによって、大阪方面から奈良へ容易に移動できるようになり、王寺駅は信貴山朝護孫子寺へ参詣する人々がよく利用するようになりました。駅前には「米寿軒」や「餅政」といった料理旅館や駕籠商売ができて発展し、饅頭屋･食堂･劇場･魚屋･銭湯･呉服屋などもできて、久度の人口は鉄道開通前に比べると 10 倍にまで増加しました。さらに、大正７年（1918）には大和鉄道の田原本・新王寺間が開通し、同 11 年（1922）には信貴生駒電気鉄道の王寺・信貴山下間と信貴山下・信貴山間のケーブルが開通して、王寺駅の利便性が増していきました。こうして王寺村は、王寺駅を中心とした鉄道網が整備されるに従って人口を増加させ、ついに大正 15 年（1926）２月 11 日に町制が施行されて王寺町が誕生しました。

王寺町が誕生することになったのは王寺駅前の久度が発展したためですが、学校や役場が置かれたのは駅前ではなく、鉄道開通前の中心地であった本町２丁目付近です。ここは江戸時代に当麻街道と藤井・達磨寺道が交差したところで、片岡王寺（放光寺）があり達磨寺があるところです。王寺小学校は片岡王寺の遺跡の地につくられ、王寺村（町）役場は王寺小学校の敷地内にありました。役場が駅前の現在地に移転するのは昭和 11 年（1936）のことです。また、大正４年（1915）11 月 10 日には、南北朝時代に大塔宮護良親王を助けた片岡八郎に正五位が贈られました。片岡八郎が討死してから 580 年余りが経過していますが、その忠義の功が評価されて贈位されました。

王寺小学校の敷地内にあった頃の役場前にて

③ 昭和の戦前・戦中時代

明治以降、日本も欧米列強の国々と同じように世界へ勢力を伸ばそうとし、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦と戦争を重ねていきました。昭和６年（1931）の満州事変から十五年戦争と呼ばれる長い戦争へと突入します。そのような最中の昭和６年（1931）11 月、亀の瀬の河内堅上村峠区（大阪府柏原市）で地面に大きな亀裂が見つかりました。亀の瀬地すべりの発生です。地すべりとは土砂崩れとは違って、緩斜面でゆっくりと地面が大きな塊になってすべっていく現象のことをいいます。亀の瀬では数百万年前の火山活動の影響で粘土層からなるすべり面が形成され、その上の土が塊となって動きました。

ここに鉄道を通していた亀の瀬トンネルは明治 25 年（1892）に完成していましたが、地すべりの土圧によって危険な状態となって昭和７年（1932）２月１日に閉鎖され、トンネルの西口と東口に仮駅が設けられてその間は徒歩連絡となりました。その後、２月 10 日にトンネルが崩壊し、この路線の復旧策が検討されました。当初は香芝市方面を大きく迂回する案も出されていたものの、結局は亀の瀬部分だけを南側に迂回する現在の路線が採用されました。迂回路線が決定したのは６月で、そのわずか６か月後の昭和７年（1932）12 月 31 日に開通しました。

亀の瀬地すべりは、すべり面となる粘土層が峠区の大和川北斜面から川底、そして明神山のある川の南斜面にかけて形成されているため、峠区からすべった土塊に押されるようにして大和川の川底が隆起するのが特徴です。しかし、これが王寺町にとっては大きな問題で、川底が隆起することで水の流れが悪くなり、亀の瀬の上流に水が滞留して大正橋と藤井の 25 戸が浸水しました。昭和７年(1932)２月からは地すべりを起こした土と隆起した土を除去する復旧工事が始まり、亀の瀬から藤井、高山（三郷町立野）へトロッコ列車が敷設されて土砂が運び出されました。こ

地辷見学記念絵葉書

のとき元町２丁目付近の大和川沿岸が土砂置場とされました。現地には地すべりの様子を見ようと見学者が押し寄せ、多い日には１日に２万人も訪れたといいます。こうした見学者に対して、峠区の警備団が「地辷見学記念絵葉書」を発行しました。現在も様々な種類の絵葉書が残っており、これによって当時の被害状況や復旧工事の状況を克明に知ることができます。

対立が続いていた日中両国は、昭和 12 年（1937）から日中戦争へと発展しました。日本でも戦時体制が深まるなか、昭和 15 年（1940）が神武天皇の即位から 2600 年にあたることから国を挙げた奉祝行事が行われました。奈良県では紀元二千六百年記念行事として橿原神宮が拡張され、王寺町では片岡八郎を顕彰する石碑が建てられるなどしました。昭和 16 年（1941）にはアメリカとの戦争も始まり、物資が不足するようになると各地から金属が供出され、王寺町でも町民から鍋・やかん・古銭が、達磨寺や碧陽寺からは梵鐘が供出されました。達磨寺では「御用木」として参道の松も供出されています。王寺町でも戦争は決して無縁なものではなく、昭和 20 年（1945）７月 24 日に艦載機が王寺駅に飛来して機銃掃射で空襲し、大勢の人が怪我をして亡くなった人もありました。その後、しばらくは２日置きに空襲が続いたといいます。

王寺小学校に供出された金属

明治の終わりから大正、昭和と戦時色が濃くなるなか、日本の始まりの地である奈良県の郷土史が注目されるようになりました。保井芳太郎は、明治 14 年（1881）に王寺村久度に生まれ、郷土史研究に熱を入れるとともに郷土資料の収集もした人です。保井が集めた郷土資料は、寺院の遺跡から出土する古瓦と中世から近代に至る古文書・古記録が中心です。保井は、最終的に実に古瓦約 3,000 点、古文書・古記録は約６万点も収集して郷土史研究を進め、ときには収集品を自宅で展覧しました。これらの収集品には王寺町のものも多く含まれており、保井は初めて王寺町の歴史文化に光を当てた人でもあります。『大和古瓦図録』『大和上代寺院志』『大和王寺文化史論』など多くの業績をおさめ、昭和 20 年（1945）３月に亡くなりました。現在、保井の収集品は古瓦が天理大学附属天理参考館に、古文書・古記録が天理大学附属天理図書館に所蔵されています。

（６）現代―住宅地の開発と王寺に暮らす人々

① 昭和の戦後時代

長く続いた戦争が昭和 20 年（1945）８月 15 日に終結した後、王寺駅前の商店街はますます活気を見せるようになり、昭和 20 年代後半以降、毎年夏に商工祭りがにぎやかに開催されました。王寺駅を中心にした交通の利便性から、王寺町内では多くの住宅地が開発され、大阪のベッドタウンとして発展していきます。昭和 30 年代後半から丘陵谷間の水田や畑、それに葛下川周辺の平坦部にあった水田が住宅地に変わり、昭和 50 年代後半からは明神山の東山麓を切り開くことで大規模に住宅地が開発されていきました。王寺の白瓜に生まれ育った土谷清は、保井芳太郎に続く王寺町の郷土史家で、昭和 46 年に『白瓜風土記』を自費出版したり、昭和 51 年には「王寺町石造物調査集」を作製して王寺町に寄贈したりして、住宅地開発や高度経済成長によって変化する郷土の景観や人々の暮らしのあり様を残そうと努力した人です。

昭和 29 年商工祭りでの「変装競争」

昭和 41 年、住宅地開発が続いて旧来からの集落との区別が難しくなってくると、新しい住宅地と旧集落との一体化を図るために住居表示による町名の改称が行われ、それまで大峯・大田口、張井・井戸・白瓜などと呼ばれていた地区が、元町１～２丁目、本町１～５丁目などの町名に再編されました。昭和 49 年には王寺駅南側の住宅地と駅舎をつなぐために久度大橋が架けられ、翌 50 年には駅南口広場が整備され、同 53 年には王寺駅が橋上化されて北からも南からも利用できるようになりました。平成になってからは久度の駅前が再開発され、王寺スカイヒルズ（南元町１～３丁目）などの住宅地も開発されています。

完成した頃の久度大橋

第３章　文化財に関わる取組みの経過

３－１．指定及び登録の文化財

国では文化財保護法、奈良県では奈良県文化財保護条例、王寺町では王寺町文化財保護条例に基づいて、それぞれ国にとって、奈良県にとって、王寺町にとって重要な文化財が指定されています。王寺町には、平成 31 年 3 月現在で 15 件の指定文化財があります。また、国の文化財保護法では文化財登録原簿に登録して保存と活用を図る登録文化財の制度があり、王寺町では 6 件の登録文化財があります。

これらを指定の主体別に見ると、国による指定が 4 件、県による指定が 6 件、町による指定が 5 件となっています。種別では、有形文化財の建造物が登録を合わせて 7 件、美術工芸が 10 件、有形民俗文化財が 1 件、史跡が 3 件と美術工芸が最も多く、反対に動物・植物の記念物、庭園・峡谷といった名勝地は指定が 1 件もありません。所有者別では全体で 21 件の指定及び登録文化財のうち、11 件が達磨寺の文化財となっています。

＜表３- １　指定及び登録の文化財件数＞

種別			国		県	町	計	
			指定	登録	指定	指定		
有形文化財	建造物			6	1		7	
	美術工芸	絵画	1				1	10
		彫刻	2		1	1	4	
		書跡・典籍				1	1	
		古文書	1				1	
		考古資料			1		1	
		歴史資料				2	2	
民俗文化財	有形民俗					1	1	
記念物	史跡				3		3	
計		（指定）	4		6	5	15	21
		（登録）		6			6	

＜表３- ２　国指定重要文化財＞

写真		
名称	木造達磨坐像	絹本著色涅槃図
時代	室町（永享２年・1430）	平安（後期）
指定年月日	明治 42．9．21	明治 45．2．8
所有者	達磨寺	達磨寺
所在地	本町２丁目	奈良国立博物館

写真		
名称	木造聖徳太子坐像	達磨寺中興記石幢 附 石碑 嘉吉二年銘 青磁香炉、大甕
時代	鎌倉（建治３年・1277）	室町（文安５年・1448） 室町（嘉吉２年・1442） 室町（15 世紀）
指定年月日	大正 12．3．28	大正 12．3．28 平成 14．6．28 平成 14．6．28
所有者	達磨寺	達磨寺
所在地	本町２丁目	本町２丁目

＜表３- ３　奈良県指定文化財＞

写真		
名称	木造薬師如来坐像	達磨寺方丈
時代	室町（14 世紀）	江戸（寛文７年・1667）
指定年月日	昭和 44．３.28	平成元．３.10
所有者	品善寺	達磨寺
所在地	元町２丁目	本町２丁目

写真		
名称	畠田古墳	達磨寺出土石塔及び舎利容器
時代	古墳（７世紀初頭）	鎌倉（13 世紀）
指定年月日	平成 19．３.30	平成 26．３.28
所有者	王寺町	達磨寺
所在地	明神４丁目	本町２丁目

写真		
名称	達磨寺石塔埋納遺構	西安寺跡
時代	鎌倉（13 世紀）	飛鳥～室町（７～ 16 世紀）
指定年月日	平成 26．３.28	平成 31．２.22
所有者	達磨寺	舟戸神社
所在地	本町２丁目	舟戸２丁目

＜表３- ４　王寺町指定文化財＞

写真			
名称	木造千手観音坐像	藤井問屋（通運会社） 関係印判類	石造雪丸像
時代	室町（15 世紀）	江戸・明治（17・19 世紀）	江戸（後期）
指定年月日	平成 17．３．８	平成 18．３.29	平成 28．３.25
所有者	達磨寺	池内修氏	達磨寺
所在地	本町２丁目	藤井３丁目	本町２丁目

写真		
名称	達磨寺旧本堂瓦製露盤	聖徳太子御絵指示
時代	江戸（元禄５年・1692）	鎌倉（末期）
指定年月日	平成 28．３.25	平成 28．３.25
所有者	達磨寺	達磨寺
所在地	本町２丁目	本町２丁目

＜表３- ５　国登録文化財＞

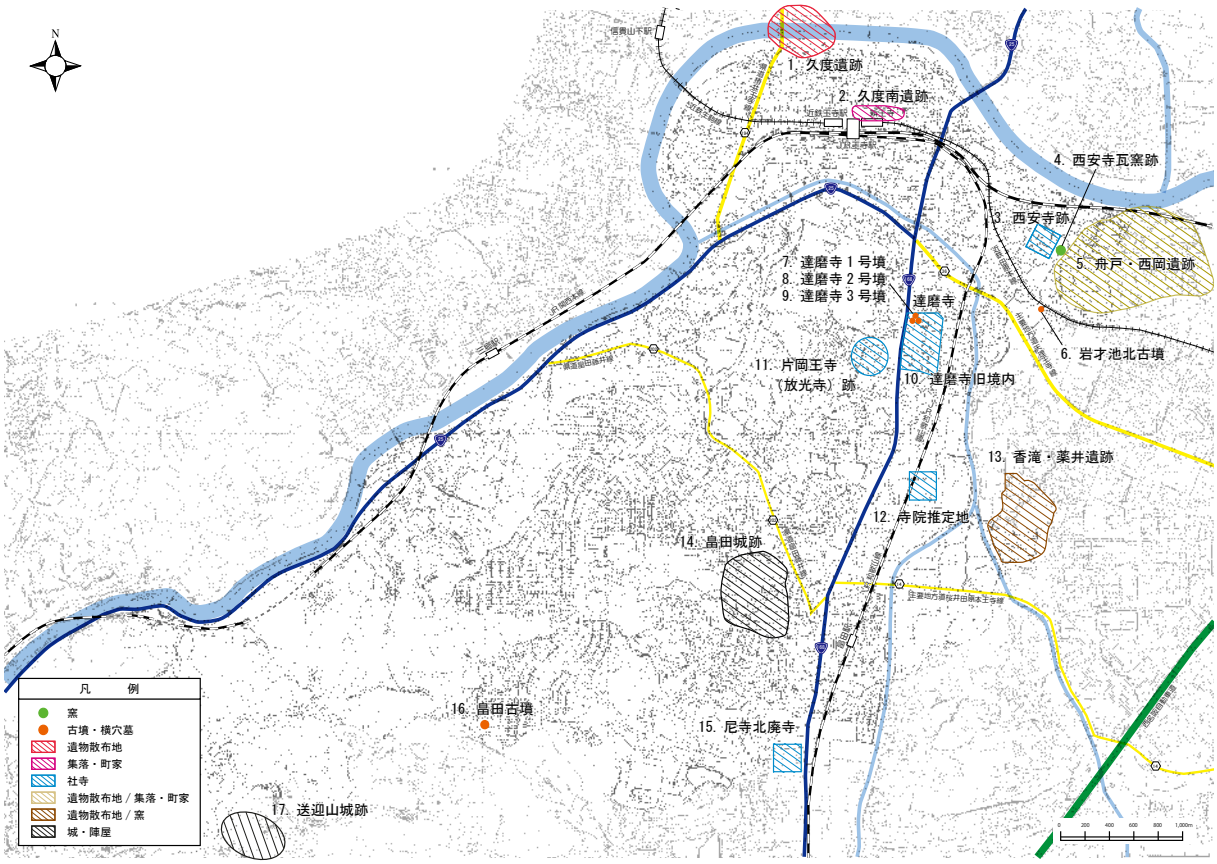
	名称	松浦家住宅主屋 松浦家住宅離れ 松浦家住宅旧米蔵 松浦家住宅門長屋 松浦家住宅道具蔵	松浦家住宅旧診察室
	時代	明治 43 年（1910）頃	昭和 21 年（1946）
	登録年月日	平成 22．９.10	平成 22．９.10
	所有者	松浦敦子氏	松浦敦子氏
	所在地	久度２丁目	久度２丁目

3－2．文化財の調査

（1）周知の埋蔵文化財包蔵地

周知の埋蔵文化財包蔵地とは、貝づかや古墳など埋蔵文化財を包蔵する土地のことで、そこで工事などの掘削を行う場合、文化財保護法によって事前に届け出ることが義務づけられています。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲については、分布調査などに基づいて「奈良県遺跡地図」に示されていますが、発掘調査などによって変更されたり、新規に追加されたりすることがあります。王寺町では、平成 31 年 3 月現在、17 件の周知の埋蔵文化財包蔵地があります。

なお、17 件のうち舟戸・西岡遺跡、西安寺跡、西安寺瓦窯跡、片岡王寺跡、尼寺北廃寺は、重要遺跡になっており、特に慎重な取扱いが必要です。



＜図 3- 1　周知の埋蔵文化財包蔵地＞

（２）奈良県による調査報告書

① 有形文化財

○『民家緊急調査報告書』奈良県文化財調査報告書第 13 集、昭和 45 年 3 月発行

＜表３- ６　調査対象の民家＞

所在地	年代	種類	調査次数	現状
藤井3丁目	18 世紀	農・舟問屋	2	
本町2丁目	安政7年・板絵	農	2	
本町2丁目	寛政5年以前・祈祷札	農	2	現存しない
畠田7丁目		農	2	
本町2丁目	19 世紀	社家	1	現存しない
本町2丁目		農	1	
久度2丁目	19 世紀中・明治初	農	1	

○『奈良県の近世社寺建築』近世社寺建築緊急調査報告書、昭和 62 年 5 月発行

＜表３- ７　２次調査対象の社寺建築＞

名称	時代	構造形式等	所在地
達磨寺方丈	江戸（寛文7年）	東面切妻造、西面入母屋造、本瓦葺	本町2丁目
永福寺本堂	17 世紀中期	入母屋造、向拝一間、本瓦葺	畠田7丁目
永福寺観音堂	貞享5年	寄棟造、向拝一間、本瓦葺	畠田7丁目

○『奈良県の近代和風建築』奈良県近代和風建築総合調査報告書、平成 23 年 3 月発行

＜表３- ８　２次調査対象の近代和風建築＞

名称	時代	用途（構造形式）	所在地
涌玄堂・松浦家住宅	明治 42 年	住宅（木造平屋建）	久度2丁目

○『奈良県の近代化遺産』奈良県近代化遺産総合調査報告書、平成 26 年 3 月発行

＜表３- ９　調査対象の近代化遺産＞

名称	建設年代	種別（当初用途）	所在地
T家住宅東蔵		建築物（倉庫）	本町
大和川揚水機の水路跡		土木工作物（用水路）	舟戸
ニチアス株式会社　王寺工場	昭和 11 年頃	建築物（工場）	王寺
植嶋肥料㈱王寺倉庫（※現存しない）		建築物（倉庫）	久度
三桜酒造㈱作業場か		建築物（倉庫）	本町
ＪＲ王寺駅プラットホーム	明治 23 年	土木工作物（プラットホーム）	王寺
第一井路開渠	明治 23 年	土木工作物（開渠）	王寺
ＪＲ大和路線第２大和川橋梁	明治 24 年	土木工作物（橋梁）	王寺

名称	建設年代	種別（当初用途）	所在地
ＪＲ大和路線第３大和川橋梁	昭和７年	土木工作物（橋梁）	藤井
ＪＲ大和路線 25 号線高架橋	昭和７年	土木工作物（橋梁）	藤井
（仮称）ＪＲ大和路線藤井高架橋	昭和７年	土木工作物（橋梁）	藤井
ＪＲ大和路線明神第１トンネル	昭和７年	土木工作物（トンネル）	藤井
ＪＲ大和路線明神第２トンネル	昭和７年	土木工作物（トンネル）	藤井
ＪＲ和歌山線葛下川橋梁	明治 24 年	土木工作物（橋梁）	葛下
（仮称）ＪＲ和歌山線高架橋	明治 24 年	土木工作物（橋梁）	葛下
（仮称）ＪＲ和歌山線蜆川開渠	明治 24 年	土木工作物（開渠）	葛下
（仮称）ＪＲ和歌山線水路開渠	明治 24 年	土木工作物（開渠）	本町
（仮称）ＪＲ和歌山線水路開渠	明治 24 年	土木工作物（開渠）	葛下
（仮称）ＪＲ和歌山線水路開渠	明治 24 年	土木工作物（開渠）	本町
（仮称）ＪＲ和歌山線水路開渠	明治 24 年	土木工作物（開渠）	畠田
（仮称）ＪＲ和歌山線水路開渠	明治 24 年	土木工作物（開渠）	畠田
（仮称）ＪＲ和歌山線水路開渠	明治 24 年	土木工作物（開渠）	畠田
近鉄生駒線大和川橋梁	大正 11 年	土木工作物（橋梁）	久度
（仮称）近鉄田原本線ＪＲ大和路線高架橋	大正７年	土木工作物（橋梁）	舟戸
（仮称）近鉄田原本線舟戸２丁目高架橋	大正７年	土木工作物（橋梁）	舟戸
（仮称）近鉄田原本線用水路暗渠	大正７年	土木工作物（暗渠）	久度
近鉄田原本線築堤	大正７年	土木工作物（築堤）	舟戸
旧昭和橋橋脚基礎	昭和８年	土木工作物（橋梁）	久度
舟戸神社神前橋	昭和 16 年	土木工作物（橋梁）	舟戸
国道 25 号線跨線橋	昭和 13 年	土木工作物（橋梁）	王寺
孝霊天皇陵参道（国道 168 号、県道 201 号ほか）	昭和 15 年３月	土木工作物（道路）	本町
王寺町消防団第１分団屯所	昭和 17 年	建築物（消防屯所）	久度
M家住宅	明治 43 年	建築物（住宅）	久度

○『奈良県所在近世の版本大般若経調査報告書』本文篇・資料篇、平成 17 年３月発行

＜表３-10　調査対象の版本大般若経＞

寺院名	時代	種類	所在地
岩松寺	明治 18 年	黄檗版	本町１丁目
岩松寺	室町末期	春日版後摺	本町１丁目
達磨寺	寛政 10 年	黄檗版	本町２丁目

② 民俗文化財

○『奈良県の祭り・行事』奈良県祭り・行事調査報告書、平成 21 年３月発行

＜表３-11　基礎調査対象の祭り・行事＞

行事名	伝承地	実施日
薬師会（ヨウカイ）	元町２丁目（大田口）薬師堂	４月８日、９月８日
庚申講（コウシンマチ）	元町２丁目（大田口）	庚申の日の直近の土曜日
御回在（ニョライサン）	元町１丁目(大峯)、元町２丁目(大田口)	10 月３日
尼講	元町２丁目（大田口）薬師堂	毎月 17 日
宮址祭（片岡神社旧址・元宮／金毘羅さん･ハッツォサン／十日節〈トオカヅキ〉）	元町１丁目（大峯）片岡神社旧址･元宮、金毘羅宮、ハッツォサンの祠	２月 11 日
神酒定め	元町１丁目（大峯）	10 月 16 日
片岡神社の例祭（本宮）	本町２丁目	10 月 25、26 日直前の土・日曜日
お日待講（オヒマッツアン・オヒマツ）	元町１丁目（大峯）	１月 14 日 ５月・９月の最終日曜日
お大師サンの井戸カエ 七日盆	元町１丁目（大峯）お大師さんの井戸	８月７日
達磨寺の達磨会式	本町２丁目	４月 11 日
乳かけ地蔵堂・乳かけ地蔵（ママタレ地蔵）の地蔵盆	畠田７丁目	８月 23 日
愛宕サンの祭り	畠田７丁目（小黒）	４月 23 日
久度神社の例祭	久度４丁目　久度神社	10 月最終の土・日曜日
舟戸神社の本祭	舟戸２丁目　舟戸神社	10 月 25、26 日直前の日曜日 （片岡神社の例祭に合わせる）
親殿（おやどの）神社の宵宮	本町２丁目　親殿神社	９月 25 日
火幡（ほばた）神社の宵宮	畠田５丁目　火幡神社	９月 16 日
白山姫神社の本宮	畠田８丁目	10 月 21、22 日直前の土・日曜日
井戸の地蔵さん（地蔵盆）	本町２丁目　安専寺北隣の井戸	８月 24 日
水神社の八朔祭（かつてはヒルゴモリと呼ばれた）	畠田明神山山頂　水神社・本殿	９月１日

○『奈良県民俗芸能データベース＜抽出資料編＞』平成 22 年３月発行

＜表３-12　調査対象の民俗芸能＞

民俗芸能名	祭礼等の名称	実施場所
ナモゼ（ナムデ）踊り	雨乞い	モモンジ（明神山頂）
盆踊り		畠田六斎念仏供養碑前

（３）地域史の刊行

王寺町では、これまで町の歴史をまとめた図書として５冊刊行されてきました。最も古いのが昭和 12 年（1937）に刊行された『大和王寺文化史論』で、これは王寺町久度出身の郷土史家である保井芳太郎氏が町に依頼されて編集したものです。著名な研究者によって執筆された論文集であり、保井芳太郎氏が収集した史資料が使われているのも特徴です。大和史学会から出版され、この本の刊行で地理・歴史・考古・美術・自然など町の全体像が初めて提示されました。

王寺町に関連する地域史

次いで刊行されたのが昭和 44 年の『王寺町史』で、王寺町が編集・発行しました。先の『大和王寺文化史論』とは違って、地理、歴史、民俗、社寺、文学、動物、植物などの各分野で概要がとりまとめられました。なかでも民俗分野の記述が充実しており、昭和 40 年代の編集ということもあって、現在では知ることのできない昔からの生活習慣が当時の古老から詳細に聞き取られています。

次に刊行されたのは『新訂王寺町史』で、平成 12 年に本文編･資料編の２冊が刊行されました。先の『王寺町史』から町の景観や生活が大きく変わったこともあり、西暦 2000 年を記念して町史編纂事業が始められました。この編纂事業で重要なのが、町史を発刊するだけでなく、歴史資料の悉皆調査を目的としたことです。事業期間中に古文書、美術工芸、建造物、民俗など各分野で調査を行い、町史編纂後の取組みに役立っています。

また、平成 16 年から王寺町土地改良推進協議会によって『王寺町水利史』の編纂が行われ、同 21 年に刊行されました。平成 27 年には、町制施行 90 周年を記念して王寺町の歴史についてテーマ別に、誰にでもわかりやすく記述した『やさしく読める王寺町の歴史』が刊行され、町内全戸に無償配布されました。

＜表３-13　王寺町の歴史に関する刊行物＞

書名	著者・編集者	発行者	出版・発行年
大和王寺文化史論	保井芳太郎	大和史学会	昭和 12 年
王寺町史	王寺町史編集委員会	王寺町	昭和 44 年
新訂王寺町史	王寺町史編集委員会	王寺町	平成 12 年
王寺町水利史	王寺町水利史編集委員会	王寺町	平成 21 年
やさしく読める王寺町の歴史	岡島永昌	王寺町	平成 27 年

（４）王寺町による文化財把握

① 古文書・古記録

古文書（こもんじょ）・古記録（こきろく）に関しては、これまでに 23 件、14,679 点の史料を調査してきました。その多くは『新訂王寺町史』編纂事業を契機に所在を確認したもので、確認できた文書群については悉皆で作成年月日・表題・発信人・受信人などのリスト作成、マイクロカメラによる全ページ撮影、その紙焼きを行いました。原則として調査した史料は返却し、王寺町ではマイクロフィルム・紙焼き製本を所蔵しています。また、『王寺町水利史』編纂事業などによっても所在が確認できた文書群があり、その都度、同様に悉皆調査を行っています。ただし、久度・隧道請負業の文書群についてはマイクロカメラによる撮影は行わず、すべてデジタルカメラで撮影し、データを王寺町で保管しています。

以上の調査によって、王寺町の近世・近代史の解明に役立っているといえますが、一部で全点調査できていない文書群があり、達磨寺文書については平成 17 年に『門前・達磨寺文書調査報告書』を刊行しました。今後、新たに所在の確認できる文書群が出てくることも考えられます。

＜表３-14　これまでに調査した文書群＞

大字	集落・文書群の特徴（年代）	点数（未調査）	調査年
王寺	久度・郷土史家が収集した文書の一部（近世・近代）	111 点	平成 11 年
	久度・旧門前村文書を収集したもの（近世・近代）	997 点	平成 11 年
	久度・講関係（近代）	109 点	平成 13 年
	久度・村史編纂や水利の関係（近代）	178 点	平成 17 年
	久度・王寺村耕地整理組合（近代）	2 点	平成 17 年
	久度・隧道請負業（近代）	2,559 点	平成 21 年
	張井・王寺村の庄屋家（近世・近代）	257 点	平成 10 年
	池の原・武士団片岡氏の後裔（近世・近代）	388 点	平成 10 年
	芦田池水利組合長引継文書（近代）	108 点	平成 18 年
	白瓜・紺屋の商家（近世・近代）	249 点	平成 10 年
	大峯・水利関係（近代）	41 点	平成 11 年
	門前・達磨寺文書（中世～近代）	730 点	平成 10 年
	門前・肥屋等の商家・吉野林業（近世・近代）	3,190 点	平成 11 年
	門前・王寺町が古書店から購入した肥料等の商家文書（近世）	255 点 （約 500 点）	平成 18 年
	門前・片岡神社宮司家（近代）	1,001 点	平成 11 年
藤井	藤井村の庄屋家・藤井問屋（近世・近代）	260 点	平成 10 年
畠田	小黒・畠田村の庄屋家（近世・近代）	1,160 点	平成 9 年

大字	集落・文書群の特徴（年代）	点数（未調査）	調査年
畠田	送迎・畠田村の庄屋・県会議員家（近世・近代）	2,567 点 （約 2,000 点）	平成 12 年
	畠田水利組引継文書（近代）	28 点	平成 17 年
町外	三郷町立野南・藤井関係（近代）	19 点	平成 13 年
	上牧町南上牧・奈良県立図書情報館所蔵戸長家（近代）	364 点	平成 11 年
	香芝市上中・郡山藩大庄屋（近世）	82 点	平成 11 年
	天理市南六条・魚梁船関係（近世）	24 点	平成 12 年
総計 23 件		14,679 点 （約 2,500 点）	

また、『新訂王寺町史』編纂事業のなかで新聞記事を調査しました。奈良県立図書情報館の協力により、新聞マイクロフィルムを通覧し、明治 16 年（1883）から昭和 8 年（1933）にわたる王寺町に関連する 337 点の新聞記事をスクラップしています。主な記事は、鉄道開通、風水害、町制施行、亀の瀬地すべりに関するものです。

② 民俗文化財

民俗文化財については『王寺町史』の記述が詳しく、昭和 44 年に刊行された当時に古老から聞き取った内容が紹介されています。現在ではすでに失われてしまっている年中行事や生活習慣なども多く、その記述に資料的な価値があるといえます。また、奈良県立図書情報館には、大正 4 年（1915）に作成された『奈良県風俗志資料』が所蔵されており、北葛城郡の五位堂村・二上村・下田村・志都美村・上牧村・王寺村における総合的な記述となっているものの、当時の冠婚葬祭や年中行事などについて詳しく記載されています。

＜表 3-15 『王寺町史』民俗の聞き取りに関する記述項目＞

集落名	分類	項目
大田口	信仰	金計神社址、品善寺、薬師山の薬師さん、地蔵さん（九本柱の地蔵さん、カボチャクイ地蔵、愛宕さんの地蔵さん、地蔵祭り）、愛宕さん、尾仲家のハツオさん、講（オヒマッツァン、庚申マチ、尼講）
大峯	信仰	モトミヤ、ザと祭礼、お大師さんの井戸と地蔵さん、金毘羅さん、庚申さん、ハッツォサン、講（伊勢講、庚申マチ、尼講）

集落名	分類	項目
大峯 大田口	年中行事	正月準備（餅搗き、モチバナ、シメナワ、カドマツ、オオツモゴリ） 正月行事（ハツミズ、雑煮、イワイ、初詣、お寺の年始廻り、セイチ、カミドシコシ・百社参り、ナナクサ、オヒマッツァン、小正月、ヤブイリ、寒餅、カンセンギョ） 冬から春へ（二月一日、トシコシ、ハツウマ、オセチ、三月節供、レンゾ、春の彼岸、オツキヨウカ、薬師会、達磨寺会式、五月節供） 夏の行事（ハゲッショウ、ハガタメ、土用、夏至、タナバタ） 盆行事（墓参り、ナノカボン、盆買物、オショライサン迎え、十四日、十五日、ヤブイリ、盆踊り、セイガキ、タナアゲ、地蔵盆） 秋から冬へ（ハッサク、芋の名月、豆の名月、秋の彼岸、お十夜、片岡神社の祭り、三夜マチ・オトゴツイタチ・ハテノハツカ、イノコ、冬至）
	婚制	イワイ、嫁入り、イチヤガエリ、結婚後の付け届け、ハツゼック
	産育	妊娠中の禁忌・祈願、陣痛、産室、アトザン、へその緒、ミマイ、ムイカドリ、名付けの祝い、ミヤマイリ、ユミアケ、百日のクイゾメ、ニブイリ、タンジョ、ハツゼック、ヒモトオシ、産育禁忌
畠田	信仰	火幡神社、白山比咩神社、水神社、オドリバの西山さんの分社、大神宮さん、愛宕さん、稲荷さん、永福寺と鷹ヶ峯観音、光得寺、信念寺、常楽寺、香灯寺、興仁不動、大日さん、マトワ地蔵、ママタレ地蔵、送迎の地蔵、お大師さん、行者さん、庚申、講（庚申講、日待講、行者講、愛宕講、金毘羅講、観音講、尼講、デンモン講）
	年中行事	トッキョリ 正月準備（コトハジメ、奉公人のデガワリ・ススハキ、正月買物、餅搗き、モチバナ、シメナワ、タテマツ、サイマツ、オオツゴモリ、正月様の祭り方） 正月行事（ガンジツ、ゾウニ、ネントウ、シゴトハジメ、ハツヤマ、セイチ、寺のシバシ、カミドシコシ、百社参り、七日正月・ナナクサ、ハツヨリ、オヒマッツァン、トンド、アズキノオカイサン、年占、ナルカナランカ、ヤブイリ、観音さん参り、ハツカ正月、不動さんの命日、寒餅搗き、カンセンギョ） 冬から春へ（ニノ正月、トシコシ、ハツウマ、涅槃、火幡神社祈念祭、三月節句、春の彼岸、白山比咩神社の春祭、レンゾ、オツキヨウカ、達磨寺会式、お大師さんの命日、愛宕さんの祭り、五月節句、当麻会） 夏の行事（ハゲッショウ、土用、愛宕さんの祭り、ハガタメ、大神宮さんの祭り、愛宕さんの祭り、タナバタ） 盆行事（ナノカボン、墓参り、盆買物、八月十三日、八月十四日、八月十五日、お盆中の禁忌、ガキ、セイガキ、ヤブイリ、盆踊り、地蔵祭り、大日さんの祭り、アラノタナ祭り） 秋から冬へ（ハッサク、九月のセック、火幡神社のマエヨミヤ、秋の彼岸、芋の名月、豆の名月、お十夜、神無月、御回在、火幡神社の本祭り、二十三夜サン、オトゴノツイタチ、フイゴーサン、ホンコ、針供養、イノコ、ハテノ廿日、冬至）
	農耕習俗	百姓の神さん、百姓の仕事始め、年占、ナワシロジメ、田植えと禁忌、畑作禁忌、ハギッショウ、シュウリ、ヒルネとヨナベ、雨乞い、アメヨロコビ、虫送り・風の祈祷、カマオサメとカナゴキオサメ、マメカチ、イノコ、百姓の休日、スズキ、サンバイコその他、助け合い、村仕事
	婚姻	サカズキ、イワイ、ナコウド、ムコイリ、アシイレ、ツキオナゴ、チャタキ、ニサンガエリ

集落名	分類	項目
畠田	産育	三日目のミマイ・チカラモチ、ムイカドリ、ナツケモチ、オビアケ・ミヤマイリ、百日・クイゾメ、ニブイリ、エンマオサメ、誕生祝い、ホウソウの神さん送り
	芸能	ナモゼ踊り

『新訂王寺町史』の編纂にあたっては、平成９年から同 12 年にかけて年中行事や祭礼、聞き取り、絵馬の調査を実施し、多くの情報を得ることができましたが、現在に至るまでに、例えば、神社の祭礼が決まった日に行われていたのが、その日に近い休日に行われるようになったり、「とんど」が火を燃やす場所の確保が難しくなって合同開催されたりするなど、変化も見せ始めていることから追跡調査が必要といえます。

＜表３-16 『新訂王寺町史』編纂事業で調査した年中行事・祭礼＞

月	行事・祭礼の名称（実施集落・社寺名）
１月	新年祭（久度神社・白山姫神社）、元旦祭（片岡神社・八幡神社） 宵とんど（中村・池の原・山上・小黒・送迎）、日待講（小黒） とんど（久度・舟戸・中村・大峯・大田口・小黒・送迎）
２月	早朝念仏の会（永福寺）、祈念祭（親殿神社）
３月	だんご撒き（岩松寺）
４月	達磨会式（達磨寺）
５月	
６月	
７月	
８月	井戸がえ（井戸）、施餓鬼（往生寺・岩松寺）、盆送り（大田口・品善寺） 地蔵盆（久度・大峯・大田口・畠田・安専寺・乳垂地蔵）
９月	八朔（畠田）、薬師会（薬師堂）、庚申講（大田口） 宵宮（親殿神社・八幡神社・火幡神社）、彼岸会法要（品善寺）
10 月	如来さん（大峯・大田口）、報恩講（教願寺）、神酒定め（大峯）、太鼓台引出（畠田） 宵宮（久度神社・舟戸神社・片岡神社・白山姫神社）、秋祭り例祭（久度神社） 秋季祭本宮（片岡神社）
11 月	新嘗祭（親殿神社）
12 月	二日講（碧陽寺）、大祓の儀（片岡神社）

王寺町の各神社においては、それぞれの秋季祭のときに、その年に生まれた子どもの絵馬が奉納される風習が現在も残っています。絵馬を奉納することで、その子どもの氏子入りを意味し、この風習は王寺町から香芝市、葛城市あたりの葛城山麓にだけ見られるものです。

『新訂王寺町史』編纂事業の際に平成９年から同 11 年にかけて各神社の絵馬全点を調査し、絵馬が掲げられている場所、絵の種類、奉納した年や子どもの名前などを記録しました。掲示する場所の関係で神社によって保管されている点数に違いがありましたが、これらの絵馬を見れば、かつてそこで暮らした町民の歴史を知ることができます。

また、これらの絵馬を調査することで、江戸時代に奉納された絵馬も残っていること、それらは個人ではなく村などの集団で奉納されたものであることがわかっており、個人が氏子入りのために絵馬を奉納するようになるのは明治以後のことではないかと考えられます。

なお、下表の調査点数は調査時のものであり、その後も新たに奉納されたり、逆にお焚き上げされたりしているので、現時点での点数は変動しています。親殿神社では、調査後に絵馬が一括して奈良県立民俗博物館に寄贈され、現在はその後に奉納された絵馬が拝殿に掲げられています。

＜表３-17　『新訂王寺町史』編纂事業で調査した絵馬＞

神社名	絵馬の掲示建物	点数	近世絵馬の点数	最古の絵馬年号・絵柄
久度神社	拝殿	84 点		
舟戸神社	拝殿	377 点	2 点	天保・子分かれ図
片岡神社	拝殿	346 点	5 点	安永７年・馬曳き図
親殿神社	拝殿	324 点	6 点	寛政２年・合戦図
火幡神社	絵馬殿	524 点	7 点	文化２年・子分かれ図
白山姫神社	絵馬殿	266 点	1 点	嘉永元年・（不明）
総計６件		1, 921 点	21 点	

火幡神社の絵馬

親殿神社の絵馬（調査時）

③ 石造文化財

石造文化財に関しては、昭和 50 年から翌 51 年にかけて土谷清氏が調査された「王寺町石造物調査集」においてリスト化されています。町内の 74 件の石造文化財についてカード形式で分類・所在地・材質・大きさ・年代・銘文などが調査されています。

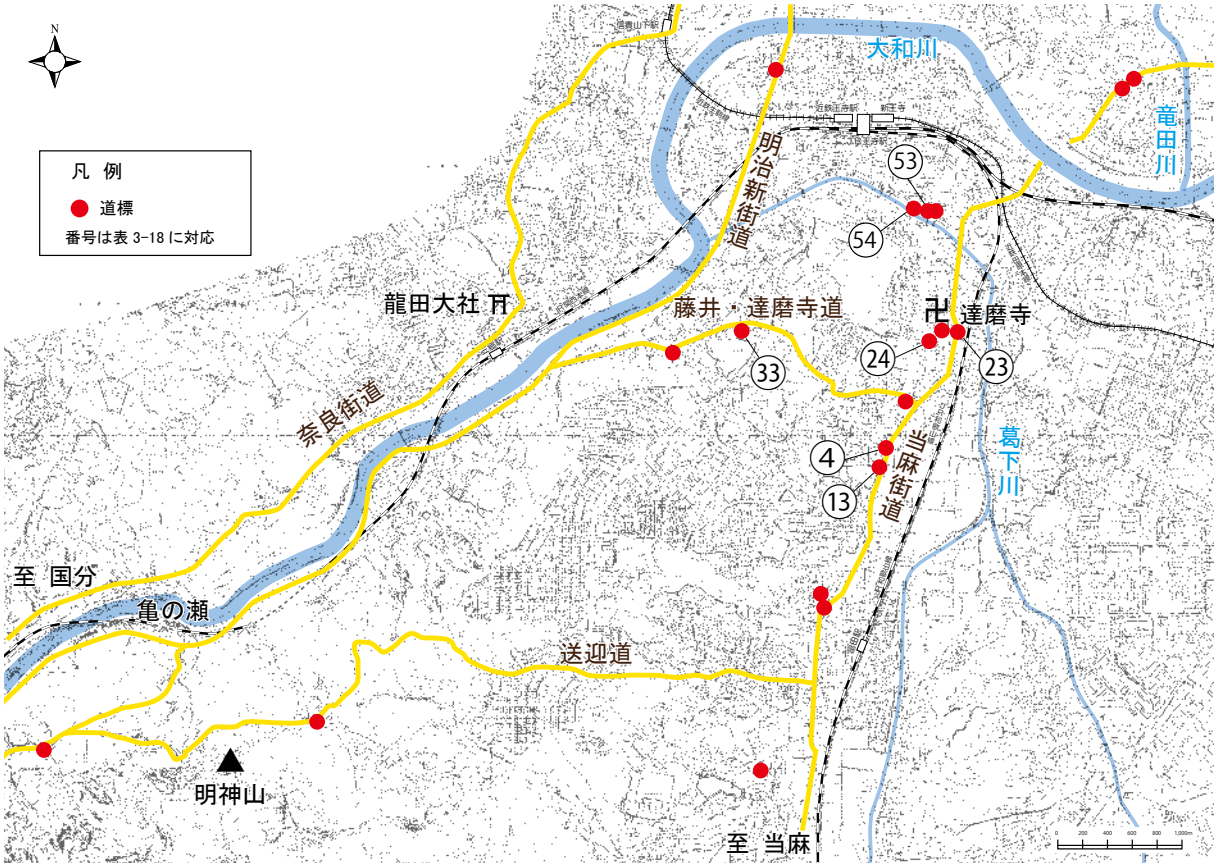
＜表 3-18 「王寺町石造物調査集」の石造文化財＞

番号	集落名	名称	年代	所有者	番号	集落名	名称	年代	所有者
1	白瓜	石仏	平安	個人	30	門前	石幢（中興記幢）	室町	達磨寺
2	白瓜	石仏	不明	区有	31	門前	問答石	不明	達磨寺
3	白瓜	石仏	不明	区有	32	大峯	石仏（垣内井戸）	江戸	区有
4	白瓜	道標	江戸	町有	33	大峯	道標	江戸	区有
5	白瓜	石仏	不明	個人	34	大田口	石灯籠	江戸	品善寺
6	白瓜	水船	江戸	碧陽寺	35	大田口	石仏	江戸	区有
7	白瓜	石灯籠	江戸	碧陽寺	36	大田口	石仏	不明	区有
8	池の原	狛犬	江戸	親殿神社	37	大田口	石仏（南瓜喰い地蔵）	江戸	区有
9	池の原	石灯籠	江戸	親殿神社	38	藤井	石灯籠	江戸	八幡神社
10	池の原	石灯籠	江戸	親殿神社	39	藤井	狛犬	江戸	八幡神社
11	池の原	石仏	不明	町有	40	藤井	鳥居	江戸	八幡神社
12	池の原	石仏（芦田池内）	不明	区有	41	藤井	水船	江戸	西蓮寺
13	池の原	道標	江戸	区有	42	藤井	石仏	江戸	区有
14	張井	石灯籠	室町	放光寺	43	久度	石灯籠	江戸	久度神社
15	張井	石仏	室町	放光寺	44	久度	狛犬	江戸	久度神社
16	張井	丸灯籠	不明	片岡神社	45	久度	石灯籠	鎌倉	久度神社
17	張井	狛犬	江戸	片岡神社	46	久度	五輪塔	不明	往生寺
18	張井	石灯籠	江戸	片岡神社	47	張井新町	礎石	不明	町有（役場内）
19	張井	石灯籠	江戸	片岡神社	48	久度	石灯籠	不明	個人
20	張井	石灯籠	江戸	片岡神社	49	久度	石灯籠	不明	個人
21	張井	石灯籠	江戸	片岡神社	50	久度	礎石	不明	個人
22	門前	宝篋印塔	江戸	岩松寺	51	舟戸	石仏	不明	正光寺
23	門前	道標	不明	達磨寺	52	舟戸	水船	江戸	正光寺
24	門前	道標	不明	達磨寺	53	張井新町	道標	不明	町有（役場内）
25	門前	石灯籠	鎌倉	達磨寺	54	張井新町	道標	江戸	町有（役場内）
26	門前	犬	不明	達磨寺	55	張井新町	石仏（日見橋地蔵）	不明	区有
27	門前	石室	不明	達磨寺	56	送迎	層塔	鎌倉	永福寺
28	門前	石仏（役ノ行者）	江戸	達磨寺	57	送迎	笠塔婆	江戸	永福寺
29	門前	石仏	江戸	達磨寺	58	送迎	石灯籠	江戸	永福寺

番号	集落名	名称	年代	所有者	番号	集落名	名称	年代	所有者
59	送迎	鳥居	江戸	白山姫神社	67	小黒	石仏（役ノ行者）乳滴地蔵	江戸	区有
60	送迎	狛犬	江戸	白山姫神社	68	小黒	板碑（乳滴地蔵）	江戸	区有
61	送迎	石灯籠	江戸	白山姫神社	69	小黒	石仏（乳滴地蔵）	不明	区有
62	送迎	石灯籠	江戸	白山姫神社	70	小黒	石灯籠	江戸	区有
63	送迎	板碑（愛宕山大権現）	江戸	区有	71	山上	板碑	江戸	信念寺
64	小黒	石灯籠	不明	個人	72	山上	石塔	江戸	信念寺
65	小黒	石灯籠（大神宮）	江戸	区有	73	中村	石灯籠	不明	王寺霊園
66	小黒	石灯籠	不明	個人	74	中村	板碑	不明	王寺霊園

また、平成 13 年には町内とその周辺に所在する道標調査を実施し、19 点の道標について所在地・大きさ・銘文をカードにまとめています。すでに当初の建立位置から移されているものもありますが、これらの道標を地図に落とすと、旧街道のルートが浮かび上がってきます。

王寺町の旧街道には、南北を縦断した当麻街道があり、東西を横断する街道に送迎道と藤井・達磨寺道があります。当麻街道と送迎道が交差するのが畠田の小黒付近で、当麻街道と藤井・達磨寺道が交差するのが王寺の門前・井戸付近で、これらの地区には商店が集まっていました。



＜図３- ２　道標の所在地と旧街道＞

④ 美術工芸

『新訂王寺町史』編纂事業にともない、平成 9 年から翌 10 年にかけて各社寺が所有する美術工芸品について調査を実施しました。調査は寺院 15 か所、神社 5 か所、計 20 か所で 177 件以上の仏像、高僧画像、釜、鐘などを対象に行い、まずは所在と時期を確認する概要調査を実施し、そのなかから特に重要なものを抽出して詳細調査を実施しました。詳細調査は、往生寺双盤、岩松寺木造阿弥陀如来坐像、達磨寺木造聖徳太子坐像、同木造達磨坐像、同木造千手観音坐像、同絹本著色聖徳太子像、同絹本著色達磨像、品善寺木造阿弥陀如来坐像、同木造薬師如来坐像、永福寺木造釈迦如来坐像、同木造地蔵菩薩立像、同絹本著色仏涅槃図、香塔寺木造観音菩薩立像の 13 件で実施しました。

＜表 3-19　社寺における美術工芸調査＞

社寺名	調査件数	社寺名	調査件数
往生寺	16 件	薬師堂	4 件
蓮祥寺	2 件	西蓮寺	10 件
久度神社	7 件	八幡神社	
正光寺	7 件	常楽寺	7 件
教願寺	8 件	火幡神社	
放光寺	21 件	光得寺	6 件
岩松寺	12 件	永福寺	13 件
安専寺	10 件	香塔寺	22 件
碧陽寺	9 件	白山姫神社	
品善寺	20 件	興仁不動・愛宕神社	3 件
20 か所		177 件	

⑤ 建造物

建造物については、次のとおり『新訂王寺町史』編纂事業において 1 次調査と 2 次調査が実施されました。1 次調査で所在確認・建立年代等の概要調査を行い、2 次調査では図面作成と写真撮影を行いました。この調査の後、常楽寺本堂・表門、達磨寺本堂・拝堂が建て替えられ、往生寺本堂、岩松寺本堂・表門が修理され、岩松寺鐘楼は国道 168 号拡幅事業にともなって移築・修理されました。

民家については『王寺町史』に詳しく、民家から見た景観を考える目的で屋根型、家屋の階層の状況について分析されています。それによれば、調査された昭和 40 年代初めにおいて、すでに切妻型の屋根が増えて大和棟が少なくなっていること、屋根の材料も瓦葺が多く藁葺はほとんど見当たらなくなっていることが報告されています。また、『王寺町史』には、代表的民家として

13 棟の間取り図が掲載されていますが、このうち 4 棟は現存していません。

＜表 3-20 『新訂王寺町史』編纂事業による建造物調査＞

社寺名	種別	建立年代	構造形式等	調査	現状
久度神社	本殿	昭和 44 年	三間社流造、銅板葺、素木造	1 次	
舟戸神社	本殿	20 世紀後期	一間社流造、銅板葺、素木造 石鳥居に明治 28 年の刻銘あり	1 次	
片岡神社	本殿	19 世紀後期	五間社流造、銅板葺、素木造 両妻・背面壁をセメントモルタルで修復	1 次	
親殿神社	本殿	19 世紀後期	一間社春日造、板葺、素木造	1 次	
八幡神社	本殿	19 世紀後期	一間社流造、檜皮葺、素木造、材料良質 石鳥居に天保 13 年の刻銘あり	1 次	
火幡神社	本殿	19 世紀後期	五間社流造、向拝一間向唐破風造、銅板葺 素木造	1 次	
白山姫神社	本殿	19 世紀後期	二間社流造、銅板葺、素木造、材料良質 石鳥居に天保 2 年の刻銘あり	1 次	
水神社	本殿	平成 8 年	一間社流造、銅板葺	1 次	
香塔寺	本堂	昭和 46 年	寄棟造、妻入、向拝一間、桟瓦葺	1 次	
永福寺	本堂	18 世紀初期	入母屋造、向拝一間、本瓦葺	2 次	
	観音堂	17 世紀後期	宝形造、向拝一間、本瓦葺 鬼瓦に貞享 5 年の刻銘あり	2 次	
往生寺	本堂	19 世紀後期	寄棟造、妻入、向拝一間、本瓦葺、改造大 境内に室町時代建立と考えられる五輪塔あり	1 次	修理
岩松寺	本堂	享保 2 年	寄棟造、妻入、本瓦葺 奉再建享保二年の記がある棟札あり	2 次	修理
	鐘楼	18 世紀前期	方一間、切妻造、本瓦葺 鬼瓦に享保 12 年の刻銘あり	2 次	移築修理
	表門	18 世紀前期	薬医門、本瓦葺	2 次	修理
品善寺	本堂	20 世紀後期	寄棟造、妻入、向拝一間、銅板葺	1 次	
常楽寺	本堂	20 世紀前期	入母屋造、妻入、向拝一間、桟瓦葺 元天理教教会を移築したと伝える	1 次	建替え
	表門	19 世紀中期	薬医門、本瓦葺	1 次	建替え
西蓮寺	本堂	宝暦 7 年	入母屋造、向拝一間、本瓦葺 釿始宝暦七歳の記がある棟札あり	2 次	
	表門	19 世紀前期	薬医門、本瓦葺	2 次	
信念寺	本堂	19 世紀中期	入母屋造、向拝一間、桟瓦葺	1 次	
蓮祥寺	本堂	20 世紀後期	堂庫裏形式、桟瓦葺	1 次	
正光寺	本堂	19 世紀前期	入母屋造、向拝一間、本瓦葺、明治 25 年「寺院明細帳」では文化 6 年再建とする	1 次	
碧陽寺	本堂	文化 8 年	入母屋造、向拝一間、本瓦葺 御上棟文化八歳の記がある棟札あり	2 次	
安専寺	本堂	19 世紀中期	入母屋造、妻入、本瓦葺	1 次	

社寺名	種別	建立年代	構造形式等	調査	現状
教願寺	本堂	20 世紀後期	入母屋造、向拝一間、本瓦葺	1 次	
光得寺	本堂	20 世紀後期	堂庫裏形式、桟瓦葺	1 次	
達磨寺	本堂	19 世紀後期	南面入母屋造、北面切妻造、妻入、本瓦葺	2 次	建替え
	拝堂	19 世紀後期	入母屋造、向拝一間、本瓦葺	2 次	建替え
	方丈	寛文 7 年	西面入母屋造、東面切妻造、本瓦葺 建立寛文第七歳の記がある棟札あり	2 次	保存修理
放光寺	本堂	18 世紀後期	宝形造、本瓦葺 安永 7 年、明治 3 年の修理札あり	2 次	

⑥ 埋蔵文化財

王寺町に分布する周知の埋蔵文化財包蔵地は現在 17 件で、奈良県の他市町村に比べれば比較的少ない方だといえます。そのため、王寺町では、開発事業によって事前に発掘調査を必要とする件数も少なく、技術担当者も不在だったことから、長年、発掘調査を奈良県立橿原考古学研究所に依頼して実施していました。しかし、平成 12 年から達磨寺で本堂・庫裏の建替えを含む境内整備事業が始まり、発掘調査や工事立会を要する件数が増加したため、同 14 年からは王寺町に技術担当者を置き、王寺町単独で発掘調査を実施するようになりました。現在は、王寺町で実施してきた発掘調査も増え、久度南遺跡や香滝・薬井遺跡、馬ヶ脊城跡のように試掘調査を経て新たに確認できた遺跡もあります。

これらの遺跡のなかで、岩才池北古墳、達磨寺 1 号墳、畠田古墳が見学可能となっており、現在、西安寺跡について学術的な調査を行い、史跡整備を目指して取り組んでいます。

＜表 3-21　遺跡と王寺町が実施した調査成果＞

遺跡名	遺跡の概要	調査回数	出土遺物量	県による調査回数
久度遺跡	遺物散布地	1 回	0 箱	1 回
久度南遺跡	旧石器から中世の遺構・遺物あり 駅前再開発事業の試掘で確認	1 回	2 箱	1 回
舟戸・西岡遺跡	弥生時代の高地性集落	3 回	3 箱	1 回
西安寺跡	飛鳥時代創建の寺院跡、四天王寺式伽藍配置	7 回	1, 255 箱	1 回
西安寺瓦窯跡	西安寺に瓦を供給した窯跡とされる	0 回	0 箱	
岩才池北古墳	6 世紀末の径 6 m円墳、横穴式石室の基底部が残る	0 回	0 箱	1 回
達磨寺旧境内	鎌倉時代に開基された達磨寺の旧境内	12 回	181 箱	7 回
達磨寺 1 号墳	6 世紀後半の径 15 m円墳、横穴式石室が開口する	0 回	0 箱	1 回
達磨寺 2 号墳	6 世紀後半の径 15 m円墳、横穴式石室の一部が開口する	0 回	0 箱	1 回

遺跡名	遺跡の概要	調査回数	出土遺物量	県による調査回数
達磨寺３号墳	６世紀後半の径 14 m円墳、本堂の下にあり見られない	０回	０箱	１回
片岡王寺跡	飛鳥時代創建の寺院跡、四天王寺式伽藍配置とされる	６回	114 箱	５回
馬ヶ脊城跡	戦国時代の砦跡、住宅地開発で確認され記録保存	２回	２箱	
寺院推定地	寺院があったとされる	２回	２箱	
香滝・薬井遺跡	旧石器から弥生の遺物あり、葬斎場建設の試掘で確認	１回	16 箱	
畠田城跡	中世の城があったとされる	０回	０箱	２回
畠田古墳	７世紀初頭の径 15 m円墳、横穴式石室が開口する	０回	０箱	１回
送迎山城跡	戦国時代の城があったとされる	０回	０箱	
尼寺北廃寺	飛鳥時代創建の寺院跡、中心地は香芝市	１回	２箱	１回
		36 回	1,577 箱	24 回

＊調査回数には、平成 31 年３月末日までに王寺町が主体となって実施した調査を数えています。
＊出土遺物量には、王寺町が保管する遺物コンテナ（54cm × 34cm × 15cm）の数量を数えています。

埋蔵文化財の発掘調査にともない、以下のとおりこれまでに 13 冊の調査報告書を刊行しています。これらの報告書は一般に販売していませんが、王寺町立図書館で閲覧することができます。

＜表３-22　王寺町が刊行した埋蔵文化財調査報告書＞

号数	書名	刊行年
第１集	畠田古墳	平成 10 年
第２集	達磨寺３号墳範囲確認調査報告書	平成 13 年
第３集	久度南遺跡市街地再開発事業にともなう試掘調査報告書・畠田城跡発掘調査報告書	平成 15 年
第４集	達磨寺発掘調査報告書	平成 17 年
第６集	片岡王寺跡第３次発掘調査報告書	平成 18 年
—	静香苑建設事業に伴う香滝・薬井遺跡発掘調査報告書	平成 19 年
第７集	片岡王寺跡第２次、舟戸・西岡遺跡第４次―2004 年度発掘調査報告書―	平成 19 年
第８集	片岡王寺跡第６次発掘調査報告書	平成 20 年
第９集	舟戸・西岡遺跡第５次、片岡王寺跡第８次・第９次―2007 年度発掘調査報告書―	平成 21 年
第 11 集	西安寺跡第３次発掘調査報告書	平成 28 年
第 12 集	西安寺跡第４次発掘調査報告書	平成 29 年
第 13 集	西安寺跡第５次・第６次発掘調査報告書	平成 30 年
第 14 集	西安寺跡第７次発掘調査報告書	平成 31 年

＊号数のシリーズ名は、王寺町文化財調査報告書です。
＊第５集は『門前・達磨寺文書調査報告書』、第 10 集は「片岡王寺跡第 11 次発掘調査報告書」ですが未刊行です。

⑦ 古写真

昭和 30 年代後半以降、王寺町は住宅地開発によって景観が大きく変化し続けています。そうした変化を記録するため、王寺町では古写真の調査・収集も行ってきました。

王寺町役場には昭和 30 ～ 40 年代の広報誌編集にともなう取材写真、昭和 40 年代初めに『王寺町史』（昭和 44 年刊行）の編纂にともなう調査写真が大量に残されており、それによってかつての町の景観を知ることができます。景観の変化は昭和の住宅地開発だけでなく、平成になると王寺駅前の久度再開発や国道 168 号の拡幅事業が実施され、王寺駅北側に形成された商店街や鉄道開通までの王寺の中心地であった本町の商店が姿を変えることになったため、王寺町で写真撮影を行って記録しています。

また、大正・昭和に村長・町長をつとめた森栄太郎（もりえいたろう）氏関係の写真や昭和 8 年（1933）から同 20 年まで王寺小学校の教員をつとめた武田正夫（たけだまさお）氏が撮影した写真、戦後の郷土史研究で活躍した土谷（つち やきよし）清氏関係の写真、個人が撮影した機関車・電車の鉄道写真など、住民からも多くの古写真を提供していただいて調査・収集しています。これらの写真は、接写またはスキャンを行ってデジタルデータにして保管しています。

平成 29 年 5 月からは王寺町の広報誌『王伸』で「おうじ今昔とりっぷ」の連載を行い、なつかしい王寺町の風景を紹介しながら、古写真の提供を住民に呼びかけています。

＜表 3-23　調査・収集した古写真＞

資料群名	内容	点数
王寺町役場旧蔵広報写真	昭和 30 ～ 40 年代の広報誌編集にともなう取材写真	5, 672 点
旧町史編纂写真	昭和 44 年刊行『王寺町史』の編纂にともなう調査写真	320 点
王寺駅前再開発写真	平成 12 ～ 13 年に撮影した久度再開発の記録写真	152 点
国道 168 号拡幅写真	平成 13 年に撮影した国道 168 号拡幅の記録写真	29 点
個人所蔵アルバム	大正・昭和に村長・町長をつとめた森栄太郎氏のアルバム写真	67 点
個人所蔵アルバム	昭和初期に王寺小学校教員をつとめた武田正夫氏のアルバム写真	262 点
個人所蔵アルバム	郷土史研究で活躍した土谷清氏の戦前・戦後のアルバム写真	122 点
個人鉄道写真	昭和 40 年代に撮影された王寺駅を中心とする鉄道写真	94 点
「おうじ今昔とりっぷ」募集写真	広報『王伸』で募集し提供された写真	70 点
総計 9 件		6, 788 点

⑧ 文化財把握の現状

以上のように、これまで①古文書・古記録、②民俗文化財、③石造文化財、④美術工芸、⑤建造物、⑥埋蔵文化財、⑦古写真の調査を実施して、文化財の把握に努めてきました。現段階では、おおむね調査が進んでいるといえますが、名勝や天然記念物に関する調査が実施できていません。

今後は、名勝・天然記念物などの調査を行うとともに、古文書や民俗文化財などは調査してから一定程度の時間が経過しているため、再調査を実施し、所在や現状を確認していく必要があります。また、その他の文化財についても広く調査を実施する必要があります。

＜表３-24　王寺町全域における文化財把握の現状＞

文化財の種類		先史	古代	中世	近世	近代
有形文化財	建造物	—	—	—	○	○
	絵画・彫刻	—	○	○	○	○
	工芸品	—	—	—	—	—
	古文書	—	○	○	◎	◎
	歴史資料	—	—	—	—	◎
無形文化財		—	—	—	—	—
民俗文化財		—	—	—	○	○
記念物	史跡（遺跡）	—	○	○	○	—
	名勝	—	—	—	×	×
	天然記念物	—	—	—	×	×
文化的景観		—	—	—	—	—
伝統的建造物群		—	—	—	—	—
その他の文化財 歴史上の人物、眺望、 伝承・伝説、記憶など		—	△	△	△	△

◎：多く分布し調査できている、○：分布し調査できている、△：分布するが調査不足、×：分布するが未調査
－：いまだ該当する文化財が確認できていない

（５）住民にとって身近な文化財の把握

① ワークショップ・アンケートの実施

王寺町では、地域史の刊行と継続した調査によって文化財の把握に努めてきていますが、地域計画の作成にあたっては、地域住民が保存・活用の主体となっていけるように、行政が把握する文化財だけでなく、住民自身が大切にしたい、未来に伝えたい、自慢したいと思う文化財は何か、とくに景観や伝承・伝説なども含めて文化財を広く捉えて、住民にとっての身近な文化財を把握することにしました。具体的には、自治会長や観光ボランティアガイドの方々にワークショップ形式で聞き取りを行うとともに、「王寺の自慢したい『モノ・コト・トコロ』コンテスト」と称したアンケート調査を実施しました。

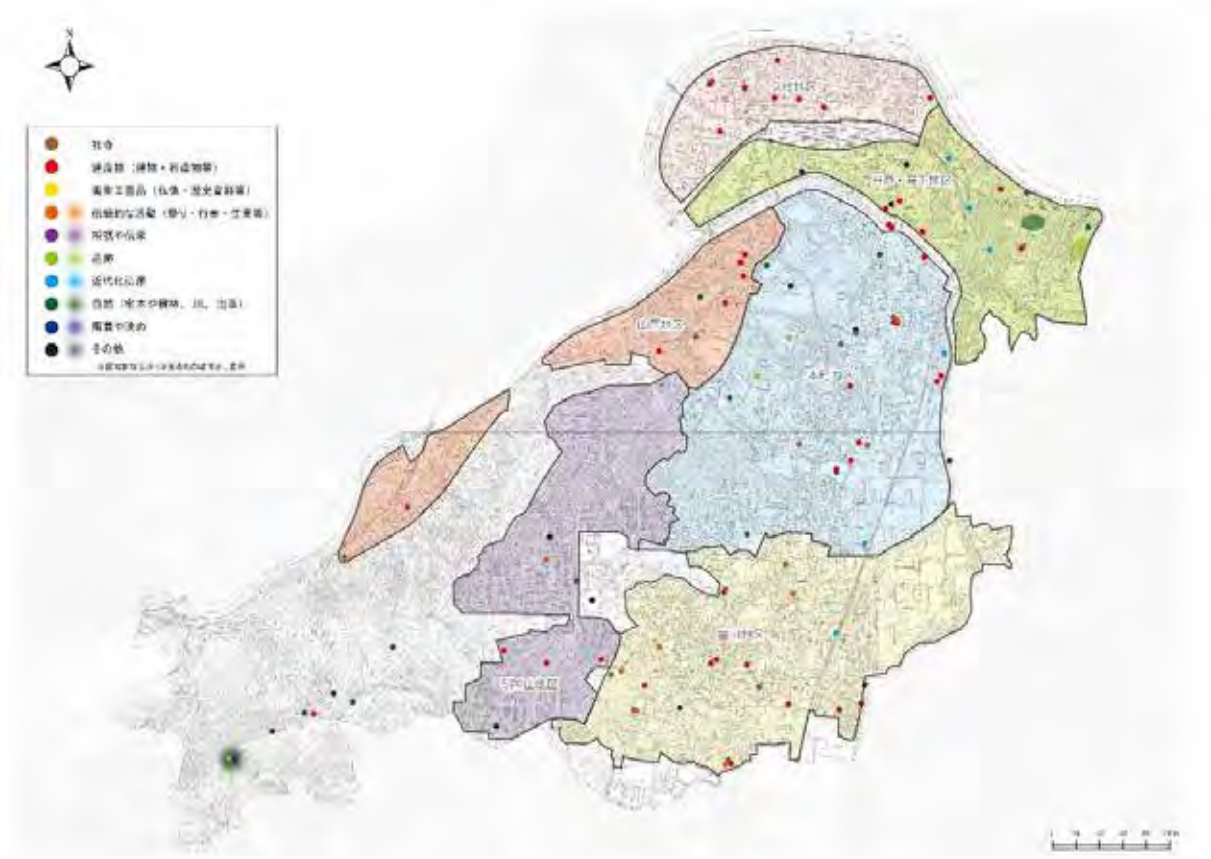
ワークショップの様子

② 観光ボランティアガイドの身近な文化財

王寺観光ボランティアガイドの会の会員のうち 30 人を対象にワークショップを行い、それぞれが自慢したい、大切にしたい、未来に伝えたいと思う王寺町のモノ（物）やコト（事）、トコロ（所）を地図に書き込んだ上で、特にガイドしたい、お勧めしたいと思うことなどについて自由記述であげていただきました。その結果をキーワード抽出して区分別に整理したところ、明神山（山頂からの風景含む）と達磨寺関連のものが多くあげられました。

＜表３-25　観光ボランティアガイドがガイドしたい、お勧めしたい文化財＞

区分	件数	主な内容
社寺	15	久度神社、火幡神社、水神社、品善寺、放光寺
建造物（建物・石造物など）	47	道標、地蔵、鳥居（久度神社、白山姫神社）
美術工芸品（仏像・歴史資料など）	1	藤井問屋
伝統的な活動（祭り・行事など）	9	ナモデ踊り、節分豆まき、達磨会式（達磨寺）
説話・伝承	3	舟戸の渡し、片岡飢人伝説、腰掛石（達磨寺）
遺跡	7	畠田古墳、岩才池北古墳、舟戸・西岡遺跡
近代化遺産	7	カルケット、蒸気機関車
自然（樹木・川・池など）	16	明神山、芦田池、舟戸新池、紅葉、桜並木、梅林
風景・眺め	4	明神山（山頂からの風景）、大和川、里山
その他	10	風船ダム、国産ジェット展示、飲食店



＜図３- ３　観光ボランティアガイドの身近な文化財＞

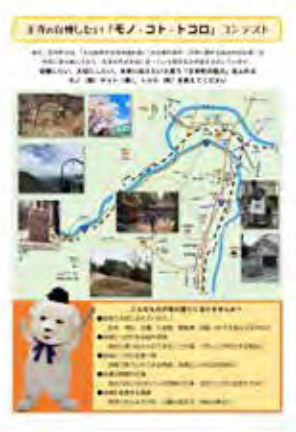
③ 住民の身近な文化財

住民の身近な文化財を把握するにあたって、自治会長を対象にしたワークショップを行いました。現在、王寺町には 53 の自治会があり、それらは 6 つの連合地区に分けられています。これらのうち、畠田（はたけだ）地区、舟戸（ふなと）・葛下（かつしも）地区の計 18 自治会の自治会長に、各自治会にある文化財を地図に書き込んだ上で、特に大切にしたい、未来に伝えたいと思うモノやコト、トコロを聞き取りました。その結果をキーワード抽出して区分別に整理したところ、地蔵や地蔵盆といった本当に身近にある文化財や、桜やイチョウといった自然風景が多くあげられました。

＜表３-26　地域で大切にしたい文化財＞

区分	件数	主な内容
社寺	11	舟戸神社、水神社、常楽寺、火幡神社、白山姫神社
建造物（建物・石造物など）	20	乳垂地蔵、地蔵、灯籠（お伊勢さん）、太鼓台
伝統的な活動（祭り・行事など）	20	地蔵盆、大とんど、祭り（火幡神社、白山姫神社）
説話・伝承	1	聖徳太子の送迎
遺跡	4	畠田古墳、西安寺跡
自然（樹木・川・池など）	19	桜、イチョウ、スイセン、松茸山（昔）、ホタル（昔）

④ 王寺の自慢したい「モノ・コト・トコロ」コンテスト



コンテスト応募用紙

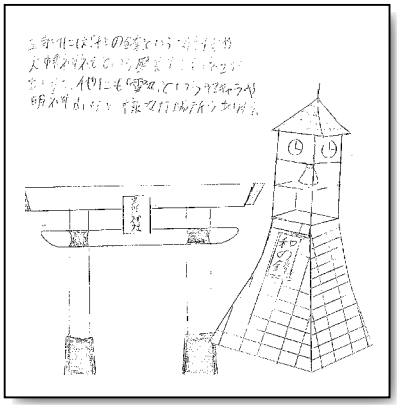
住民の身近な文化財を把握するにあたって、ワークショップのほかにアンケート調査も実施しました。アンケート調査は、特に 10 年、20 年後に王寺町を担っていく世代である中学生を対象に、コンテスト形式にしてそれぞれが自慢したいと思う王寺町の魅力を文章・イラストなどによって自由に記入してもらえるようにしました。その結果、26 人からの回答があり、キーワード抽出して区分別に整理したところ、雪丸が最も多くあげられ、豊かな自然や商業施設が充実した生活環境、交通の利便性が魅力として多くあげられました。

＜表３-27　中学生が思う王寺町の魅力＞

区分	件数	主な内容
社寺	7	達磨寺、火幡神社
建造物（建物・石造物など）	3	和の鐘、古い建物
美術工芸品（仏像・歴史資料など）	1	文化財（重要文化財）
伝統的な活動（祭り・行事など）	1	絵馬・秋祭り（火幡神社）
説話・伝承	19	雪丸、達磨寺（伝承）、聖徳太子
遺跡	2	古墳
近代化遺産	1	鉄道（ＳＬ）
自然（樹木・川・池など）	12	豊かな自然、明神山
風景・眺め	4	明神山（初日の出）、菜の花（大和川）
その他	33	利便性（交通・周辺環境）、食べ物

雪丸

明神山からの眺め



和の鐘・火幡神社など

［応募作品の一例］

３－３．文化財の保存

（１）指定文化財

文化財保護法と奈良県文化財保護条例、王寺町文化財保護条例に基づいた文化財の指定による保存を進めています。なかでも王寺町文化財保護条例は、平成 15 年３月 24 日に制定し、また、王寺町文化財保護審議会も設立して町指定文化財の指定を進めています。これまでに７件の文化財を王寺町指定文化財に指定し、そのうちの畠田古墳と達磨寺出土石塔及び舎利容器の２件がのちに奈良県指定文化財に指定されました。町保護条例を制定した平成 15 年以降だけでも奈良県指定文化財が４件増加しています。

指定された文化財は、所有者の変更や修理の際などの届出が義務づけられ、現状変更も制限されますが、修理に要する経費を国・県・町が補助できる制度があって、これまでに６件の指定文化財保存修理事業を実施し、保存の措置を講じています。奈良県指定文化財の達磨寺方丈（寛文７年〔1667〕）は、築後 350 年余り経過して大地震で倒壊する恐れがあることから平成 29 年から３か年計画で保存修理事業を実施しています。また、王寺・上牧地区の奈良県文化財保護指導委員１名が、奈良県からの委嘱に基づいて指定文化財の保存に異常がないかを月１回巡視しています。

＜表３-28　これまでに実施した指定文化財の保存修理事業＞

種別	事業名	修理内容	所有者	年度
県指定	木造薬師如来像（品善寺）保存修理事業	解体修理	品善寺	昭和 53 年度
国指定	木造聖徳太子坐像保存修理事業	剥落止め	達磨寺	平成 14 年度
県指定	（当時町指定）達磨寺出土合子樹脂補強事業	剥落止め	達磨寺	平成 18 年度
町指定	達磨寺旧本堂瓦製露盤保存修理事業	セメント除去・復元	達磨寺	平成 28 年度
県指定	達磨寺方丈保存修理事業	半解体修理	達磨寺	平成 29 年度～
国指定	達磨寺中興記石幢応急修理事業	宝珠落下防止	達磨寺	平成 30 年度

（２）未指定文化財

未指定のものについても王寺町が調査した文化財は保存の措置を講じています。古文書・古記録は、原則として原本は所有者が所蔵していますが、王寺町では全点の写真撮影を行って、そのフィルムと紙焼きを保管しています。農具を中心とした民具は王寺北小学校を中心に保管しており、出土した埋蔵文化財はコンテナに収納して保管しています。また、達磨寺の絹本著色十六善神像や絹本著色観音菩薩像、久度神社の絹本著色春日社寺曼荼羅は奈良国立博物館に寄託さ

れています。遺跡に関しては、畠田古墳、岩才池北古墳、達磨寺１号墳は現地保存し、修景整備して見学できるようになっています。畠田古墳は整備後に王寺町指定文化財に指定され、その後、奈良県指定文化財に指定されました。

（３）防災対策

地震や火災のほか、水害や風害などあらゆる災害を想定し、文化財が欠損したり、滅失したりすることのないように対策しておく必要があります。また、自然災害以外にも盗難などの人的被害への対策も必要です。

指定文化財のなかで設備的な防災対策を講じているのは、４件の国指定重要文化財のすべてを所有している達磨寺だけで、木造聖徳太子坐像・木造達磨坐像が安置される本堂に火災報知器・放水銃が設置されており、毎年、設備点検が実施されています。達磨寺本堂は警備システムが導入され、盗難対策も施されています。そのほか、奈良県指定文化財・王寺町指定文化財に関しては、火災報知器が設置されている達磨寺方丈を除いては防災設備がなく、奈良県文化財保護指導委員による巡視の対応になっているだけであるのが現状です。

昨今は集中豪雨や強風が増え、畠田古墳では山崩れや倒木、達磨寺１号墳では石室の崩壊や倒木が発生することも考えられます。あらかじめ周辺水路を清掃しておいたり、周辺樹木を伐採しておいたりするなどの対応が必要であるといえますが、現在のところ十分な対策はできていません。

文化財防火週間にあたっては、管内の西和消防署によって駅・公民館へのポスター掲示や達磨寺への立看板掲出、達磨寺への立入検査が毎年実施されています。文化財の防災を主目的にした訓練は行われておらず、住民が各自治会での防災訓練に参加することでそれに代えています。

＜表３-29　防災に関する活動状況＞

内容	実施状況
防災訓練	文化財防災の訓練はなく自治会での訓練に参加
消防設備の点検	消防設備のある達磨寺で実施
建造物への立入検査	文化財防火デー（1/26）に合わせて実施
定期巡視	奈良県文化財保護指導委員による月１回の巡視

３－４．文化財の活用

（１）指定文化財

現在、奈良県指定文化財である達磨寺出土石塔及び舎利容器は、平成 14 年の達磨寺本堂建替えにともなう発掘調査で出土し、当時、報道で大きく取り上げられたため、現地説明会に 1,000 名を超える人が参加しました。大きな注目を集めた遺構・遺物であるので、平成 15 年度に石塔・合子・水晶五輪塔・舎利の遺物と埋納されていた小石室の遺構を表現したレプリカを作製し、現在は王寺町地域交流センターにて展示・活用を図っています。その後、出土品は平成 18 年 3 月 29 日に王寺町指定文化財となり、平成 26 年 3 月 28 日に奈良県指定文化財となりました。同日には出土品が埋納されていた達磨寺石塔埋納遺構も奈良県指定史跡に指定されています。

達磨寺には、王寺町の国指定重要文化財 4 件すべてが所有されており、平成 16 年に本堂が落慶する際には、「王寺町街かど博物館」の位置づけで本堂内にエアタイト式の展示ケース 3 台が設置されました。その経費に対して王寺町が補助し、今も本堂内で木造聖徳太子坐像、木造達磨坐像、木造千手観音坐像、達磨寺出土石塔及び舎利容器、達磨寺中興記石幢地下遺構出土大甕・青磁香炉と多くの指定文化財を見ることができます。

達磨寺本堂内の展示ケース

また、達磨寺には、国指定重要文化財の絹本著色涅槃図が所有されていますが、奈良国立博物館に寄託されているため、達磨寺で展示されたことがありませんでした。そこで、王寺町では町制施行 90 周年を記念して平成 27 年 10 月 30 日から 11 月 3 日の 5 日間、達磨寺本堂内にて「涅槃図の里帰り」展を実施したところ、820 名が来場され、我が国の最古級の涅槃図を目の当たりにしていただくことができました。これをきっかけに、平成 29 年度に王寺町が絹本著色涅槃図のレプリカを作製し、街かど博物館でもある達磨寺本堂に展示して達磨寺の魅力を拝観者に伝えています。さらに、達磨寺旧本堂瓦製露盤を平成 28 年 3 月 25 日に王寺町指定文化財に指定し、保存修理と展示覆い屋を設置して展示しています。

「涅槃図の里帰り」展の様子

（２）生涯学習

① 講座・教室

平成 12 年の『新訂王寺町史』刊行を契機に、町史編纂事業をつうじて得られた文化財に関わる情報を広く発信するため、翌 13 年度から様々な歴史学習講座を開催しました。内容としては、『新訂王寺町史』の記述をわかりやすく講義した「『新訂王寺町史』を聞こう」全 6 回と古文書の解読を体験する「古文書解読にチャレンジ」全 5 回で、古文書解読体験についてはその後「古文書解読をマスター」「古文書解読に再チャレンジ」など平成 19 年度まで計 65 回にわたって開催しました。地域の古文書に触れることのできる体験が人気で多くの住民が参加されました。

また、そのほかにも平成 14 年度から同 18 年度にかけて町内外の史跡をめぐり歩く「『新訂王寺町史』を歩こう」「街道をゆく」「歴史ウォーキング」と名づけた講座を計 9 回開催し、小学生に地域の歴史を理解してもらうことを目的にした「ミニ町史編さん室」「親と子の歴史教室」を平成 14 年度と翌 15 年度に計 11 回開催しました。

これらの講座は、すべて原則として町民を対象に開催していましたが、平成 26 年度からは、王寺町が地理的に大和の玄関口にあたり、歴史文化のゲートウェイに位置することから、町内外の住民に広く参加してもらい、奈良県の歴史を広く学んでもらう歴史リレー講座「大和の古都はじめ」を毎月開催し、平成 31 年 3 月時点で 54 回の開催に及んでいます。第 1 回から毎回 200 名前後の方が参加されています。

また、「大和の古都はじめ」は広く奈良県全体の歴史を扱った講座であるため、平成 27 年度からは「ミニ講座」として、「大和の古都はじめ」に参加された方々に王寺町の歴史を学んでいただく機会をつくり、「達磨寺の文化財を語り尽くす」「片岡地域の古代寺院」「江戸時代の大和川の船」「思いつくまま、歴史の旅」などのシリーズのもと平成 31 年 3 月時点で 44 回開催しており、毎回 100 名前後の方が参加されています。

＜表３-30　文化財に関する講座・教室＞

講座・教室名称	実施年度
『新訂王寺町史』を聞こう	平成 13 年度
古文書解読にチャレンジ・古文書解読をマスターなど	平成 13 ～ 19 年度
『新訂王寺町史』を歩こう・街道をゆく・歴史ウォーキング	平成 14 ～ 18 年度
ミニ町史編さん室・親と子の歴史教室	平成 14 ～ 15 年度
歴史リレー講座「大和の古都はじめ」・ミニ講座	平成 26 年度～継続中

② 資料展示

平成 12 年『新訂王寺町史』の刊行以来、多くの歴史学習講座を開催してきたほか、王寺町には博物館に相当する施設がないものの、様々な機会を得て資料展示を実施しています。平成 12 年から同 18 年には王寺町文化祭で達磨寺や鉄道を特集した特別展示を行ったり、平成 16 年に王寺駅前に地域交流センターがオープンしたことから、そこに設置される展示ケースを利用した小展示も実施したりしています。

また、王寺町での資料展示だけでなく、他機関に出品することもあります。平成 27 年には、王寺町の町制 90 周年記念ということもあり、大阪府柏原市（かしわらし）・三郷町（さんごうちょう）と共催した巡回展を実施しました。この共催巡回展では、資料展示だけでなく柏原市の協力により展示図録が刊行されたほか、３市町が相互に協力し合うかたちの講演会も実施されました。

＜表３-31　文化財に関する資料展示＞

○王寺町文化祭特別展示

展示名称	実施年
王寺町の歴史と成り立ち―2000 年のあゆみ―	平成 12 年
達磨寺の開基と中興―古記録と遺跡から―	平成 13 年
鉄道と王寺―町の発展の歴史をさぐる―	平成 14 年
『モノ』に込められた人々の願い―達磨寺再建の過去、現在、そして未来を紡ぐ―	平成 15 年
王寺町の指定文化財―文化財の玉手箱―	平成 18 年

○王寺町地域交流センターの展示ケースを利用した小展示

展示名称	実施年
畠田古墳・西安寺跡	平成 16 年
舟戸・西岡遺跡	平成 17 年
達磨寺旧境内	平成 18 年
片岡王寺の歴史	平成 20 年
達磨寺１号墳の出土遺物	平成 21 年
戦国馬ヶ脊城	平成 21 年
送迎太神宮跡	平成 23 年
片岡王寺跡―見えてきた大寺院の実相―	平成 26 年
みくらべよう達磨寺の鬼瓦	平成 28 年
西安寺跡―舟戸神社に眠る古代寺院―	平成 29 年

○他機関への出品

出品機関	展示名称	出品資料	出品年
文化庁	発掘された日本列島 2003	達磨寺石塔埋納遺構出土品	平成 15 年
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	大和を掘る 21	達磨寺石塔埋納遺構レプリカ	平成 15 年
奈良国立博物館	達磨寺の美術	達磨寺の木造聖徳太子坐像、木造達磨坐像、木造千手観音坐像、絹本著色涅槃図、絹本著色十六善神像、絹本著色観音菩薩像、大甕、青磁香炉	平成 15 年
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	大和を掘る 25	片岡王寺跡出土遺物	平成 19 年
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	大和を掘る 26	馬ヶ脊城跡写真パネル	平成 20 年
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	大和を掘る 33	西安寺跡出土遺物	平成 27 年
奈良県立美術館	雪舟・世阿弥・珠光…中世の美と伝統の広がり	達磨寺の木造達磨坐像、絹本著色達磨像、達磨画像	平成 28 年
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	大和を掘る 36	西安寺跡出土遺物	平成 30 年

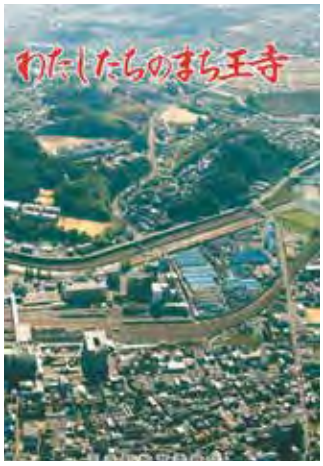
○大阪府柏原市・三郷町・王寺町 3 市町共催巡回展

展示名称	市町名	展示会場	展示期間
亀の瀬の歴史 ―大和・河内をつなぐ道―	柏原市	柏原市立歴史資料館	H27. 3. 28. ～ 6. 14.
	三郷町	三郷町コミュニティセンター	H27. 6. 20. ～ 7. 5.
	王寺町	王寺町地域交流センター	H27. 7. 18. ～ 8. 2.

（３）学校教育との連携

① 社会科副読本『わたしたちのまち王寺』

『わたしたちのまち王寺』は、町内の小学校３・４年生の社会科副読本として利用されており、身近な地域における町の仕組み、自然や歴史、産業、環境、防災などについて広く理解を深めることを目的に、わかりやすく説明されています。昭和 57 年に初版が王寺町教育委員会によって発行され、平成 27 年には 10 版になっています。町内の小学校教員が執筆者となり、副読本を参考に自らが問題をつかみ、調べ、新たな疑問を持つといった“問いの旅”をする構成をとっています。



社会科副読本

② 童話『聖徳太子と愛犬雪丸のものがたり』

達磨寺には雪丸の石像が祀られ、雪丸が言葉を理解して経を唱え、達磨大師の墓のそばに葬ってほしいと遺言したなどの伝承が残されています。童話は、こうした伝承をもとにつくられ、平成 26 年に雪丸実行委員会から発行されました。斑鳩宮に迷い込んだ雪丸が、太子が毎日経典を読む姿を眺めるうちに言葉や経を覚え、２人の交流が深まっていくという物語です。王寺町の歴史を全国に発信するために販売されていますが、平成 28 年からは王寺町が町内の中学１年生を対象に中学生読書感想文コンクールを実施し、優秀作品を表彰しています。

雪丸の童話

③ 漫画『ゆきまり探検隊―タイムスリップして王寺の歴史を追え！』

王寺町の歴史を小学生でもわかりやすく学び、郷土への愛着を高めることができるように、平成 27 年に雪丸実行委員会から発行されました。雪丸像のある達磨寺を訪れた小学生２人が 1400 年前の飛鳥時代にタイムスリップし、ボールに化けた雪丸「ゆきまり」の案内のもと、聖徳太子ゆかりの達磨寺や芦田池などの歴史を学んでいくというストーリーを漫画で表現しています。町内の小学校に配布され、地域学習の補助教材として活用されているほか、一般にも販売されています。

「ゆきまり」の漫画

④ 動画「亀の瀬―地すべりの歴史と王寺町のあゆみ」

亀の瀬は、大阪府と奈良県の境にあって古くから交通の要衝であると同時に、大規模な地すべりが発生するところでもあります。亀の瀬で地すべりが発生すると、大和川の流れが悪くなって王寺町の水害の危険性が高まります。こうした亀の瀬の歴史と王寺町の関わりを広く理解できるように、平成 29 年に王寺町が動画を作製しました。亀の瀬の歴史や地すべりのメカニズム、地すべり対策工事について、キャラクターの亀助が案内人となってわかりやすく解説されています。動画はインターネットで公開されているほか、町内の小中学校に配布され、補助教材として活用されています。

亀の瀬の動画

（４）情報発信

① 広報おうじ『王伸』

王寺町の広報誌『王伸（おうしん）』は、昭和 36 年から毎月発行されています。この媒体を利用して、王寺町の文化財に関する情報発信が昭和 51 年から断続的に続いており、これまでに 9 回の連載が行われています。

広報『王伸』

内容は、町民が身近に親しめるものが多く、紹介する範囲も王寺町に限らず、周辺地域のゆかりのある文化財を含めてわかりやすく説明されており、現在連載されている「思いつくまま、歴史の旅」は、平成 31 年 3 月号で 70 回を数えています。

＜表 3-32　広報『王伸』での文化財に関する連載＞

連載名	連載回数	連載期間
王寺町の史跡	14 回	昭和 51 年 2 月号～同 52 年 3 月号
郷土の史跡	15 回	昭和 52 年 5 月号～同 53 年 7 月号
歴史のひろば	28 回	昭和 53 年 10 月号～同 56 年 1 月号
町史編さんだより	41 回	平成 9 年 7 月号～平成 12 年 11 月号
“探検”王寺の歴史	36 回	平成 13 年 4 月号～同 16 年 3 月号
発信 !! 歴史ウォーキング	12 回	平成 16 年 4 月号～平成 17 年 3 月号
古からのメッセージ・片岡王寺	12 回	平成 18 年 4 月号～平成 19 年 3 月号
思いつくまま、歴史の旅	70 回（H31. 3. 現在）	平成 25 年 6 月号～（継続中）
おうじ今昔とりっぷ	21 回（H31. 3. 現在）	平成 29 年 5 月号～（継続中）

② ホームページ「王寺町歴史資料室」

王寺町のホームページでは、「王寺町歴史資料室」として文化財に関する情報を公開しており、デジタル博物館としての役割を果たしています。そのコンテンツは王寺町の通史をはじめ、鉄道と王寺に関する特集記事、文化財マップと主な社寺の解説、伝説・昔話などと多岐にわたっています。

＜表３-33 「王寺町歴史資料室」のコンテンツ＞

項目	内容
王寺町の歴史	現代の歴史、近代の歴史、近世の歴史、中世の歴史、古代の歴史
鉄道と王寺	鉄道今昔写真、昭和時代―幾多の困難とその後の発展、大正時代―鉄道網の形成と町制施行、明治時代―農村に敷かれた県下初の鉄道、鉄道と王寺
伝説・昔ばなし	片岡八郎（利一）物語、飢人伝説、伝説・昔ばなし
文化財マップ	舟戸神社、亀の瀬荷継ぎ場跡、永福寺、白山姫神社、乳かけ地蔵、火幡神社、品善寺、親殿神社、親殿神社、片岡神社、放光寺、片岡王寺跡、達磨寺、西安寺跡、久度神社、王寺町にある指定文化財
王寺町発行の歴史刊行物	王寺町から発行されている歴史刊行物一覧、埋蔵文化財包蔵地一覧

③ 文化財関連パンフレット

これまでに王寺町では５種類の文化財関連パンフレットが発行されています。平成 18 年に発行した「王寺町の指定文化財」は、その後、新たに指定された文化財も多いため、現在は配布していません。「王寺いろは手帖」は平成 26 年に初めて発行したもので、王寺町の歴史・文化の魅力を広く発見できる情報などが掲載されており、主に観光来訪者などに配布されています。また、「聖徳太子に迫る旅」は平成 29 年に奈良県立大学とのコラボレーション企画として発行され、王寺町と関わりが深い聖徳太子の魅力や偉業、太子ゆかりの地など、学生が現地で取材した成果が掲載されています。王寺町以外にも達磨寺で寺院の歴史・文化財を案内するパンフレットが発行され、拝観者に配布されています。

文化財関連のパンフレット

＜表３-34　王寺町が発行する文化財関連パンフレット＞

資料名	内容
王寺町の指定文化財	国・県・町の指定文化財の紹介、周知の埋蔵文化財包蔵地地図
王寺いろは手帖	王寺町観光マップ、達磨寺、ハイキング、明神山、鉄道のまち、川船、観光の穴場、観光ガイド、雪丸、イベント情報など
明神山パンフレット	360 度の大パノラマ（眺望）、明神山の鳥居から山頂までの道のり
ほっかつ（歩っ活）	広陵町・河合町・上牧町・王寺町の４町のウォーキングマップ、スポット（花、遊ぶ、歴史伝統・文化、公共施設、心に残る風景、神社仏閣、古墳、散策コース）、年間スケジュール
聖徳太子に迫る旅	太子道マップ、聖徳太子に迫る、ゆかりの地（斑鳩、信貴山、王寺）、年間イベント

④ 文化財解説板

王寺町では、来訪者に歴史・文化財を案内する解説板が、現在、主な寺社を中心に計 31 基設置されています。そのほとんどが昭和 50 年代頃に設置されたもので、文字が薄れるなど老朽化が進むとともに情報内容も古くなっています。また、それぞれの寺社に関する解説板があっても、そこまでの行先を示す案内標識は 2 基にとどまっています。

近年では、明神山山頂の解説板を充実させ、平成 28 年度には来訪者と指定文化財の所有数が町内で最も多い達磨寺において、境内の文化財解説板をそれまでの 2 基から 13 基に増設し、日本語に英語も加えたものに更新しました。

＜表 3-35　町内に設置される解説板＞

No.	設置場所	数量（基）	No.	設置場所	数量（基）
1	達磨寺	13	9	親殿神社	1
2	放光寺	1	10	八幡神社	1
3	片岡神社	1	11	久度神社	1
4	舟戸神社	1	12	畠田古墳	1
5	品善寺	1	13	乳垂地蔵	1
6	永福寺	1	14	芦田池	1
7	白山姫神社	1	15	明神山	4
8	火幡神社	2	16	その他（行先案内標識）	2

昭和 50 年代頃に設置された解説板

平成 28 年に更新した達磨寺の解説板

３－５．民間団体の活動

（１）王寺観光ボランティアガイドの会

王寺観光ボランティアガイドの会は平成 22 年７月、平城遷都 1300 年祭を契機に住民有志によって発足されました。平成 30 年４月現在の会員数は 36 名（男性 28 名、女性８名）となっています。主な活動として達磨寺の定点ガイドがあり、毎週土・日曜日と祝祭日の午前 10 時から午後３時まで常駐し、達磨寺に来訪された方をガイドしています。ほかにも標準コースを設定してグループガイドやウォークイベントを行ったり、小学校の校外学習として町の歴史ガイドなどを行ったりしています。２年ごとに王寺町の歴史などを学ぶ座学講習と具体的な周遊ルートを現地で学ぶルート講習で構成されるガイド養成講座が実施されており、新規会員を増加させています。

ガイド活動の様子

＜表３-36　ボランティアガイドの会の標準コース＞

No.	コース名	経由地	歩行距離
1	王寺の里１	ＪＲ王寺駅～久度神社～龍田大社～松永弾正顕彰碑～孝霊天皇陵～親殿神社～芦田池～片岡神社～放光寺～和の鐘～ＪＲ王寺駅	約 8.6km
2	王寺の里２	ＪＲ王寺駅～和の鐘～達磨寺～乳たれ地蔵～白山姫神社～尼寺廃寺跡～永福寺～神武天皇遥拝所～火幡神社～いずみスクエア～芦田池～親殿神社～孝霊天皇陵～片岡神社～放光寺～ＪＲ王寺駅	約 10.4km
3	尼寺廃寺跡から滝不動	ＪＲ畠田駅～せせらぎ公園～尼寺廃寺跡～正楽寺～滝不動～尼寺御厨神社～畠田公園～健民グランド～ＪＲ王寺駅	約 10.5km
4	舟戸神社から三室山	ＪＲ王寺駅～Ｄ 51 機関車～三室山～龍田川公園～沈下橋～舟戸神社～達磨寺～和の鐘～ＪＲ王寺駅	約 9.3km
5	明神山	ＪＲ王寺駅～参道鳥居～明神山山頂～分岐点から十三重塔～関屋地蔵～ブドウ畑～国分駅～高井田駅～横穴古墳群～歴史資料館～ＪＲ高井田駅	約 13.4km
6	亀の瀬　龍田古道	ＪＲ王寺駅～久度神社～松永弾正顕彰碑～龍田大社～神南備神社～磐瀬の杜～峠八幡神社～地すべり資料室～龍王社～ＪＲ河内堅上駅	約 8.2km
7	太子道	ＪＲ王寺駅～達磨寺～片岡神社～芦田池～尼寺廃寺跡～平野古墳群～正福寺～武烈天皇陵～志都美神社～ＪＲ志都美駅	約 8.3km
8	吉田寺から龍田公園	ＪＲ王寺駅～舟戸神社～沈下橋～吉田寺～龍田神社～鹿塚～竜田川公園～三室山～ＪＲ王寺駅	約 8.5km
9	孝霊天皇陵から達磨寺	ＪＲ王寺駅～健民グランド～孝霊天皇陵～親殿神社～芦田池～達磨寺～片岡神社～和の鐘～ＪＲ王寺駅	約 4.9km
10	達磨寺から法隆寺	ＪＲ王寺駅～和の鐘～達磨寺～三室山～竜田公園～龍田街道～法隆寺～境内～法隆寺南大門	約 7.0km

（２）片岡八郎公顕彰会

平成 29 年の花折塚参拝

昭和 15 年（1940）の紀元 2600 年記念事業として、当時の王寺町壮年団が中心となり「片岡八郎公顕彰会」が設立され、『忠臣片岡八郎利一公勲蹟』が発刊されましたが、戦後の混乱のなかで設立当時の記録や資料はほとんど失われました。昭和 52 年、当時を偲ぶ人々と片岡家にゆかりのある人が集まり、達磨寺に五輪塔を建立して供養しようということで「片岡会」が発足し、昭和 61 年には会の名称が「片岡八郎公顕彰会」に改められました。

会の主な行事としては、片岡八郎公に正五位が追贈された 11 月 10 日前後に達磨寺で開く供養をかねた法要と、討死したとされる５月に十津川村花折塚へ赴いての参拝があります。花折塚の参拝は、かつては道路状況が悪く、玉置神社から熊野古道を約 4 ㎞ 歩かなければならず、毎年実施することが困難でしたが、林道が整備され、町バスも利用できるようになったことで行きやすくなり、平成３年からは毎年参拝されています。平成 10 年には片岡八郎公顕彰会が『片岡八郎（利一）物語』を編集し、王寺町から発行されました。平成 30 年 11 月現在の会員数は 42 名ですが、古くから活動されていることもあって、会員の高齢化が進んでいることも事実です。

＜表３-37 『片岡八郎（利一）物語』の目次＞

章・節
一、はじめに
二、片岡家とその一族 （一）片岡武士団、（二）片岡氏の一族
三、鎌倉から南北朝の時代 （一）後醍醐天皇、（二）大塔宮護良親王、（三）鎌倉幕府倒れる、（四）建武の新政、（五）南北朝の対立
四、片岡八郎（利一）の忠勲 （一）天下の風雲、不利に、（二）大塔宮の知恵―般若寺、（三）十津川、 （四）護良親王（大塔宮）の首に賞金、（五）錦の御旗、（六）片岡八郎討死
五、花折塚 （一）花折塚の場所、（二）碑の建立、（三）碑文、（四）片岡八郎を讃える詩や和歌
六、片岡八郎と十津川の郷士 （一）長澤義訓、（二）護良親王のうたの碑
七、王寺町での顕彰 （一）正五位の追贈、（二）碑「石心松操」、（三）王寺町民の誇り、片岡八郎（利一）
八、おわりに
（付）片岡八郎公顕彰会 （一）顕彰会の発足と経過、（二）顕彰会　二十二年の歩み

３－６．雪丸の活用

（１）マスコットキャラクターの雪丸

マスコットキャラクターの雪丸は、聖徳太子の愛犬で、人の言葉が理解でき、お経が読め、達磨大師の墓の北東に葬るように遺言したという伝承を持つ達磨寺の石造雪丸像がモデルになって誕生しました。平成 25 年６月に王寺町の公式マスコットキャラクターに認定され、同年８月に観光・広報大使に就任して活躍を続けています。また、雪丸の伝承に基づく聖徳太子との物語は、講談や落語、童話などをつうじて全国に発信しています。

キャラクターの雪丸

（２）雪丸ミニプラザ

王寺町地域交流センターには、王寺町の観光情報を発信できる雪丸ミニプラザを設置しています。

ミニプラザには、王寺町を上空から一望できる床マップや年間行事・観光地情報が検索できるデジタル観光マップ、王寺町の歴史年表などが設置されています。

雪丸ミニプラザ

（３）雪丸ロード

雪丸ロードとは、ＪＲ王寺駅から聖徳太子ゆかりのお寺で雪丸像が祀られる達磨寺までを結ぶ全長約１㎞の散策コースです。

駅から道路面に設置される雪丸の足跡が達磨寺までの道のりを誘導します。途中にはロードマップや雪丸フィギュア、雪丸タペストリーも設置されています。

雪丸ロード

（４）雪丸グッズ

雪丸は、王寺町のマスコットキャラクターとしてぬいぐるみ、ストラップ、マグカップ、ネクタイなど様々なグッズになっています。役場や王寺町地域交流センターなどで販売されているほか、ふるさと納税の返礼品にもなっています。

雪丸グッズ

（５）雪丸スイーツ

雪丸の顔をかたどったケーキ「ゆきま～る」は、町内の事業所で販売され、雪丸カフェの人気商品としても親しまれています。王寺町の自慢したい「モノ・コト・トコロ」コンテストのなかで中学生からは「おいしい」、「かわいい」という意見が多くあげられていました。また、ロールケーキの「ゆきロール」も販売されています。

ゆきま～る

（６）雪丸ドローン

王寺町の観光ＰＲ動画「雪丸散歩」は、“王寺町の空には雪丸が飛んでいる”と称して、達磨寺から明神山（みょうじんやま）まで雪丸が空中散歩で案内してくれます。空中散歩では雪丸がドローンになって飛び回る姿が実写され、その愛らしさが王寺町の観光ＰＲに役立てられています。

ＰＲ動画で王寺町の空を飛ぶ雪丸ドローン

（７）Ｙｕｋｉｍａｒｕ　Ｔａｌｋ

キャラクターからドローンになった雪丸は、人の言葉が理解でき、お経を読んだとされることにちなんでさらに発展し、会話内容を認識して対話を楽しめる会話認識スピーカー「Ｙｕｋｉｍａｒｕ　Ｔａｌｋ」として誕生しました。平成 31 年４月から雪丸ミニプラザなどで観光案内役をつとめる予定で、クイズも交えて観光客を楽しませてくれます。

会話認識スピーカー

（８）人工無脳ロボット

コミュニケーションができる人工無脳ロボットとして開発された雪丸です。町立図書館のカウンターに設置されており、話しかけると雪丸が答えてくれます。貸出、返却、蔵書検索などができるソフトウェアとともに通いたくなる図書館づくりが目指されています。また、子どもたちへの絵本などの読み聞かせでも活躍しています。

雪丸ロボット

（９）まちで出会う雪丸

雪丸は町内のあちこちで目にすることができます。フィギュアや公用車・清掃車のほか、王寺工業高校と王寺中学校・王寺南中学校が協力して制作した交通安全「とび出しワンワン」は、王寺町内の通学路などに設置されています。

清掃車

とび出しワンワン

また、雪丸は、安産祈願した願い札やステッカーを子育て世代に配布したり、介助犬の募金活動や慰問活動などを行ったりして社会貢献の役割も担っています。

雪丸ワイン

雪丸の葛餅

雪丸を活用した新商品は次々に開発され、隣接する大阪府柏原市（かしわらし）がワインの産地であることから同市の事業者と連携した「雪丸ワイン」、奈良県が葛（くず）の産地であることから「雪丸の葛餅（くずもち）」が商品化され、販売が始められる予定です。

第４章　王寺町の歴史文化

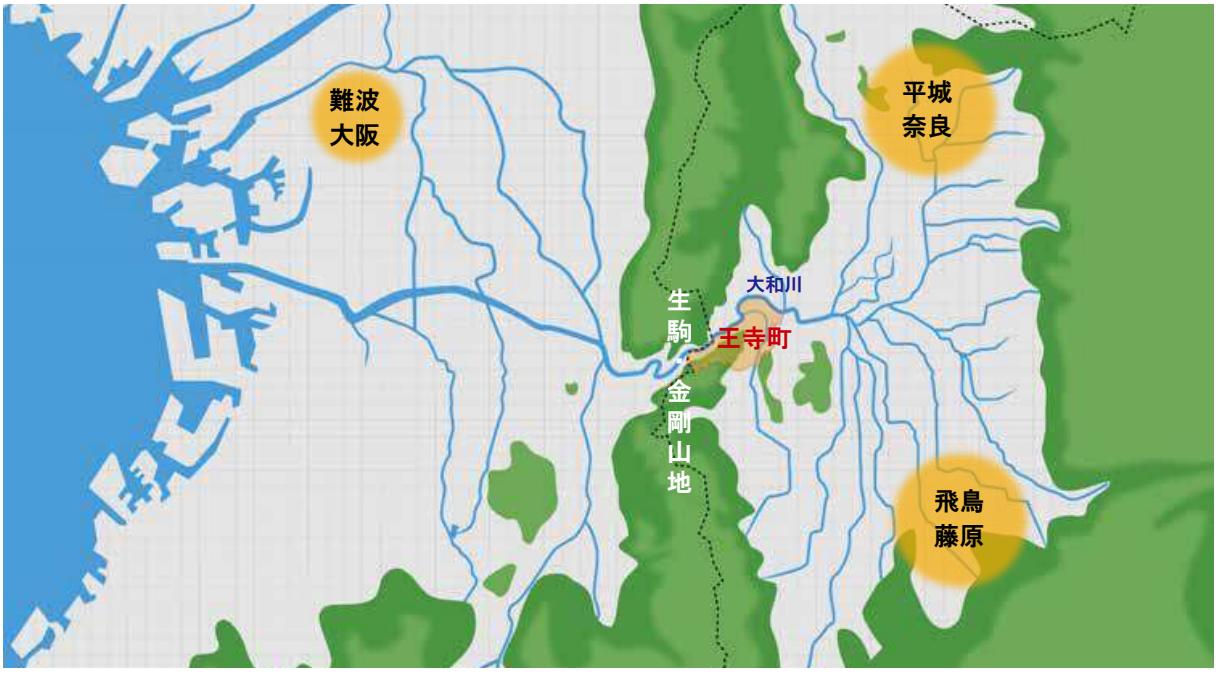
４－１．成り立ちと取組みから見た特徴

ここまで第２章で王寺町の成り立ちについて、第３章で王寺町における文化財に関わる取組みについて見てきました。それらから特徴を見出し、王寺町の歴史文化について次のようにまとめることができます。

王寺町の成り立ち

王寺町の北には大和川が流れ、西には生駒・金剛山地があります。大和川は奈良盆地内を流れるすべての川水を集めて、生駒・金剛山地を切り抜くように大阪平野に流れ出ており、奈良盆地から山越えを要しないで唯一出入りできるのがこのルートで、王寺町はまさに大和の玄関口に位置しています。

王寺町の成り立ちには、こうした地理的な要件が深く関係し、古代から大和川・竜田道といった水陸交通によって先進的な文化がいち早くもたらされました。明治時代には鉄道が敷設され、高度経済成長とともに大阪のベッドタウンとして大きく発展し、人口の増加とともに役場、駅前広場、学校などの公共施設が整備され、鉄道の町として駅前に商業施設が集中しています。一方で、地理的な要件から王寺町では水害や地すべりといった災害も多く発生しました。



＜図４-１　大和の玄関口に位置する王寺町＞

文化財に関わる取組み

これまで昭和の初めと同 40 ～ 50 年代に文化財を調査し、保存する動きが見られましたが、本格的な取組みが始まったのは平成 9 年の町史編纂事業からです。交通に恵まれた地理的要件から古代から近代に至る貴重な文化財が数多くあり、引き続きあらゆる文化財の調査・研究を行って保存するとともに、これからの町づくりに文化財を活用することが重要です。

近年、王寺観光ボランティアガイドの会のように、地域住民が地域の文化財に関心を持って保存・活用を図っている状況や、達磨寺に伝えられてきた有形民俗文化財である聖徳太子の愛犬・雪丸が、町のシンボルになることで町民をはじめ日本全国の人々の興味関心を呼び起こしている現状は、文化財を活用することで町に新たな活気を生み出す好事例になっており、王寺町の文化財が備えているポテンシャルを示しています。

様々に姿を変えて町に活気を生み出す雪丸

歴史文化の特徴

王寺町のすべての文化財を調査・研究し、まずはきちんと保存することが大切ですが、文化財を活用することで町に新たな活気を生み出す観点から王寺町の歴史文化を整理すれば、次の５つを特徴としてあげることができます。

Ⅰ　聖徳太子

王寺町には、現在「太子葬送の道」と呼ばれる道が伝わり、その道は聖徳太子が生前からつくらせていた墓の視察のためにたびたび往来されていたといわれています。そのため、「太子葬送の道」の沿道には、聖徳太子に関わる伝説・伝承が数多く残っています。

Ⅱ　大和川

王寺町が位置するのは、大和川が奈良盆地のすべての川水を集めてきたところで、かつ生駒・金剛山地を切り抜く亀の瀬を経て大阪へ流れ出るところです。つまり、王寺町は地理的に大和川を通じた大和の玄関口にあり、大和の都と難波の海とをつなぐ中継地としての役割を担い、集落や寺院が営まれ、江戸時代には舟運の物流拠点として栄えました。

Ⅲ　鉄道

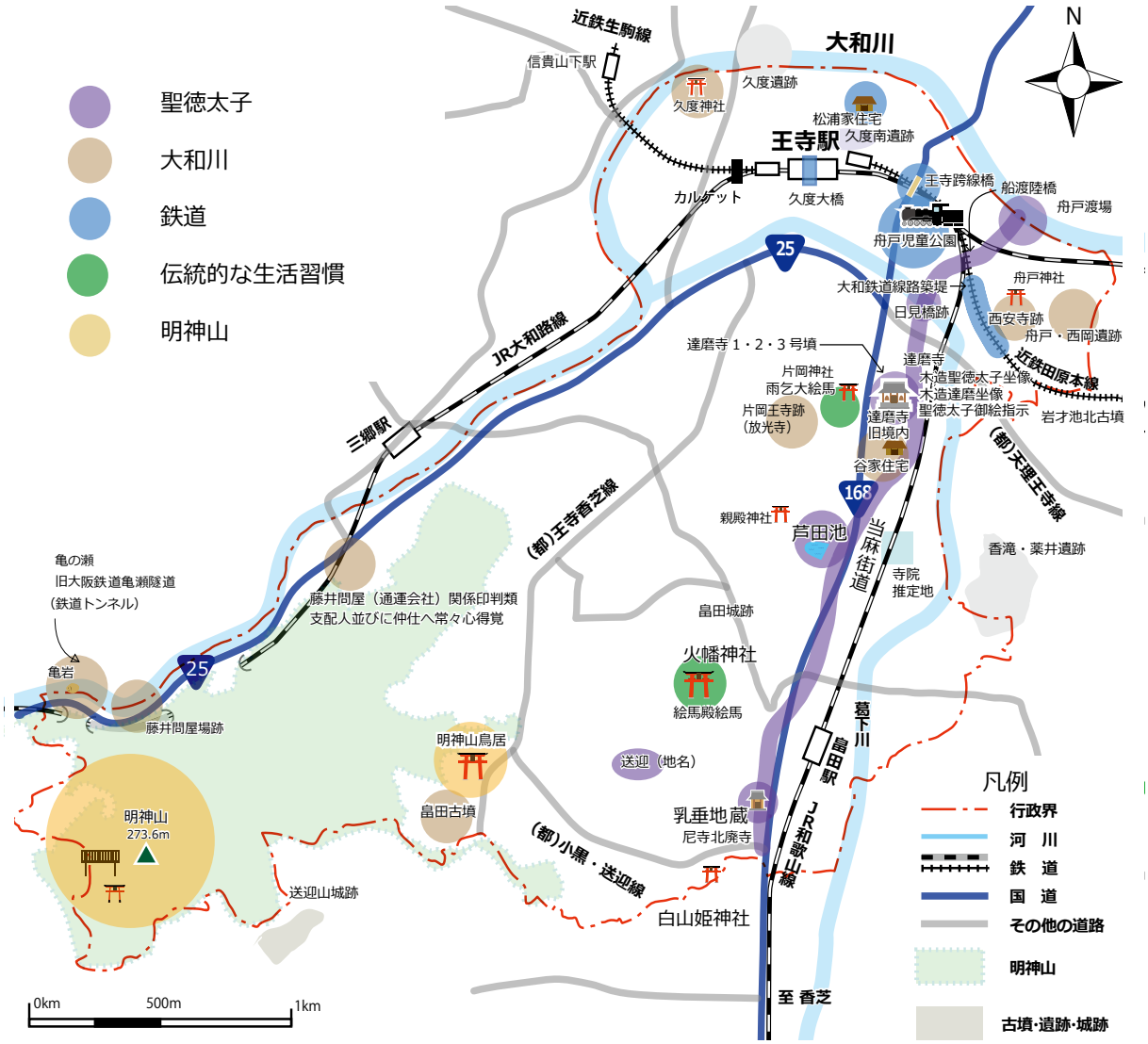
奈良県で初めての鉄道となる王寺・奈良間が明治 23 年（1890）に開通し、同 25 年（1892）に湊町・奈良間が全通すると、王寺はまたたく間に発展を遂げました。大正 15 年（1926）には町制が施行されて王寺町が誕生し、「鉄道のまち」と呼ばれるようになります。さらには、和歌山線、大和鉄道、信貴生駒電気鉄道と王寺駅を中心とする鉄道網が形成され、現在のように大阪のベッドタウンとなっていきました。

Ⅳ　伝統的な生活習慣

王寺町にも江戸時代以来、人々が生活した集落があり、農業を中心にして雨乞いや絵馬の奉納、庚申・伊勢といった様々な講、各神社での秋祭りと太鼓台の引き出し、稚児行列も行われる達磨会式などの伝統的な生活習慣が伝えられてきました。また、王寺町には第 7 代孝霊天皇の陵があり、「御陵さん」と親しみのある呼び名とともに長く伝えられてきました。

Ⅴ　明神山

明神山は標高 273.6m と低い山ながら 360 度のパノラマが楽しめる場所です。同時に飛鳥時代に開かれた修験の道や江戸時代の送迎太神宮、現代の水神社など信仰を集める山でもあります。送迎太神宮の絵図には山頂で景色を楽しむ人の姿が描かれ、すでに江戸時代から眺望に優れる山として知られていたことがわかります。現在でも歴史ある大和と大阪の海を見渡せることから、その場所と眺望に文化財としての価値を見出すことができます。



＜図４- ２　王寺町の歴史文化の特徴を構成する文化財＞

第５章　文化財による王寺町のまちづくり

５－１．保存と活用に関する課題

第２章から第４章までの叙述に基づいて、王寺町における文化財の保存と活用に関して課題を抽出すれば、大きく次の５つをあげることができます。

課題１　文化財調査・研究の継続

① 文化財の調査・研究

第３章においてまとめたように、これまですべての文化財に関してバランスよく調査や保存に取り組めているわけではありません。現在、王寺町には動物・植物などの自然に関する記念物や庭園・峡谷・山岳などの名勝に関する記念物の指定文化財が国・県・町指定のいずれにおいても１件もなく、史跡に関しては県指定が２件あるものの国指定は１件もありません。しかし、その一方では、住民が身近に感じる文化財として明神山からの風景や桜・イチョウのある自然景観が多くあげられ、西安寺跡や片岡王寺跡のように飛鳥時代寺院の貴重な遺構が残っていると見られる遺跡が複数あって、その全容解明が期待されます。そのほか、保存すべき民家がどれほど残っているのかといった調査もできていませんし、古文書や民俗文化財は調査してから一定の時間が経過しているため、再調査する必要があります。したがって、とりわけこれまで十分に取り組めていなかった文化財に関して調査・研究を重点的に進めながら、すべての文化財の調査・研究を継続することが課題にあげられます。

② 文化財のデータベース化

住民にとって貴重な財産である文化財は、町の歴史や伝統・文化などを正しく理解するために欠くことができないものであり、将来の文化の向上発展に寄与するものですが、住民が必要な情報を一元的に収集できるシステムが整備されていません。したがって、文化財の調査・研究を継続させるとともに、それらの情報をデータベース化して整理することが課題にあげられます。データベース化は文化財を保存する上で基本となる情報であるので、それらの情報の積極的な公開・発信も課題にあげられます。

課題２　文化財の保存

① 文化財の指定・登録

文化財を確実に保存するためには、文化財の大きさや形、材質、時代、修理履歴などの調書を作成して備えておく必要があります。そうしておくことで、万一盗難に遭ったり、毀損したりしても調書に基づいて捜索し、復元することができます。そのためにも継続的な調査・研究や文化財のデータベース化が課題としてあげられるわけですが、さらに保存の確実性を高めるのに有効なのが文化財の指定・登録です。文化財の指定・登録をすれば、台帳が作成されるほか、法令に基づいて管理や修理を適切に行うことができ、現状変更や所有者の変更など文化財の情報を逐次更新することができます。したがって、指定・登録文化財を増加させることで文化財の保存を図ることが課題にあげられます。

また、明神山は、山頂から歴史ある大和と大阪の海を見渡せることから、その眺望に文化財としての価値を見出すことができますが、優れた眺望を保存する措置が講じられていません。したがって、眺望の文化財指定や周辺環境の保全策の検討も課題にあげられます。

② 保存修理の適正な実施体制の構築

文化財のなかでも特に指定文化財については、その価値を損なわないように適切な時期に適正に保存修理を行う必要がありますが、修理に要する財源や用材、人材の確保が難しいこともあります。したがって、指定文化財の保存修理を着実に実施するためにも、行政と文化財所有者、地域住民が問題意識を共有し、修理に要する財源・用材・人材を確保して、適正に実施できる体制を構築することが課題にあげられます。

③ 防災・防犯体制の整備

王寺町は水害が多く発生する地勢にあり、水害以外にも地震・火災がいつ発生するかわかりません。「王寺町地域防災計画」では、文化財に被害が発生した後の対応はマニュアル化されていますが、被害を未然に防ぐための事前対策や行動計画などは定められていないのが現状です。したがって、そうした防災体制の整備が課題にあげられます。

また、近年は人為的な行為により文化財を汚損する被害や仏像などの盗難被害が多く発生しています。したがって、防犯カメラなどの防犯設備の新規設置や、住民による日常的な巡視など地域住民が一体となった防犯体制の整備が課題にあげられます。

課題３　文化財の活用

① 学校教育・生涯学習での活用

保存修理を適正に実施したり、地域住民による防災・防犯体制を整備したりして地域社会全体で文化財を保存するには、子どもから大人まで地域全体がその文化財の本質的な価値がどこに、どれほどあるのかを正しく理解し、共有しておかなければなりません。学校教育・生涯学習は、日常的に子ども・大人が集う場であり、文化財に触れて学ぶことができる環境を整えるのに効果的な場といえます。したがって、文化財を学校教育・生涯学習で積極的に活用することが課題にあげられます。

② 新たな活用策の検討

文化財の価値そのものを直接的に発信して活用するのはもちろんのことですが、住民が文化財をより身近に感じられるように工夫する必要があります。近年は、ユニークベニューとして歴史的建造物を音楽イベントやレセプションといった特別な会場に供したり、「Ｌｉｖｉｎｇ　Ｈｉｓｔｏｒｙ」（生きた歴史体感プログラム）として歴史的なできごとや当時の生活を再現して、目に見える形で体感・体験してもらったり、あるいは文化財を単体で活用するだけでなく、点在する複数の文化財を一定のテーマやストーリーでもって一体的に捉え、その魅力や価値をわかりやすく示したりするなどの新たな活用策が登場しています。したがって、こうした文化財の新たな活用策の検討が課題にあげられます。こうした活用によってにぎわいが創出され、収益が増えれば、文化財の保存に必要となる財源に充てることができます。

③ 雪丸に続く活用

雪丸（ゆきまる）は聖徳太子（しょうとくたいし）の愛犬として達磨寺（だるまじ）に伝わる石造物で、現在は王寺町指定文化財に指定されています。この達磨寺の石造雪丸像（せきぞうゆきまるぞう）をモデルにキャラクターがつくられ、平成 25 年には王寺町の公式マスコットキャラクターとなり、観光・広報大使となって今や王寺町民はもちろん、日本全国に雪丸ファンが広がり、王寺町の広報活動に大きく貢献しています。また、雪丸グッズが数多く商品化されて販売されており、文化財が新たな産業にも結び付くことを示してくれています。したがって、文化財の価値をブラッシュアップさせ、雪丸のように活用できる文化財を生み出すことが課題にあげられます。

課題４　住民との協働

① 地域に愛着と誇りを

文化財の保存と活用を図る上で地域住民の存在は欠かすことができません。どれだけ文化財が大切なものであっても、それを大切だと感じ、保存する担い手がいなければ、文化財はやがて失われてしまいます。文化財は、歴史的な人々の営みによってかたちづくられてきたものです。したがって、文化財の保存のために文化財を現代の生活に密着したかたちで、文化財と現代の生活につながりが感じられるかたちで活用し、地域に愛着や誇りを感じる住民であふれる町にすることが課題にあげられます。

② 住民が主体となった保存と活用

文化財の保存と活用は、行政が実施していくことは当然ですが、所有者をはじめとする地域住民の理解がなくてはできません。住民が地域に愛着と誇りを持つことで、住民の文化財に対する理解は協力へ、そして主体的な取組みへと関わり方が発展します。また、住民が主体となることで文化財を核にした観光産業を生み出すことも可能です。したがって、住民が主体となって活動できるような文化財の保存と活用のあり方が課題にあげられます。

③ 次世代への継承

王寺町の総人口は今後減少し、かつ高齢化も進んでいく見通しで、文化財の保存の担い手も減っていくことになります。特に伝統的な生活に根ざした祭礼・習慣などの無形民俗文化財は形態が変化しやすく、担い手の減少で廃れることも考えられます。また、太鼓台（たいこだい）の引き出しなど体力が必要なものは人口の減少だけでなく、高齢化も大きく影響します。したがって、学校教育や生涯学習で文化財を積極的に活用しつつ、地域社会全体で次世代への継承の問題に取り組むことが課題にあげられます。

④ 他地域との連携

文化財は、人々の営みによって歴史的にかたちづくられてきたものであり、すべてが市町村単位で存在するわけではありません。特に複数の文化財を一定のテーマやストーリーで一体的に捉えるときに、市町村単位でなく他地域の歴史文化と関連させることで文化財の魅力や価値が高まることもあります。したがって、文化財の保存と活用にあたって、他地域と連携することが課題にあげられます。その際は、行政の連携とともに地域住民による連携を図ることが大切です。

課題５　文化財の拠点づくり

① 観光基盤の整備

文化財の調査・研究、保存、活用が住民を主体として行われるようになり、地域の文化財に魅力を感じてそこを訪れようとしても観光案内板や誘導サインがなければたどり着くことができません。また、たどり着けたとしても説明看板がなければその魅力を十分に伝えることができません。現在、王寺町には誘導サインがほとんど設置されておらず、文化財の説明看板があっても劣化して読み取りにくいものが見られ、有効に機能しているとはいえません。したがって、多くの人が王寺町の文化財に魅力を感じ、訪れ、周遊できるように観光案内板や誘導サインの設置、新たな散策路の設定、それに休憩・トイレ設備など観光基盤の整備が課題にあげられます。

② 総合博物館の整備

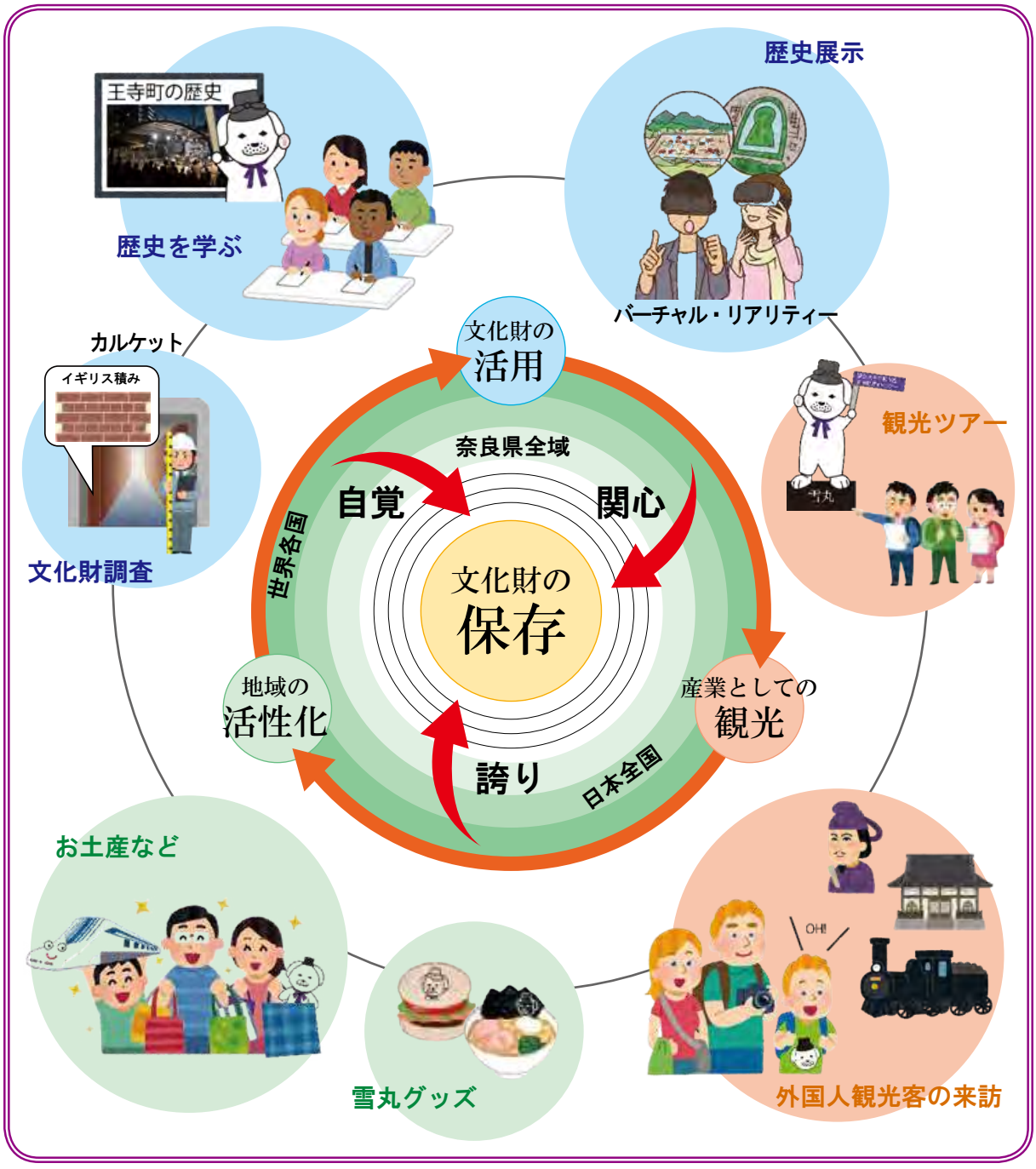
住民が主体的に文化財の保存と活用に取り組むためには、その活動を維持し、発展させるための環境整備が求められます。そのためには文化財をきちんと保存し、文化財の展示をつうじて地域の歴史を学ぶことができるとともに、文化財に関心を寄せる住民が集うことのできる拠点づくりが欠かせません。したがって、行政が運営する学術的な博物館という性格に加えて、住民が主体的に関わり、観光産業の拠点となるような総合的な博物館施設の整備が課題にあげられます。その際には、誘導サインや散策路、休憩・トレイ設備などの観光基盤と有機的に連関させることで、総合博物館の文化財拠点としての機能を高めることにも留意する必要があります。

５－２．保存と活用に関する方針

（１）保存と活用のコンセプト

にぎわう王寺の「モノ・コト・トコロ」

～世界が注目する聖徳太子の愛犬・雪丸のまち～



＜図５-１　文化財の保存と活用に関するイメージ＞

以上の課題を踏まえ、王寺町における文化財の保存と活用のコンセプトを「にぎわう王寺の『モノ・コト・トコロ』～世界が注目する聖徳太子の愛犬・雪丸のまち～」とします。これは、雪丸のように王寺町の文化財（モノ・コト・トコロ）を活用することで、世界規模で王寺町を知ってもらい、産業を起こし、町に活気をもたらそうとするものです。

具体的には、文化財を活用することで産業としての観光を確立させ、地域を活性化させるサイクルに重点を置きます。こうしたサイクルが住民の文化財に対する関心を呼び、地域に対する愛着・誇りを生み、自ら文化財を守り伝えようとする自覚となって、最終的に文化財の保存へと結び付きます。また、「文化財の活用」「産業としての観光」「地域の活性化」のサイクルは住民だけでなく、日本全国から世界各国へ交流と保存の輪を広げます。このコンセプトを実現させるために、文化財の保存と活用に関する方針を次のように定めます。

（２）保存と活用に関する方針

基本理念

王寺町の貴重な文化財を将来に伝えるために

・保存に万全を期し、影響を与えない範囲において適切に活用する

・活用に際しては、その時点における学問的な成果に基づいて行う

方針１　文化財を掘り起こす

王寺町には、いまだ指定に至っていない未指定の文化財が数多く存在しています。このような文化財について継続的な調査・研究を進めるほか、住民が身近に感じている自然・景観など、これまで十分に取り組めていなかった文化財についても調査・研究することで、新たな文化財を掘り起こし、知られないままに失われてしまう文化財をなくします。

方針２　文化財を守る

王寺町の文化財の保存や継承のため、調査・研究に基づいて新たな文化財指定や登録を行うとともに、それらの保存修理事業を行います。また、文化財の防災・防犯体制を整備し、地域の見守り活動を実施します。そうすることで、文化財の保存を確実なものとします。

方針３　文化財の特徴をみがく

多くの人が王寺町を知り、理解し、関心を持てるように、王寺町の特色ある文化財をブラッシュアップします。特に明神山は、大和・河内の歴史や自然が眺望できる地点として、文化財の新たな価値を創出します。そうすることで、王寺町に魅力を感じて訪れる人を増やし、社会全体で文化財を保存する体制につなげます。

方針４　文化財を生かした交流

人口の減少・高齢化により文化財保存の担い手も減っていくなか、文化財を活用して交流人口を増加させ、観光による地域の活性化を図ってにぎわいのある町づくりを行うとともに、町民をはじめ日本全国・世界各国の人々を巻き込んで文化財の保存に結び付けます。

方針５　文化財の拠点づくり

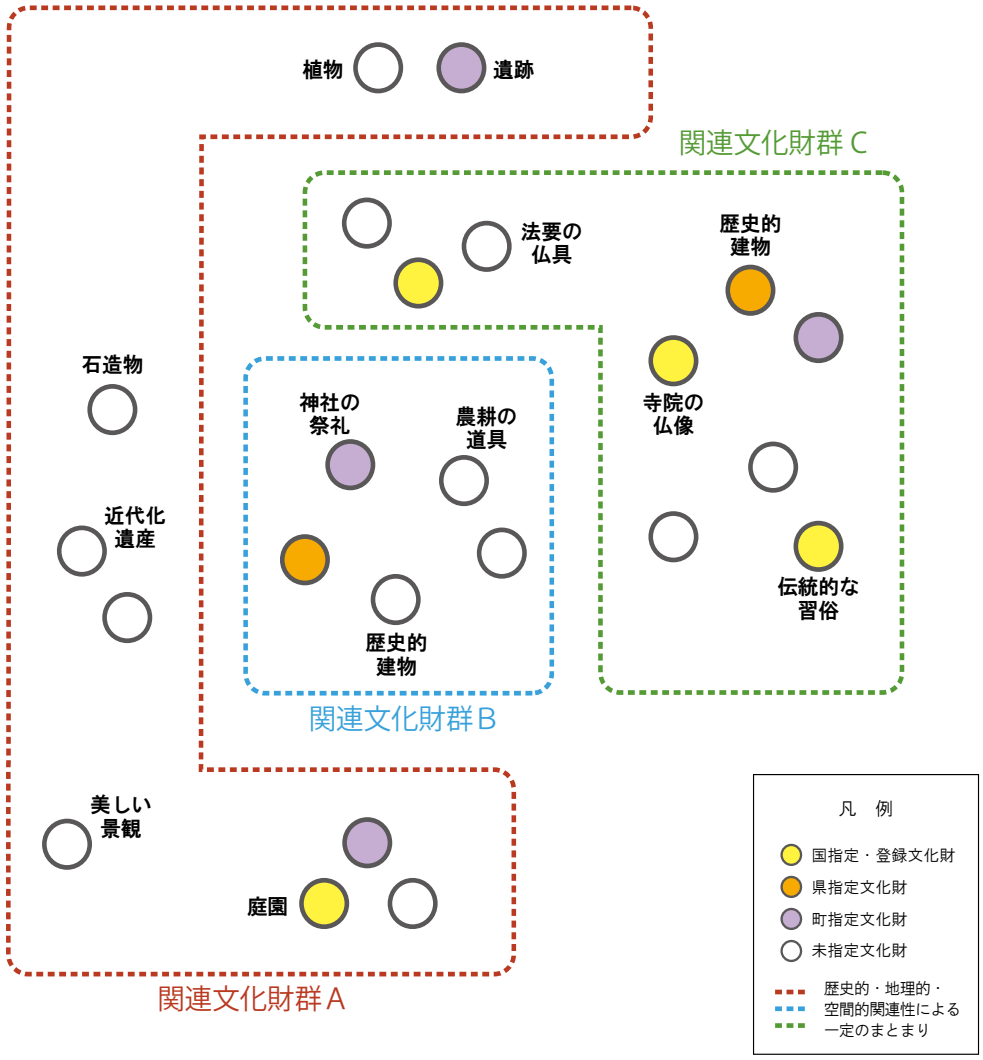
文化財を掘り起し、みがき、多くの住民を巻き込んで文化財の保存・活用を進めるには、核となる拠点施設が欠かせません。そのため、文化財を保存・展示し、人の交流を生み、地域の活性化が図れるような総合博物館の整備を進めることで、王寺町全体で行政・地域・住民が一体となって文化財の保存と活用を図る基盤とします。

５－３．関連文化財群の設定

（１）関連文化財群とは

文化財の保存と活用に関するコンセプトと方針に基づきながら、指定・未指定に関わらず地域において地理的・歴史的・空間的関係性から一定のまとまりをもって存在する様々な文化財を「関連文化財群」として設定します。

特定のテーマやストーリーの下で関連性のある文化財を一体として捉えることで魅力や価値をわかりやすく示し、総合的に保存と活用を進めます。

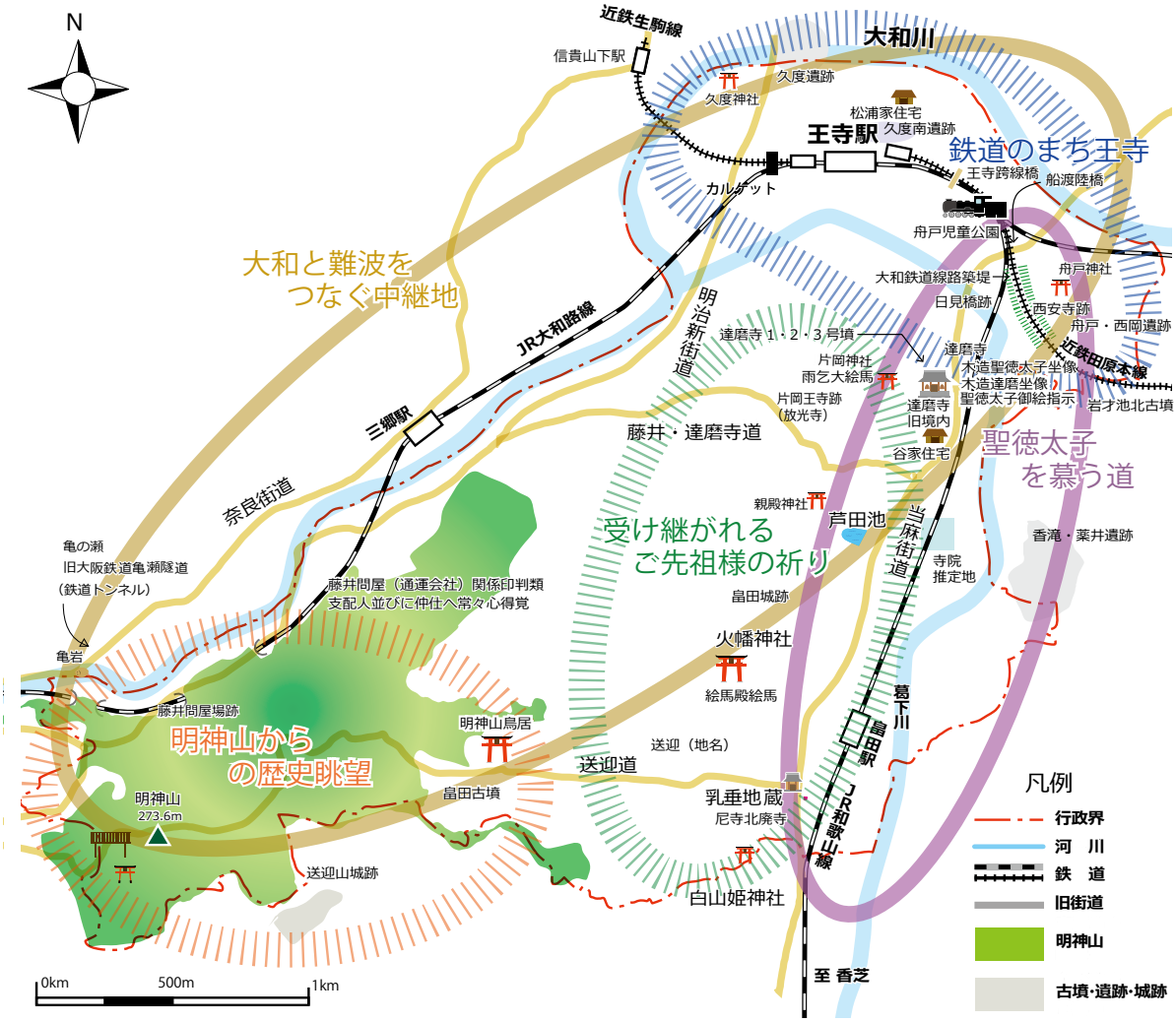


＜図５- ２　関連文化財群の概念図＞

（２）王寺町の関連文化財群

文化財による王寺町のまちづくりを進めるため、５つの関連文化財群を設定し、物語としてストーリー化します。なお、各ストーリーの構成文化財には代表的な文化財をあげており、他にも関連する文化財は数多くあります。

ストーリーⅠ	聖徳太子を慕う道
ストーリーⅡ	大和と難波をつなぐ中継地
ストーリーⅢ	鉄道のまち王寺
ストーリーⅣ	受け継がれるご先祖様の祈り
ストーリーⅤ	明神山からの歴史眺望



＜図５- ３　王寺町の関連文化財群イメージ＞

ストーリーⅠ　聖徳太子を慕う道

関連文化財群のストーリー

聖徳太子は推古天皇30年（622）に斑鳩で薨去され、ご遺体が墓のある磯長（大阪府太子町）まで葬送されました。現在、王寺町には「太子葬送の道」と呼ばれる道が伝わり、その道はご遺体が葬送されただけでなく、太子が生前からつくらせていた墓の視察のためにたびたび往来されていたといわれています。「太子葬送の道」の沿道には、聖徳太子に関わる伝説・伝承が数多く、時代を問わず聖徳太子を慕ってきた人々の思いを感じるとともに、王寺に暮らした人々と聖徳太子が交流することもあったのではないかと想像させられます。

構成文化財とその概要

① 旧当麻街道
（未指定）

龍田（斑鳩町）と当麻（葛城市）方面を結ぶ街道です。飛鳥時代のルートは定かでありませんが、現在は江戸時代の当麻街道が聖徳太子のご遺体を送った「太子葬送の道」として伝わっています。

② 舟戸渡し場跡
（未指定）

江戸時代の当麻街道は大和川を渡る橋がなく、渡し船が利用されていました。舟戸はかつて「船渡」と表記され、渡し船と深い関わりのなかで成立・発展した集落であると考えられます。

③ 日見橋跡
（未指定）

江戸時代の当麻街道が葛下川を渡るのに架けられていた橋で、聖徳太子墓のある叡福寺へ参拝するとき、夜明け前に法隆寺を発つと、ここで朝日を見たといいます。現在、この橋はありませんが、近くに日見橋地蔵が祀られています。

④ 飢人伝説
（未指定）

聖徳太子が飢人に姿を変えた達磨大師に出会い、助け、埋葬したものの、飢人の遺体が消えてなくなっていたという説話で、その達磨大師の埋葬地が今も本堂地下にある達磨寺3号墳と考えられ、鎌倉時代に達磨寺が開基されました。

⑤ 木造聖徳太子坐像
（重文）

達磨寺の本尊で、鎌倉時代の建治3年（1277）に院派仏師の院恵・院道によってつくられました。冠をかぶり笏を持つ摂政の姿で表現され、太子摂政像のなかでも優れた作品です。

⑥ 木造達磨坐像
（重文）

達磨寺の本尊で、室町時代の永享2年（1430）、室町幕府6代将軍・足利義教の命で椿井仏師の集慶によってつくられました。画僧の周文が彩色したとされ、眼・眉・髭・胸毛などが繊細に描き込まれています。

⑦ 聖徳太子御絵指示
（町指定）

鎌倉時代末期に橘寺長老の法空が撰述した「上宮太子拾遺記」の写本で、達磨寺に所蔵されています。「聖徳太子御絵指示」の表題から、太子の生涯や功績を流布した聖徳太子絵伝と深く関わるものと考えられます。

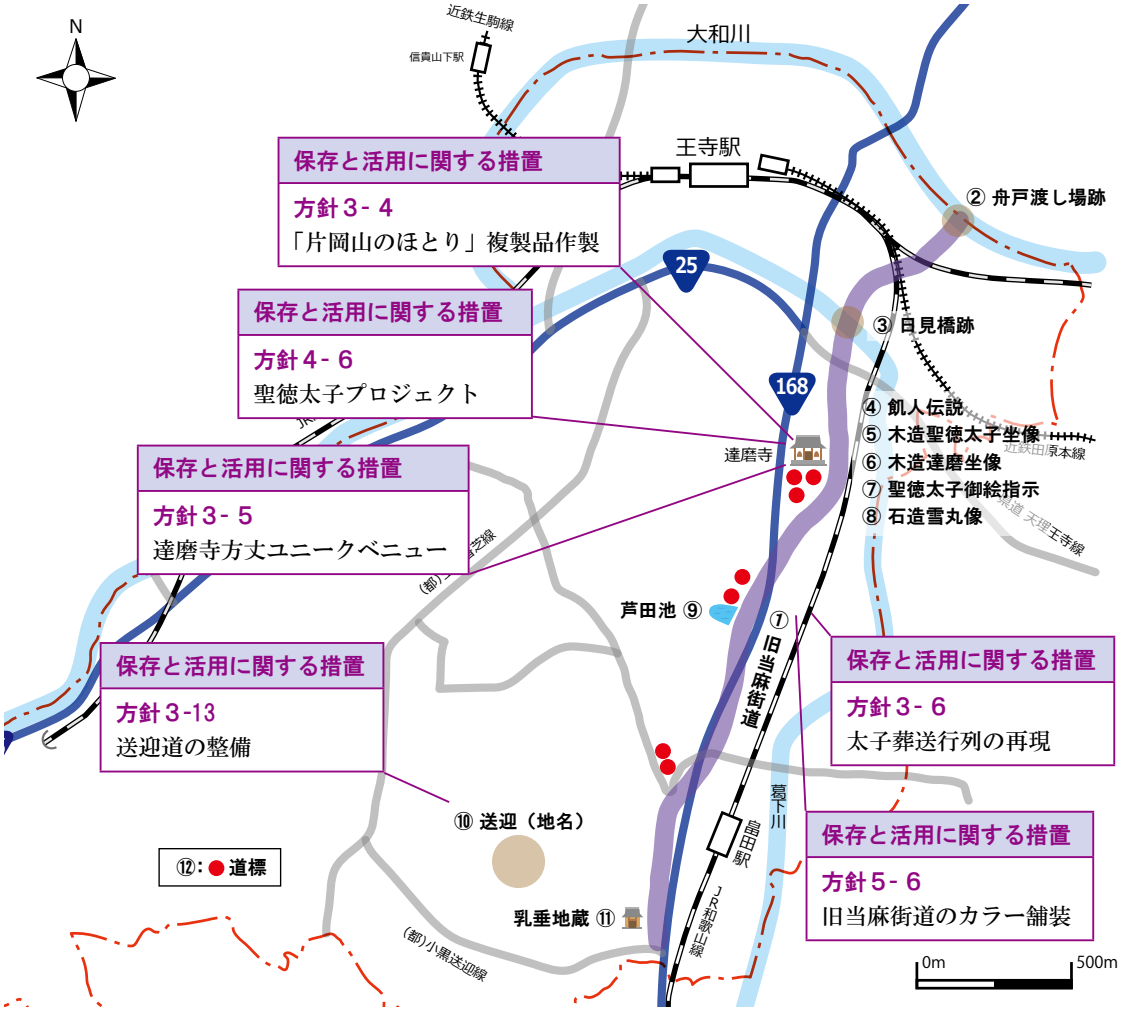
⑧ 石造雪丸像
（町指定）

達磨寺で聖徳太子の愛犬として伝承され、人の言葉を理解し、経を読み、「自分を達磨墳の艮（北東）に葬るように」と遺言して亡くなったといわれています。寛政3年（1791）に刊行された『大和名所図会』などから、雪丸像は江戸時代後期には安置されていたことがわかります。

構成文化財とその概要

⑨ 芦田池 （未指定）		明治時代の記録によれば、農民たちが池をつくろうと協議していたところ、聖徳太子の霊瑞により翌朝にはできあがっていたといい、そのために「朝池（あしたいけ）」と名づけられました。
⑩ 送迎 （未指定）		「ひるめ」と読む畠田の集落です。伝説によれば、聖徳太子が墓の視察のために斑鳩と磯長を往来する際、斑鳩からの送りの使いと磯長からの迎えの使いが落ち合う場所で、それがヒルメシドキ（昼飯時）であったために付いた地名だといわれています。
⑪ 乳垂地蔵 （未指定）		江戸時代の記録に、推古天皇が乳母の乳が少ないことを憂い、勅使でもってこの地蔵に祈願したところ、７日と経たないうちに母乳がたくさん出るようになったと記されています。推古天皇は聖徳太子の叔母にあたる人で、太子との関連がうかがえます。
⑫ 道 標 （未指定）		「太子葬送の道」と呼ばれる旧当麻街道には、今も多くの道標が残っています。この街道は、法隆寺から太子墓のある叡福寺への参拝路としても利用されたといわれ、道標は聖徳太子と王寺の人々との関わりを示す貴重な文化財といえます。

構成文化財の分布



ストーリーⅡ　大和と難波をつなぐ中継地

関連文化財群のストーリー

古来、大和川は大和と難波を結ぶ重要な交通路として利用されてきました。王寺町が位置するのは、大和川が奈良盆地のすべての川水を集めきたところで、かつ生駒・金剛山地を切り抜く亀の瀬を経て大阪へ流れ出るところです。つまり、王寺町は地理的に大和川を通じた大和の玄関口にあり、大和の都と難波の海とをつなぐ中継地としての役割を担い、集落や寺院が営まれ、江戸時代には舟運の物流拠点として栄えました。そして、明治時代になると、こうした歴史が大和川に鉄道をもたらし、王寺町が鉄道のまちとして発展します。

構成文化財とその概要

① 舟戸・西岡遺跡
（未指定）

舟戸山の丘陵上に広がる弥生時代後期の高地性集落です。舟戸山が大和川に接し、眺望も良好なことから、大和川を往来する船を監視する役目があったのではないかと考えられています。

② 舟戸山古墳
（未指定）

舟戸山の丘陵上にある盛土で、まだ確認されていませんが古墳であることが推測されています。本当に古墳であるならば、舟戸・西岡遺跡と同じく、重要な交通路である大和川と被葬者の関係が注目されます。

③ 畠田古墳
（県指定）

7世紀初頭に築かれた横穴式石室をもつ径約15mの円墳です。その立地などから風水思想に合致し、渡来系の人を被葬する古墳ではないかと考えられます。町内最大の古墳で、この地を開発した有力者が葬られている可能性があります。

④ 西安寺跡
（県指定）

大和川沿岸に数多く分布する飛鳥時代寺院のひとつで、聖徳太子創建46か寺に数えられています。発掘調査によって法隆寺五重塔と同じ程度の規模の塔跡が確認され、南向きの四天王寺式伽藍配置であったことがわかっています。

⑤ 片岡王寺跡
（未指定）

西安寺跡と同じく、大和川沿岸の飛鳥時代寺院のひとつで、聖徳太子創建46か寺に数えられています。南向きの四天王寺式伽藍配置であるとされ、発掘調査では平城宮第一次大極殿所用のものと同笵の鬼瓦が出土しています。

⑥ 久度神社
（未指定）

大和川近くにある式内社で、竈の神である久度神が祀られています。すでに奈良時代には記録に登場し、竈が朝鮮半島からもたらされたものであることから、渡来系の人々によって祀られたのが始まりであると考えられています。

⑦ 藤井問屋場跡
（未指定）

江戸時代の剣先船が遡航する最上流地点にあたる亀の瀬にあった藤井問屋は、剣先船の荷物を受け継ぐ荷継問屋で、大和川南岸にありました。剣先船から荷継ぎして、そこからは牛馬で大和の村々に輸送していました。

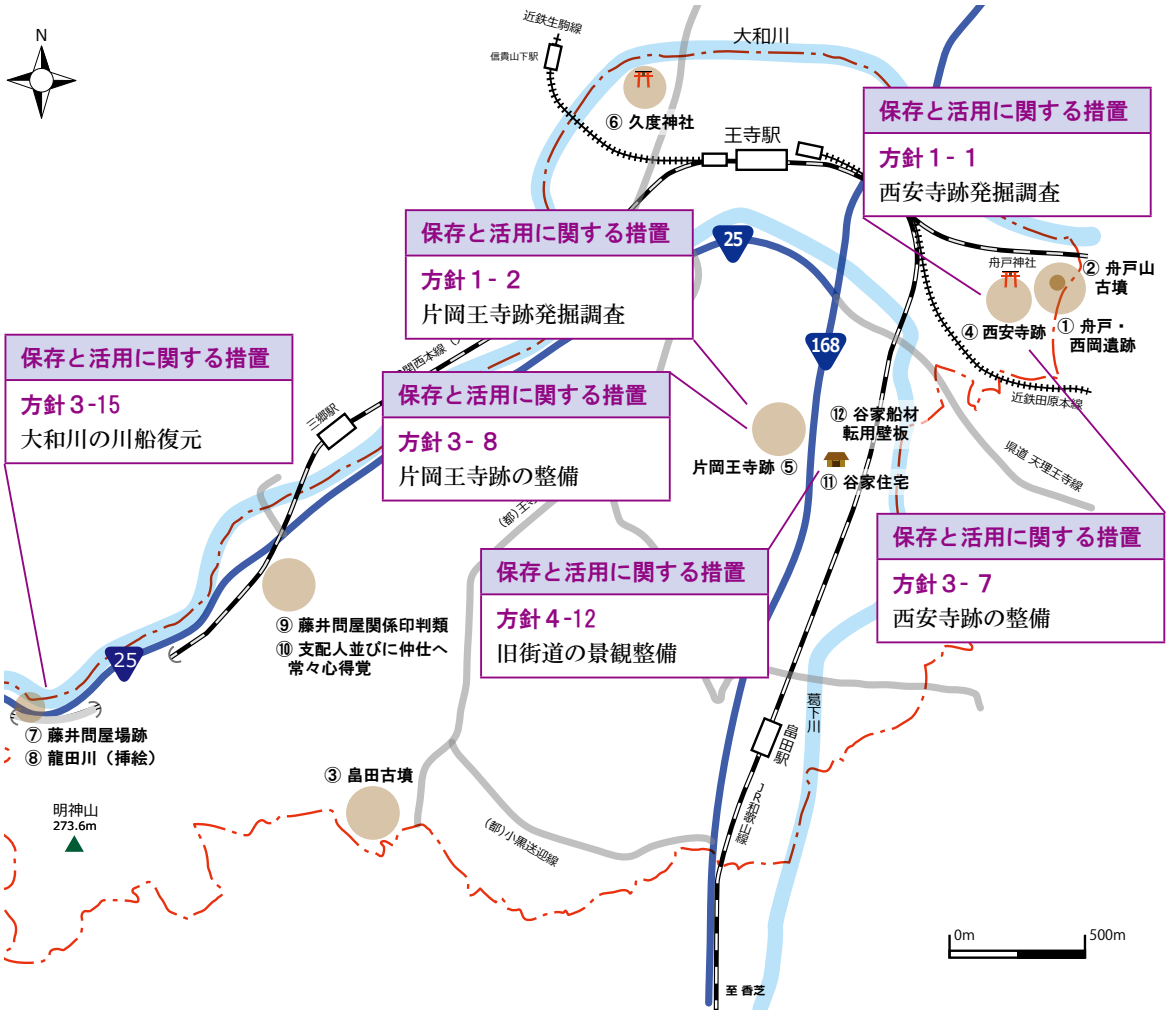
⑧ 龍田川
（『大和名所図会』挿絵）
（未指定）

寛政3年（1791）に刊行された『大和名所図会』には、当時の風景を正確に表現した挿絵があります。そのなかの「龍田川」は現在の大和川の亀の瀬付近であり、藤井問屋で働く仲仕たちが生き生きと描かれています。

構成文化財とその概要

⑨ 藤井問屋（通運会社）関係印判類 （町指定）		藤井問屋を営んでいた池内家に伝わるもので、剣先船荷物の荷継ぎ通帳や荷札に押された印判類が残されています。なかでも藤井庄兵衛が発行した銀札の版木からは、藤井問屋が経済的に大きな影響力をもっていたことがわかります。
⑩ 支配人並びに仲仕へ常々心得覚 （未指定）		池内家に残される古文書で、藤井問屋のオーナーであった池内家がそこで働く支配人や仲仕に対して、荷物の扱い方や顧客との接し方などの働き方を説諭する内容になっています。
⑪ 谷家住宅 （未指定）		江戸時代の谷家は肥屋を営み、大坂の仲買問屋から買い付けた肥料を剣先船・藤井問屋などをつうじて入手していました。幕末からは吉野林業の山林地主にもなり、文久元年（1861）に完成した現在の主屋は重厚なつくりで手広な経営を反映しています。
⑫ 谷家船材転用壁板 （未指定）		大和川舟運は、明治時代の鉄道で利用されなくなり衰退しました。江戸時代に分家した谷家には、船材を塀の壁板に転用したものが残っており、大和川の船を解体したものであるといわれています。

構成文化財の分布



ストーリーⅢ　鉄道のまち王寺

関連文化財群のストーリー

大和と難波をつなぐ中継地にあった王寺町は、明治 23 年（1890）に奈良県で初めての鉄道となる王寺・奈良間が開通し、同 25 年（1892）に湊町・奈良間が全通すると、またたく間に発展を遂げました。特に信貴山への参詣者が王寺駅を利用し、駅前に料理旅館・土産屋などができ、大正 15 年（1926）には町制が施行されて王寺町が誕生して「鉄道のまち」と呼ばれるようになります。さらには、和歌山線、大和鉄道、信貴生駒電気鉄道と王寺駅を中心とする鉄道網が形成され、現在のように大阪のベッドタウンとなっていきます。

構成文化財とその概要

① 蒸気機関車Ｄ 51（舟戸児童公園展示）
（未指定）

関西本線が電化されて蒸気機関車が引退することを受けて展示されることになり、昭和 48 年 1 月に現在地に設置されました。運転席内部も見学することができ、「鉄道のまち」を実感することができます。

② Ｄ 51 プレート・行先表示板
（未指定）

王寺町には、「鉄道のまち」を象徴するものとして、蒸気機関車「Ｄ 51」のプレートとともに「サボ」と呼ばれる列車の行先表示板が数多く所蔵されています。「サボ」によって、かつては様々な列車のあったことがわかります。

③ カルケット（レンガ積み開渠）
（未指定）

関西本線レール下をくぐる歩行者の生活道路となっていますが、元は農業水路であり、今でも明治時代に開通した当初のイギリス積みのレンガ橋台を見ることができます。

④ 葛下川修堤碑
（未指定）

明治 22 年（1889）から同 24 年（1891）に二度にわたって葛下川の河道を改修したことを記念してつくられた石碑です。特に二度目の河道改修は、和歌山線の敷設にともなって懸念された洪水対策で実施されました。

⑤ 松浦家住宅
（国登録）

鉄道隧道工事を請け負った松浦組の松浦音吉の本宅で、明治 43 年（1910）頃に建立されました。松浦組は現在のＪＲ信越本線、ＪＲ関西本線、旧ＪＲ山陰本線、旧ＪＲ中央本線、ＪＲ肥薩線など全国各地で隧道工事を行いました。

⑥ 船渡陸橋
（未指定）

近鉄田原本線が旧当麻街道を跨ぐ長さ約３ｍの鉄道橋です。高さ約５ｍに及ぶ積み石の上で列車が渡る様は迫力があり、大正７年（1918）の大和鉄道開通当初の構造物であると考えられます。

⑦ 大和鉄道線路築堤
（未指定）

大正７年（1918）に開通した大和鉄道は、すでに開通していた現ＪＲ関西本線を立体交差し、舟戸山の丘陵を越えるために、新王寺駅を発車したのちの約 800m の区間に大きな築堤がつくられ、現在もそのまま利用されています。

⑧ 北新道商店街
（未指定）

明治 25 年（1892）の湊町・奈良間の全通で、信貴山の参詣者は王寺駅から徒歩で行くようになり、その参詣道沿いにできたのが北新道商店街です。王寺駅前の商店街には、料理旅館・駕籠屋・映画館などがありました。

構成文化財とその概要

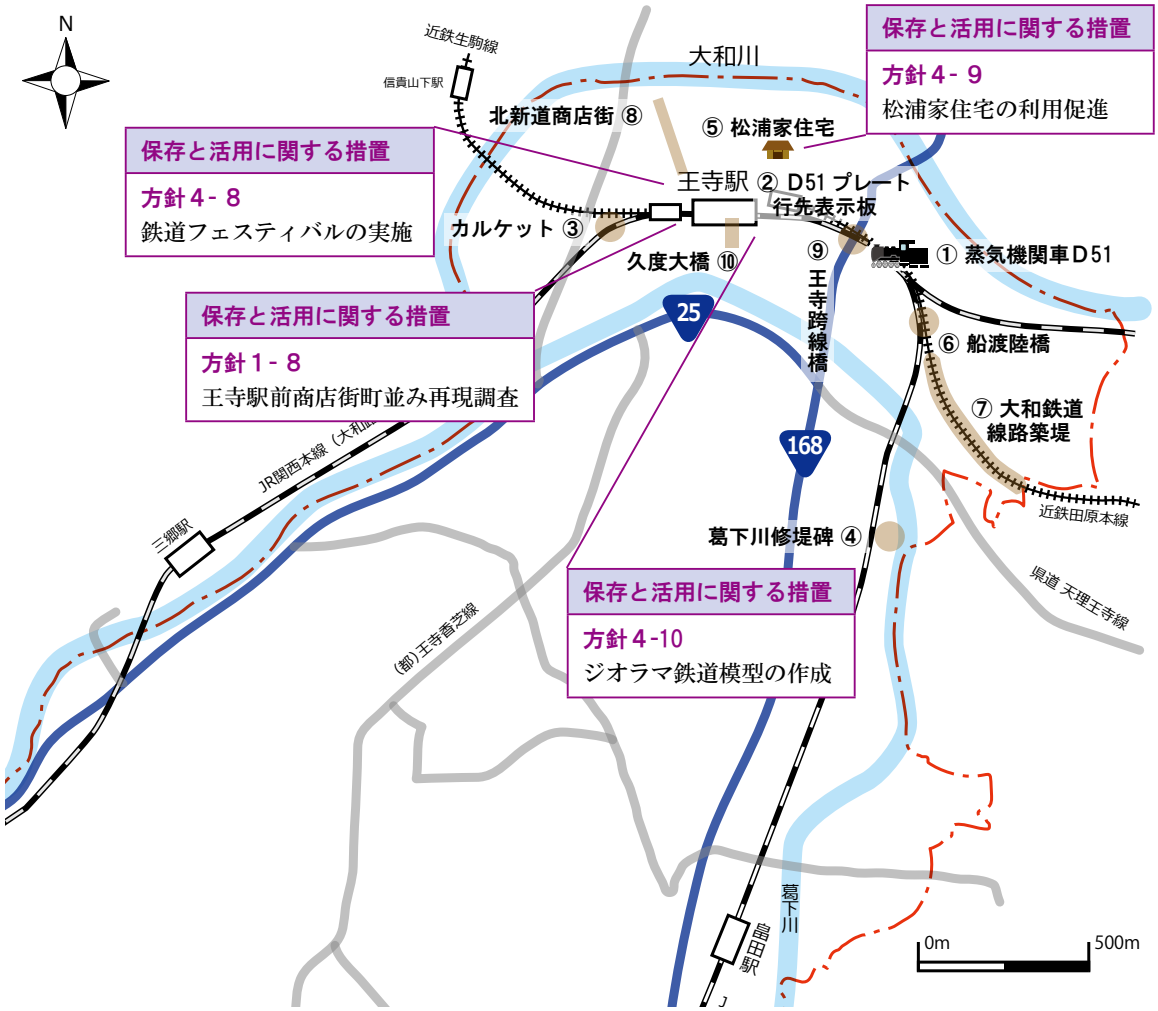
⑨ 王寺跨線橋
（未指定）

国道 25 号・168 号がＪＲ・近鉄の線路を跨ぐ橋として、昭和 18 年（1943）に架けられました。それまではそこに踏切が設置されていましたが、王寺駅には留置線が多く、「開かずの踏切」で不便だったといわれています。

⑩ 久度大橋
（未指定）

昭和 49 年（1974）に架けられた駅南口と当時北口にあった王寺駅舎をつなぐ歩道橋です。昭和 30 年代後半から駅の南側で多くの住宅地が開発され、利用者の便を図るために つくられました。

構成文化財の分布



ストーリーⅣ　受け継がれるご先祖様の祈り

関連文化財群のストーリー

大阪のベッドタウンとして発展してきた王寺町にも江戸時代以来、人々が生活した集落があり、農業を中心にして雨乞いや絵馬の奉納、庚申・伊勢といった様々な講、各神社での秋祭りと太鼓台の引き出し、稚児行列も行われる達磨会式などの伝統的な生活習慣が伝えられてきました。ただし、こうした民俗的な生活習慣はかたちを変えやすく、日々の暮らしが農業と切り離れてしまうことで、簡略化されてきたことも事実です。日々の暮らしの中に古い生活習慣があることを再認識し、私たちのご先祖様の思いを受け継ぐことが大切です。

構成文化財とその概要

① 火幡神社絵馬殿絵馬
（未指定）

葛城山麓の地域には、子どもが生まれると絵馬を奉納する風習があり、王寺町の各神社にも多くの絵馬が掲げられています。なかでも特に多く残されているのが火幡神社で、江戸時代から現在に至る 500 点以上の絵馬があります。

② 片岡神社雨乞大絵馬
（未指定）

縦約 90cm、横約 180cm の大きな絵馬 4 点は、王寺村の雨乞いにともなって奉納されたものです。そのうちの 2 点一対は、安永 7 年（1778）に片岡神社に雨乞いを願い、成就したために奉納されました。

③ ナモデ踊り
（未指定）

ナモデ踊りは奈良盆地各地に伝わる雨乞成就の踊りで、太鼓や鼓・鉦を打ち鳴らしながら踊ります。王寺町では、大正時代に畠田で踊られたのが最後ですが、近年はナモデ踊りを再興したグループによって伝えられています。

④ 送迎太神宮遺品
（未指定）

文政のおかげ参りにともなって明神山山頂に建てられた送迎太神宮は、わずか 1 年ほどで取り壊されました。その遺品となる石灯籠が火幡神社に、石鳥居・道標が白山姫神社に残されています。

⑤ 太鼓台
（未指定）

久度・舟戸・片岡の各社で秋祭りの際に氏子らによって太鼓台が引き出されます。また、畠田の太鼓台は、旧来からの集落である山上・小黒・送迎の 3 台が火幡・白山姫・水神社分社を巡行し、地区内を練り回ります。

⑥ 片岡神社宮座
（未指定）

片岡神社の宮座は大峯の集落にあり、この宮座が神社の秋祭りを執行します。「大峯五人衆」と呼ばれる長老者の集団が「神酒定め」を行い、秋祭りを取り仕切るマツリドウヤを任命します。

⑦ 達磨会式
（未指定）

明治時代の梵鐘鋳造を契機に始められたと考えられる達磨寺の会式で、毎年、聖徳太子の忌日にあたる 4 月 11 日に行われていました。現在は、毎年 4 月第 2 土曜に変更されており、稚児行列や大般若経転読などが行われています。

⑧ 井戸がえ
（未指定）

井戸地区の共同井戸の底には高さ約 40cm の地蔵が安置され、毎年地蔵の縁日のときに水を抜いて地蔵の向きが変えられます。これは大正 2 年（1913）以来、地区で流行した伝染病から守ってほしいとの思いで続けられています。

構成文化財とその概要

⑨ 地蔵盆
（未指定）

旧暦の７月 24 日に合わせて町内各地の地蔵で行われています。子どもの守り神として信仰されることから、お供えが子どもたちに配られたり、子どもたちも参加して数珠繰りが行われるところもあります。

⑩ 八朔
（未指定）

毎年９月１日に明神山山頂の水神社で行われるお祭りで、八月朔日に田の実りを祝って新米を贈答する風習に基づいています。かつては明神山へ酒・コンニャクなどを持って登り、お祭りのあとに広場で会食していました。

⑪ トンド
（未指定）

１月 14 日または 15 日に行われ、竹や藁で櫓を組んで火を付け、注連縄などの正月飾りを燃やします。トンドの火で餅を焼いて食べると歯痛が起こらないとか、書き初めをトンドに入れて高く舞い上がると字がうまくなるなどいわれました。

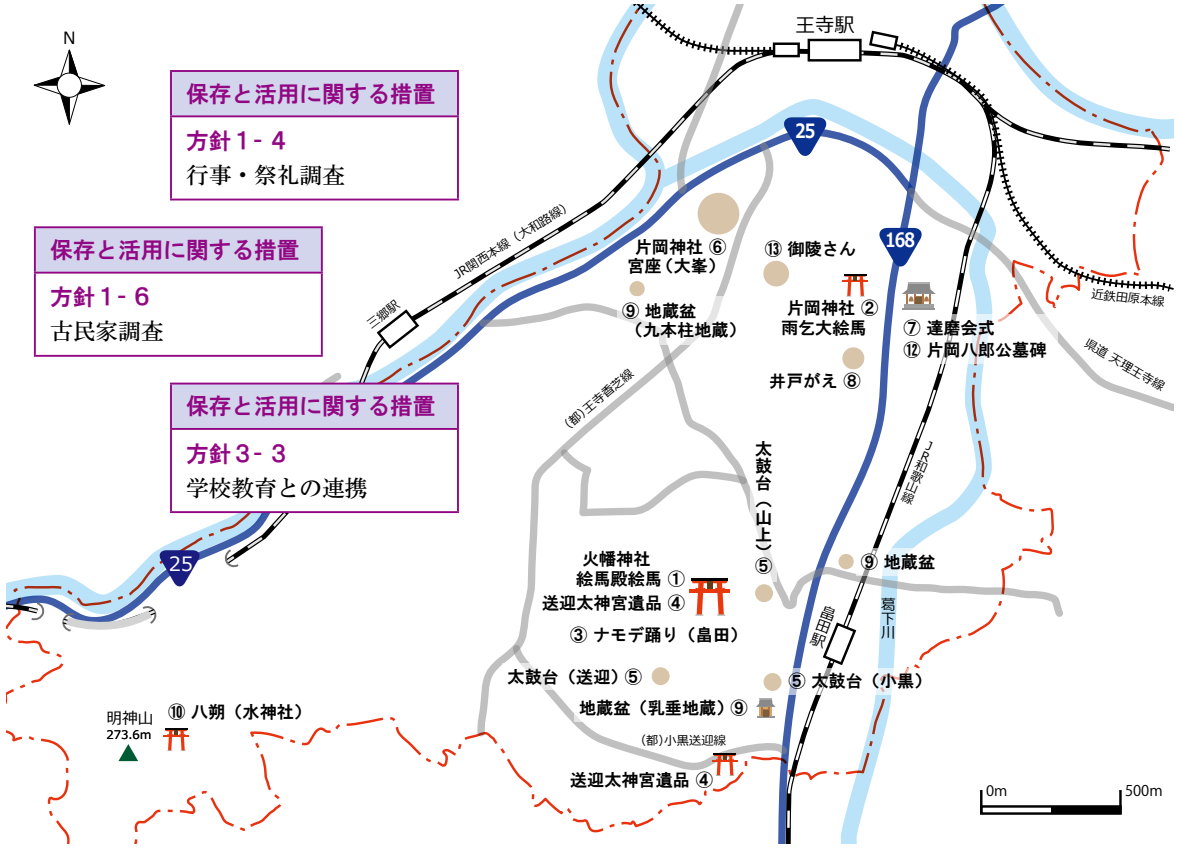
⑫ 片岡八郎公墓碑
（未指定）

片岡八郎利一は、鎌倉時代末期に大塔宮護良親王に従い、親王に命の危険を知らせるために自ら犠牲になって戦死した人で、大正４年（1915）に正五位が贈られました。戦国武士の片岡氏の先祖であり、達磨寺に墓石と皇紀 2600 年のときに建てられた顕彰碑があります。

⑬ 御陵さん（孝霊天皇陵）
（未指定）

第７代の孝霊天皇は黒田（田原本町）に宮を構え、片丘馬坂陵に葬られました。江戸時代に「片丘」「馬坂」の地名などから現在地が孝霊天皇陵にあたるとされ、以来、王寺では「御陵さん」と呼ばれて大切に伝えられています。

構成文化財の分布



ストーリーⅤ　明神山からの歴史眺望

関連文化財群のストーリー

明神山は標高 273.6 mと低い山ながら 360 度のパノラマが楽しめる場所です。同時に飛鳥時代に開かれた修験の道や江戸時代の送迎太神宮、現代の水神社など信仰を集める山でもあります。送迎太神宮の絵図には山頂で景色を楽しむ人の姿が描かれ、すでに江戸時代から眺望に優れる山として知られていたことがわかります。歴史ある大和と大阪の海を見渡せることから、古くは卑弥呼の墓といわれる箸墓古墳から新しくはあべのハルカスまで、1800 年の時の流れを歴史絵巻のように楽しむことができる場所で、その場所と眺望にこれまでの文化財の類型におさまらない新たな文化財としての価値を見出すことができます。

構成文化財とその概要

① 送迎太神宮跡 （未指定）		文政 13 年（1830）のおかげ参りにともない、明神山山頂に建立されたのが送迎太神宮です。伊勢神宮の別宮として多くの参詣者がありましたが、「ニセの皇太神宮」であるといわれ、わずか 1 年足らずで取り壊されました。
② 葛城 28 宿 普賢菩薩勧発品 （未指定）		修験道の開祖とされる役行者によって開かれたといわれ、葛城の山々を修行して回ります。和歌山の友が島に始まり、法華経 28 品が埋納された経塚の終結地が明神山であるとされています。
③ 送迎山城跡 （未指定）		明神山山頂の南、王寺町から香芝市にかけて広がる戦国時代の山城跡で、松永久秀が片岡城の片岡氏を攻める際に使用したのではないかと考えられています。明神山山頂からは信貴山城、片岡城をはじめ、戦国時代に関わる遺構が眺望できます。
④ 大和川の眺望		大和川は大和と難波を結ぶ交通路として利用されてきました。明神山からは、大和川が奈良盆地の川水を集め、1 本の川となって亀の瀬の渓谷を抜け、大阪へと流れ出る様子がよく理解できます。
⑤ 亀の瀬の眺望		奈良県と大阪府の境に位置し、大和川が生駒・金剛山地を切り抜く亀の瀬では、昭和 7 年（1932）に大規模な地すべりが発生しました。明神山からはここで地すべりが再発すると、奈良・大阪の双方に危険なことがよく理解できます。
⑥ 古墳群の眺望		明神山からは、オオヤマト古墳群や百舌鳥・古市古墳群、馬見古墳群が見渡せ、ヤマト政権が大和川流域に沿って移動したことや、豪族たちが墓域にした地形がよく理解できます。
⑦ 世界遺産の眺望		明神山からは、「法隆寺地域の仏教建造物群」「古都奈良の文化財」「紀伊山地の霊場と参詣道」「古都京都の文化財」の 4 つの世界遺産が見渡せ、法隆寺・薬師寺・興福寺の塔を一直線に見ることができます。
⑧ 青垣四方の眺望		明神山からは、生駒山・二上山・葛城山・金剛山をはじめ、若草山や龍王山など奈良盆地を囲う山々が見えるほか、遠くは大峯山系や比叡山なども見渡せ、歴史とリンクした地理がよく理解できます。
⑨ 明石海峡・淡路島の眺望		海のない奈良県からでも大阪湾をはっきりと望むことができます。明石海峡や淡路島もよく見渡すことができ、飛鳥時代の唐・新羅連合侵攻対策など、軍事的にも利用価値のある場所であることがよく理解できます。

明神山からの眺望イメージ

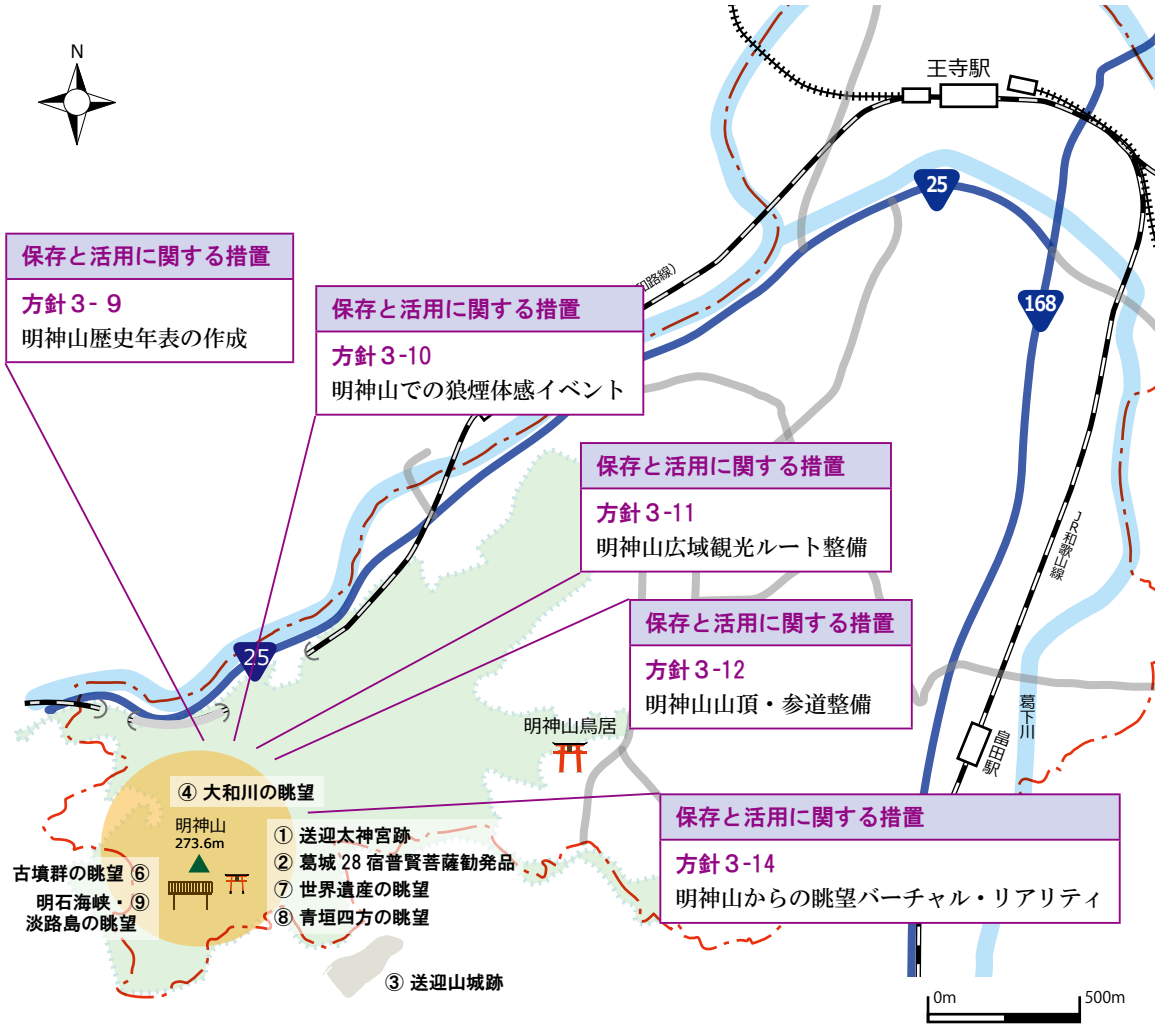
東

西

南

北

構成文化財の分布



第６章　文化財によるまちづくりのための事業計画

６－１．保存と活用に関する措置

（１）保存と活用に関する措置

第５章の方針に従い、王寺町が文化財の保存・活用に関して文化庁の各種補助金（文化財補助金・文化財保存活用地域計画等を活用した観光拠点づくり事業ほか）や地方創生推進交付金などを財源として実施する事業内容及び実施計画期間は次のとおりです。

なお、表に示した取組主体のうち、住民とは王寺町民及び王寺町の文化財の保存・活用に関心を寄せる人、地域とは自治会や檀家・氏子、消防団、商工会・観光協会、ボランティアガイドなどの団体、行政とは王寺町を指し、◎は中心になって取り組む、○は協力して取り組む、△は取組みに参画しないが協力体制を整えておくことを意味します。

方針１　文化財を掘り起こす

〈ストーリーとの関連〉
Ⅰ聖徳太子　Ⅱ中継点　Ⅲ鉄道　Ⅳ祈り　Ⅴ明神山

No.	事業名 事業内容	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	前期（2019-21年）	中期（2022-25年）	後期（2026-28年）
1	**西安寺跡発掘調査** 飛鳥時代創建の西安寺跡を発掘調査し、寺院の全容を解明します。	Ⅰ Ⅱ	△	○	◎	←		
2	**片岡王寺跡発掘調査** 飛鳥時代創建で、町名の由来にもなっている片岡王寺跡を発掘調査し、寺院の全容を解明します。	Ⅰ Ⅱ	△	○	◎		←	→
3	**記念物（自然・景観）調査** 王寺町の植物・動物・魚・昆虫や庭園・山岳、景観などを調査し、保存すべきものを把握します。	―	△	○	◎	←	―	→
4	**行事・祭礼調査** 社寺・地区で行われている伝統的生活習慣や祭礼などを調査し、現在も行われているもの、失われたものを把握します。	Ⅳ	○	○	◎	←	―	→
5	**古文書所在調査** 調査を終えて所有者で保管されている古文書の所在調査を改めて実施し、散逸を防ぎます。	―	○	○	◎	←	→	

No.	事業名 事業内容	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	前期（2019-21年）	中期（2022-25年）	後期（2026-28年）
6	**古民家調査** 古民家を調査し、長く保存すべきものを把握します。	Ⅳ	○	○	◎		⟷	⟷
7	**古文書調査** リスト作成・写真撮影ができていない古文書を調査します。	―	○	○	◎	⟷	⟷	⟷
8	**王寺駅前商店街町並み再現調査** 往時の駅前商店街を再現できるように町並みの古写真調査や聞取り調査を行います。	Ⅲ	◎	○	○		⟷	⟷
9	**文化財のデータベースづくり** 調査した文化財のデータベースをつくり、情報を一元化します。	―	△	△	◎	⟷	⟷	⟷

方針２　文化財を守る

〈ストーリーとの関連〉
Ⅰ聖徳太子　Ⅱ中継点　Ⅲ鉄道　Ⅳ祈り　Ⅴ明神山

No.	事業名 事業内容	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	前期（2019-21年）	中期（2022-25年）	後期（2026-28年）
1	**文化財の指定・登録** 様々な調査でその価値が明らかになったものについて、法令に基づいて国・県・町指定や登録物件を増加させ、その保存と活用を図ります。	―	○	○	◎	⟷	⟷	⟷
2	**明神山の文化財指定** 明神山からの眺望は様々な歴史を俯瞰することができる文化財といえます。その価値は、これまでの文化財の類型にはおさまらないものであり、眺望環境が壊されることのないよう文化財としての価値付けを見出し、指定制度などによって保全を図ります。	Ⅴ	○	○	◎	⟷	⟷	
3	**達磨寺方丈保存修理工事** 奈良県指定文化財の達磨寺方丈が傾斜し、地震による倒壊の恐れがあるため、奈良県教育委員会と協力して保存修理工事を進めます。	―	○	○	◎	⟷		

No.	事業名 事業内容	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	前期（2019-21年）	中期（2022-25年）	後期（2026-28年）
4	**保存修理体制の構築** 文化財の保存修理を適切な時期に、適正に、行政と住民が一体となって行えるように、問題意識を共有してその財源や用材、人材を確保する体制を整えます。	—	◎	○	◎	←	—	→
5	**町文化財保護指導委員の設置** 王寺町としてきめ細やかに文化財を保護できるように、文化財保護法第191条に基づき町で文化財保護指導委員を置き、巡視を強化します。	—	◎	○	◎	←	—	→
6	**防火訓練の実施** 万一の火災に備えて迅速に対応できるように、消防署・消防団、行政、文化財所有者、地域住民らによる防火訓練を実施します。	—	○	◎	○	←	—	→
7	**防犯設備の整備** 仏像などの美術品が盗難被害に遭わないよう監視カメラなどの設置を進めます。	—	◎	○	○		←	→
8	**防犯体制の構築** 監視カメラの設置などとともに文化財防犯のための地域組織を立ち上げるなど体制を構築します。	—	○	◎	○		←	→
9	**防災体制の構築** 地震・水害・火災の際にいつ、だれが、どの文化財をどこに避難させるのか。そのマニュアルづくりを行います。	—	○	○	◎		←	→
10	**文化財見守り活動の実施** 地域の文化財を地域で守っていけるよう見守り活動ができる人材を養成し、防犯体制の構築につなげます。	—	◎	○	○		←	→

方針３　文化財の特徴をみがく

〈ストーリーとの関連〉
Ⅰ聖徳太子　Ⅱ中継点　Ⅲ鉄道　Ⅳ祈り　Ⅴ明神山

No.	事業名 事業内容	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	前期（2019-21年）	中期（2022-25年）	後期（2026-28年）
1	**歴史講座の実施** 地域住民が文化財の魅力を理解できるように講演会や古文書の解読体験、史跡散策など様々な講座を実施します。	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ	○	○	◎	←	―	→
2	**文化財プロモーション** 王寺町の魅力を日本全国に発信するため、首都圏でシンポジウムを開催するなどプロモーション活動を行います。	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅴ	△	△	◎	←	→	
3	**学校教育との連携** 児童・生徒が文化財に魅力を感じ、地域に対する愛着・誇りや、無形民俗文化財など文化財の継承につなげられるように、出前授業を行うなどして学校教育と連携します。	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ	○	○	◎	←	―	→
4	**「片岡山のほとり」複製品作製** 聖徳太子と達磨大師の出会いを描いた橋本関雪の作品の複製品を作製し、その舞台である達磨寺で展示します。	Ⅰ	△	△	◎	←	→	
5	**達磨寺方丈ユニークベニュー** 達磨寺方丈の保存修理工事竣工後、方丈を会場にコンサートやイベントを開催して文化財の魅力を発信します。	Ⅰ	○	○	◎	←	―	→
6	**太子葬送行列の再現** 聖徳太子ゆかりの町の魅力を発信するため、旧街道の景観整備や旧当麻街道のカラー舗装の事業と関連させながら、太子葬送の行列を再現する「Ｌｉｖｉｎｇ　Ｈｉｓｔｏｒｙ（生きた歴史体感プログラム）」を行います。	Ⅰ	○	○	◎		←	→
7	**西安寺跡の整備** 発掘調査で明らかになった西安寺跡について、史跡整備を行って公園化し、その魅力を伝えられるようにします。	Ⅰ Ⅱ	○	○	◎		←	→
8	**片岡王寺跡の整備** 発掘調査で明らかになった片岡王寺跡について、史跡整備を行い、町名の由来にもなった重要な寺院であったことを伝えられるようにします。	Ⅰ Ⅱ	○	○	◎		←	→

No.	事業名 事業内容	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	前期（2019-21年）	中期（2022-25年）	後期（2026-28年）
9	**明神山歴史年表の作成** 明神山から眺望できる 1800 年の時の流れが理解できるよう歴史年表を作成します。	V	△	△	◎	←		
10	**明神山での狼煙体感イベント** その眺望の良さから飛鳥時代以来、狼煙などによって大阪・奈良間の連絡を担っていたと考えられる明神山で、実際に狼煙をあげて連絡する体感イベントを行います。	V	○	○	◎	←	→	
11	**明神山広域観光ルート整備** 他地域の文化財も含めて明神山に至る多様なルートを設定し、広域的に散策が楽しめるよう整備します。	V	△	△	◎	←	→	
12	**明神山山頂・参道整備** 多くの人がユニバーサルに眺望できるよう展望デッキを増築し、山頂付近まで車両で登るルートが整備できないか検討します。	V	○	○	◎	←	→	
13	**送迎道の整備** 河内と大和を結ぶ街道であり、聖徳太子が往来したと伝承され、現在は廃れている送迎道を整備します。	I V	○	○	◎		←	→
14	**明神山からの眺望** **バーチャル・リアリティー** 明神山からの眺望を様々な時代設定で楽しめるようなバーチャル・リアリティーを作成します。	V	○	○	◎		←	→
15	**大和川の川船復元** 今ではとても想像がつかない大和川の川船について、和船を復元し、大和川で遡航実験を行います。	II	○	○	◎			← →

方針４　文化財を生かした交流

〈ストーリーとの関連〉
Ⅰ聖徳太子　Ⅱ中継点　Ⅲ鉄道　Ⅳ祈り　Ⅴ明神山

No.	事業名 事業内容	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	前期（2019-21年）	中期（2022-25年）	後期（2026-28年）
1	**住民への地域計画の周知** 「文化財による王寺町のまちづくりシンポジウム」の開催などを通して住民に地域計画を周知します。	—	○	○	◎	←→		
2	**協議会の設立** 町ぐるみで王寺町の魅力を発信し、観光を促進して地域の活性化が図れるよう民間事業者と連携して協議会を設立し、地域計画等を生かした観光拠点づくり事業などを実施します。	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ	○	◎	◎	←→		
3	**住民が参加できるシステムづくり** 文化財によるまちづくりを実現するため、住民と地域団体・行政が交流し、住民が主体的に活動できるサークルを設立するなどのシステムづくりを行います。	—	◎	◎	◎	←→	←→	
4	**観光協会との連携** 王寺町観光協会と連携・共同し、文化財の魅力を観光に生かして地域活性化を図ります。	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅴ	○	◎	○	←→	←→	←→
5	**観光ボランティアガイドの育成** 王寺町の魅力を多くの人に伝え、地域内外の住民が交流できるよう「王寺観光ボランティアガイドの会」のガイドを育成します。	—	◎	◎	◎	←→	←→	←→
6	**聖徳太子プロジェクト** 2021 年の聖徳太子 1400 年御遠忌に向けて奈良県が主導する推進協議会に協力し、地域横断的ににぎわいの創出や交流人口の増加につなげます。	Ⅰ	△	○	◎	←→		
7	**雪丸グッズの充実** 王寺町の魅力を世界に発信し、地域が活性化するよう聖徳太子の愛犬・雪丸のグッズを充実させ、販売を促進します。	Ⅰ	○	◎	○	←→	←→	←→
8	**鉄道フェスティバルの実施** 「鉄道のまち」をアピールするため、住民が主体となって鉄道模型を走らせるなどのイベントを実施します。	Ⅲ	◎	◎	○	←→		

No.	事業名 事業内容	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	前期 (2019-21年)	中期 (2022-25年)	後期 (2026-28年)
9	**松浦家住宅の利用促進** 鉄道隧道工事を請け負った松浦組のことを史料展示などで発信し、宿泊施設となっている松浦家住宅の利用を促進させ、地域活性化を図ります。	Ⅲ	◎	○	◎	←	―	→
10	**ジオラマ鉄道模型の作成** 住民が主体となって王寺駅構内・駅前商店街のかつての町並みをジオラマで再現し、鉄道模型を走らせて交流や活性化を図ります。	Ⅲ	○	◎	○		←	→
11	**雨乞い満願祭礼の再現** ナモデ踊りや絵馬の奉納など、かつて雨乞いが成就したときに行われていた祭礼の再現イベントを実施し、かつての人々の思いを追体験して地域の愛着・誇りにつなげます。	Ⅳ	○	◎	○		←	→
12	**旧街道の景観整備** 旧当麻街道を中心に、住民が地域に愛着・誇りを持てるよう景観を保全するとともに、修景整備を検討します。	Ⅰ Ⅱ	○	◎	○			↔

方針５　文化財の拠点づくり

〈ストーリーとの関連〉
Ⅰ聖徳太子　Ⅱ中継点　Ⅲ鉄道　Ⅳ祈り　Ⅴ明神山

No.	事業名 事業内容	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	前期 (2019-21年)	中期 (2022-25年)	後期 (2026-28年)
1	**文化財業務の移管** 文化財を主管する係を教育委員会から首長部局に移管し、総務・観光・建設の各部局と連携して文化財の保存と活用を行いやすくします。	―	△	△	◎	↔		
2	**周遊ルートの設定** ５つの関連文化財群を効率的にめぐり、王寺町の魅力に触れ、学ぶことができる周遊ルートを設定します。	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ	○	○	◎	←	―	→
3	**周遊パンフレット・マップの作成** 設定した周遊ルートをユニバーサルにめぐることができるように、パンフレット・マップを作成します。	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ	○	○	◎	←	―	→

No.	事業名 事業内容	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	前期（2019-21年）	中期（2022-25年）	後期（2026-28年）
4	**説明板・サイン表示の整備** 王寺町を訪れた人が町の魅力に気づき、気軽に周遊できるように、町内各地に文化財の説明板や、そこに至るルートのサイン表示板などを整備します。なお、その際には多言語表記で行います。	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ	○	○	◎	←	―	→
5	**周遊アプリの開発** 子どもでも町内を周遊し、町の魅力に触れ、学んでもらえるようゲーム感覚で楽しめる周遊アプリを開発します。	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ	○	○	◎		←	→
6	**旧当麻街道のカラー舗装** どの道が旧当麻街道にあたるのかを明示して周遊しやすくするため、該当する道路をカラー舗装し、修景整備にも役立てます。	Ⅰ	○	○	◎		←	→
7	**旅行商品の企画** 地域の魅力を楽しんでもらえるような旅行商品を広域で企画し、実現して地域活性化を図ることで、文化財の拠点づくりにつなげます。	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ	○	◎	◎		←	→
8	**博物館の整備** 文化財を保存・活用するための拠点施設を整備します。その際、文化財を保存・展示することに加えて、人の交流を生み、地域の活性化を図ることができる総合博物館の整備を目指します。	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ	◎	◎	◎		←	→

（２）文化財によるまちづくりの未来像

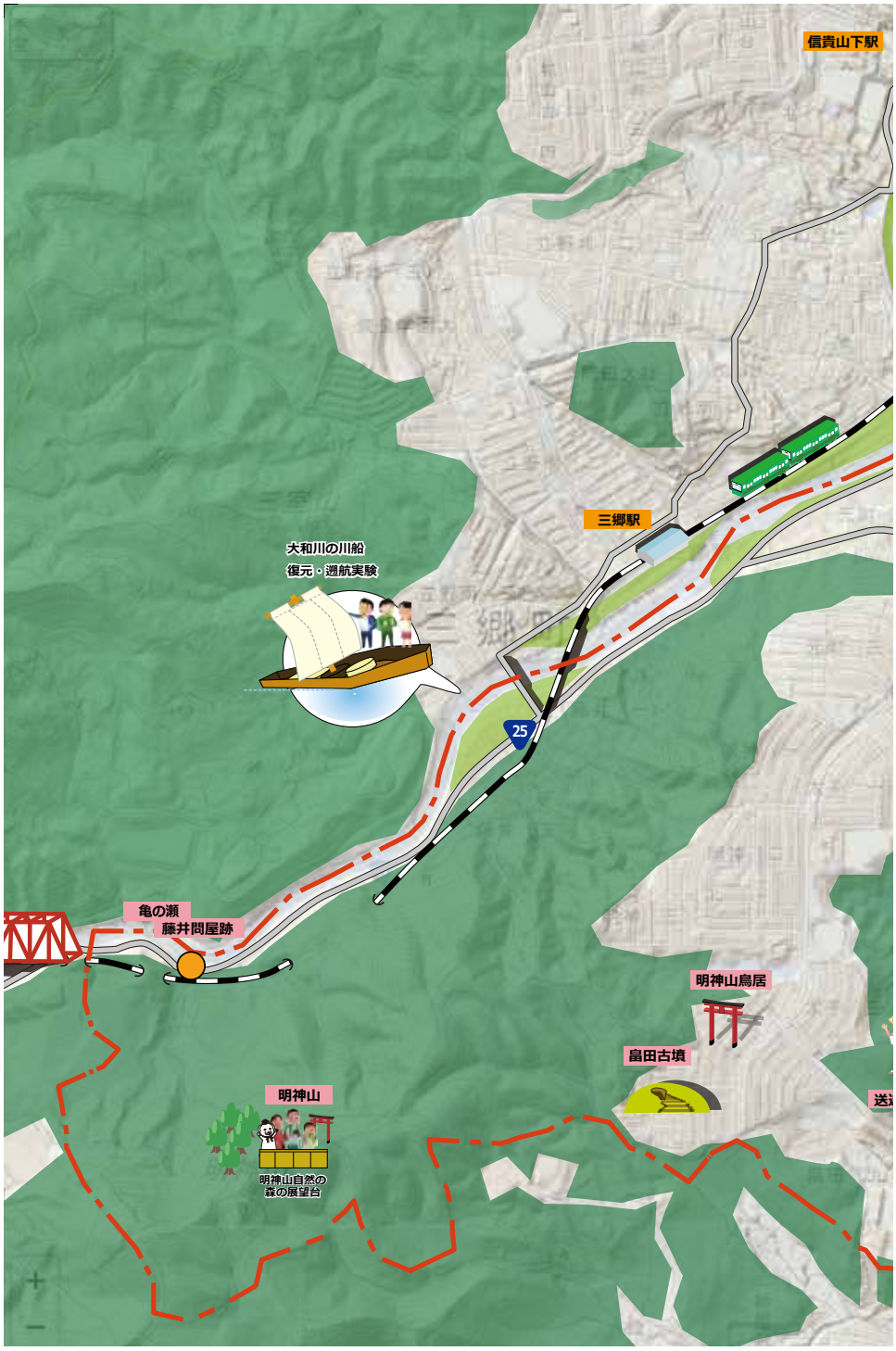
以上の措置の実施を進め、文化財による王寺町のまちづくりが実現した未来像を示すと次のイラストのようになります。

文化財を保存し、活用することで人々の交流が生まれ、地域に愛着と誇りを持ち、地域が活性

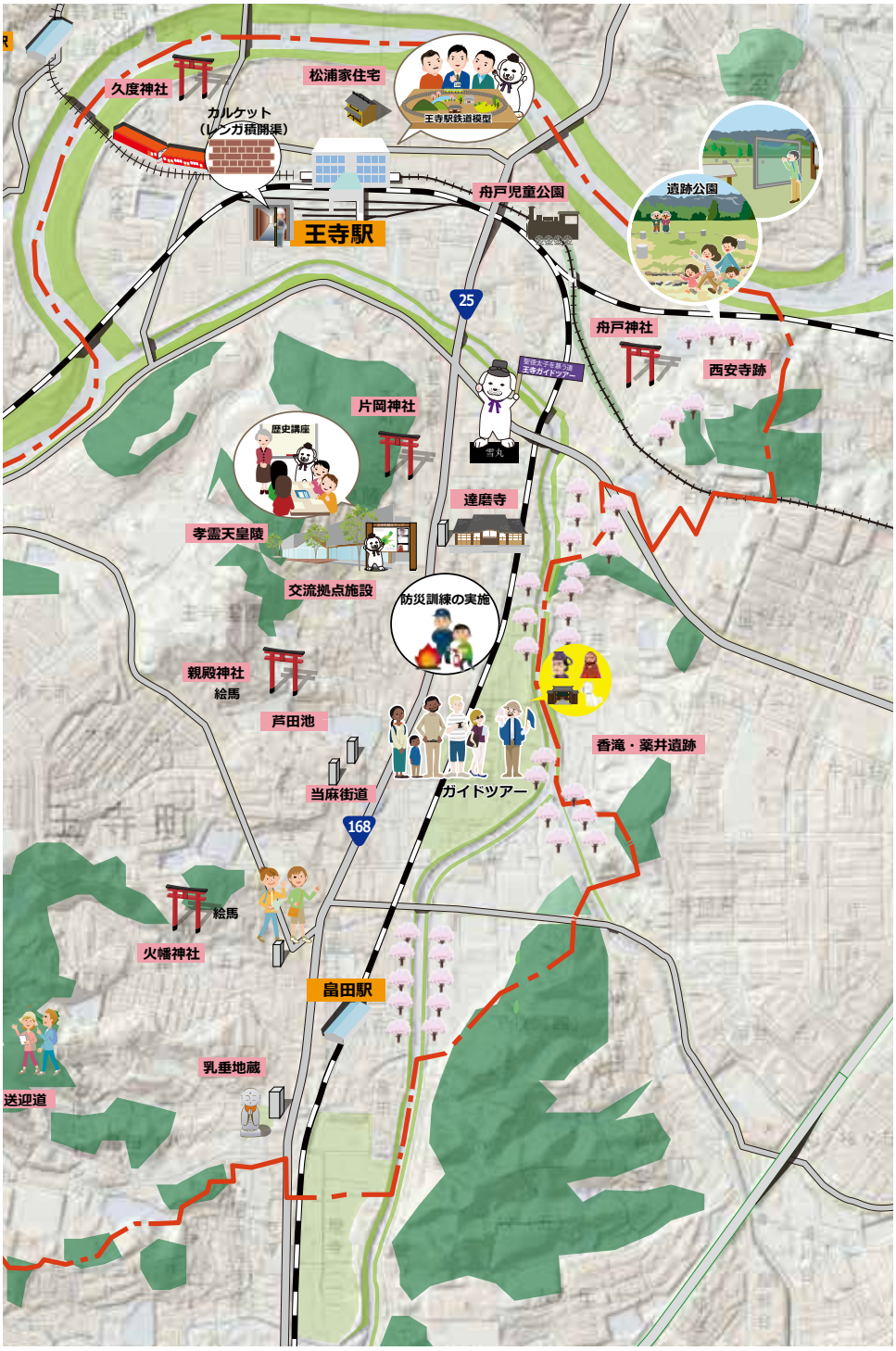
雨乞い満願祭礼の再現

周遊アプリの開発

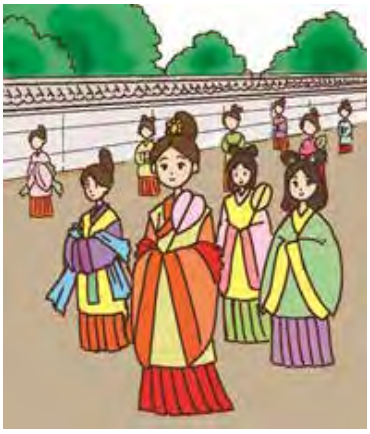
明神山からの眺望
バーチャル・リアリティー



化して人々が主体的に文化財を保存するようになり、さらに文化財の活用を図っていく。そんな町を目指して取組みを進めます。



（出典）国土地理院標準図を加工



旧街道の景観整備
歴史イベント

文化財見守り活動

説明板・サイン表示の整備

6－2．保存と活用の推進体制

文化財の保存と活用を推進するための王寺町の体制は、次のとおりです。今後は、複数の分野にわたる専門職員を確保するなど、体制を充実させる必要があります。また、文化財保護法第191条に基づく町の文化財保護指導委員の設置や、文化財の保存と活用を担うことのできる民間団体の確立などを検討する必要があります。さらには、文化財保護法第183条の9に基づいて認定文化財保存活用地域計画の変更や実施に係る連絡調整を行うための協議会を設置し、地域計画を推進していきます。

王寺町

王寺町地域整備部　地域交流課　文化資源活用係
- 業務内容：文化財の活用に関する事業
- 職　　員：1名（うち歴史資料の専門正規職員1名、生涯学習課において文化財保存業務を兼務）

王寺町教育委員会事務局　生涯学習課　社会教育係
- 業務内容：文化財の保存に関する事業
- 職　　員：4名（うち歴史資料の専門正規職員1名、埋蔵文化財を専門とする臨時職員2名　他）

王寺町地域整備部　地域交流課　観光振興係
- 業務内容：観光の振興・商工業の活性化・王寺町観光協会・雪丸実行委員会に関する事業
- 職　　員：5名

その他文化財の保存と活用の推進に関係する部署
- 総務部　政策推進課
  地域整備部　都市計画課・まちづくり推進課
  王寺町教育委員会事務局　生涯学習課・学校教育課・文化交流課

王寺町文化財保護審議会

- 審議事項：文化財の保存及び活用に関する重要事項
- 委　　員：会　長　菅谷文則（考古・奈良県立橿原考古学研究所所長）
  副会長　鹿谷　勲（民俗・奈良民俗文化研究所代表）
  幡鎌一弘（歴史・天理大学文学部教授）
  石川慎治（建築・滋賀県立大学人間文化学部准教授）
  神田雅章（美術・龍谷大学文学部教授）
  平岡秀隆（行政・王寺町副町長）

奈良県文化財保護指導委員

- 取組内容：文化財等の保存管理に関する巡視、文化財の保存管理に関する指導・助言、
  文化財保護思想についての普及活動
- 委　　員：日野輝彦（王寺・上牧地区、平成28年～）

西安寺跡史跡整備活用委員会

・取組内容：西安寺跡の調査及び整備に関する指導・助言
・委　　員：委員長　菅谷文則（奈良県立橿原考古学研究所所長）
副委員長　大脇　潔（奈良文化財研究所名誉研究員・元近畿大学教授）
山岸常人（京都大学名誉教授）
東野治之（奈良大学名誉教授・大阪大学名誉教授）
仲　隆裕（京都造形芸術大学芸術学部教授）
坂　靖　（奈良県教育委員会事務局文化財保存課主幹兼課長補佐）
中川忠儀（舟戸自治会会長・舟戸神社氏子惣代）

王寺町文化財保存活用地域計画協議会

・取組内容：認定文化財保存活用地域計画の変更及び実施に係る連絡調整
・委　　員：８人以内（平成 31 年度設立予定）
⑴ 町の職員
⑵ 県の職員
⑶ 町長が指定した文化財保存活用支援団体
⑷ 文化財の所有者、学識経験者、商工関係団体、観光関係団体その他町長が必要と認める者

その他民間団体等

王寺町観光ボランティアガイドの会
・活動内容：観光ガイド及びガイドのための学習活動など
・会 員 数：36 名（平成 30 年４月現在）
片岡八郎公顕彰会
・活動内容：片岡八郎公顕彰のための花折塚参拝及び達磨寺墓所の慰霊法要など
・会 員 数：42 名（平成 30 年 11 月現在）

奈良県や域外の関係機関等との連携

奈良県教育委員会事務局　文化財保存課・文化財保存事務所
奈良県地域振興部　文化資源活用課・奈良県立橿原考古学研究所・奈良県立図書情報館・
奈良県立民俗博物館・奈良県立美術館
奈良県東京事務所　情報発信課
文化庁、奈良国立博物館、奈良文化財研究所
奈良女子大学、奈良教育大学、奈良県立大学、帝塚山大学、天理大学、奈良大学　他

６－３．事務処理特例の適用

（１）事務処理の特例

認定地域計画の主体的かつ円滑な推進を図るため、王寺町の判断により実施することができる特例対象の事務の範囲は次のとおりです。

【事務処理の特例】

①次に掲げる重要文化財の現状変更等の許可、取消し、停止命令

・建造物である重要文化財と一体のものとして当該重要文化財に指定された土地その他の物件（建造物を除く）の現状変更

・金属、石又は土でつくられた重要文化財の型取り

②重要文化財の所有者以外の者による公開の許可、取消し、停止命令

（当該重要文化財が王寺町内に所在するものである場合に限る）

③重要文化財の現状等に関する報告徴収及び調査

（上記の現状変更等の許可の申請に係るものに限る）

なお、上記事務の実施を希望する際には、奈良県と事前に相談を行った上で進めていきます。

（２）文化財登録原簿への登録の提案

未指定文化財のうち、滅失・散逸等の危機にあるものに対して速やかな保護措置を講じるとともに、指定文化財に比べて穏やかな保護制度である登録文化財の仕組みを活用して、所有者等の創意による様々な活用を促進しながら次世代への継承を図ります。

登録の提案にあたっては、当該文化財が登録基準を満たすかどうかを王寺町文化財保護審議会の意見を聴き、奈良県と相談を行った上で進めていきます。

王寺町文化財保存活用地域計画

平成 31 年 3 月　作成
令和 元 年 7 月　認定

奈良県北葛城郡王寺町元町 1 丁目 9 番 28 号
王寺町　地域交流課　文化資源活用係
TEL　0745-72-6565
E-mail　bunkazai@town.oji.nara.jp

平成31年度文化庁文化芸術振興費補助金
（地域文化財総合活用推進事業）